
<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. ボランティア・NPO活動について

(1) ボランティアやNPO活動に対する関心度

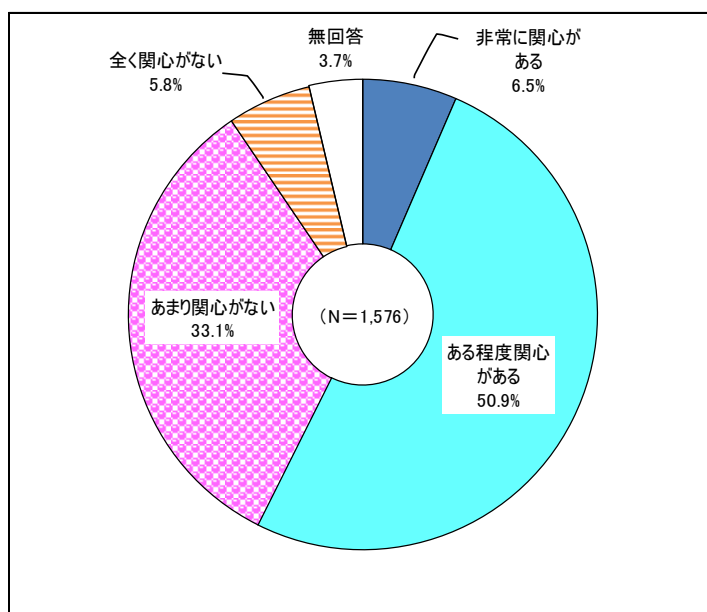
問1 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 非常に興味がある	6.5%
2 ある程度関心がある	50.9%
3 あまり関心がない	33.1%
4 全く関心がない	5.8%
(無回答)	3.7%

ボランティアやNPO活動に対する関心度について、「ある程度関心がある」(50.9%)が最も多く、次いで「あまり関心がない」(33.1%)、「非常に興味がある」(6.5%)、「全く関心がない」(5.8%)などとなっている。

図表 1-(1)-1 ボランティアやNPO活動に対する関心度



ボランティアやNPO活動に対する関心度について、

性別にみると、男女ともに「ある程度関心がある」が最も高く、その比率は『男性』(47.6%)、『女性』(55.2%)となっており、また「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】が、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】を上回っている。

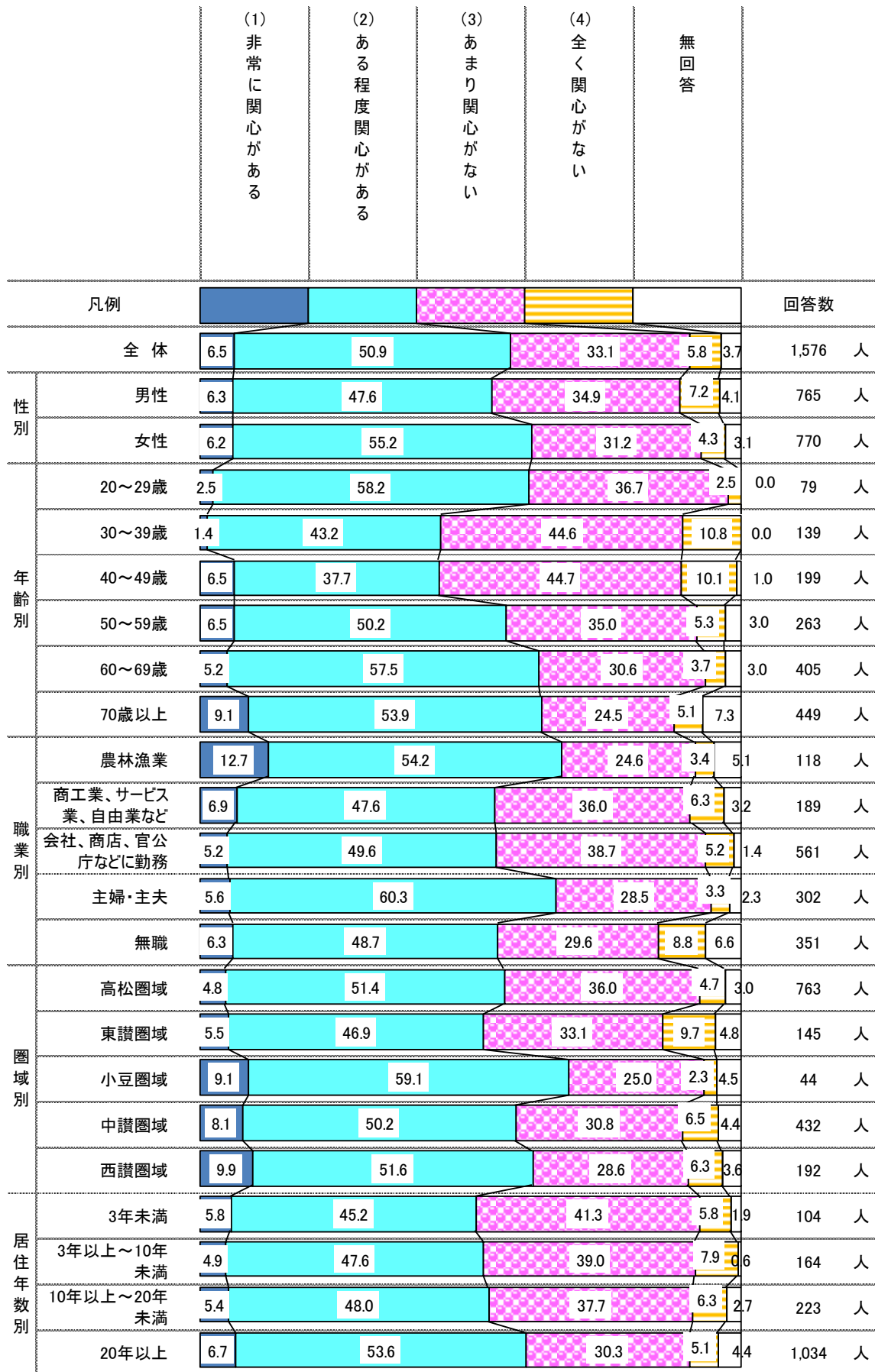
年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』では「あまり関心がない」が最も多く、【関心がない】が【関心がある】を上回っている。そのほかの年齢では、「ある程度関心がある」が半数を超え最も多く、また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に『主婦・主夫』では6割を超えており、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に『20年以上』では半数を超えており、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

図表 1-(1)-2 ボランティアやNPO活動に対する関心度



グラフ単位：(%)

(2) ボランティアやNPO活動の経験の有無

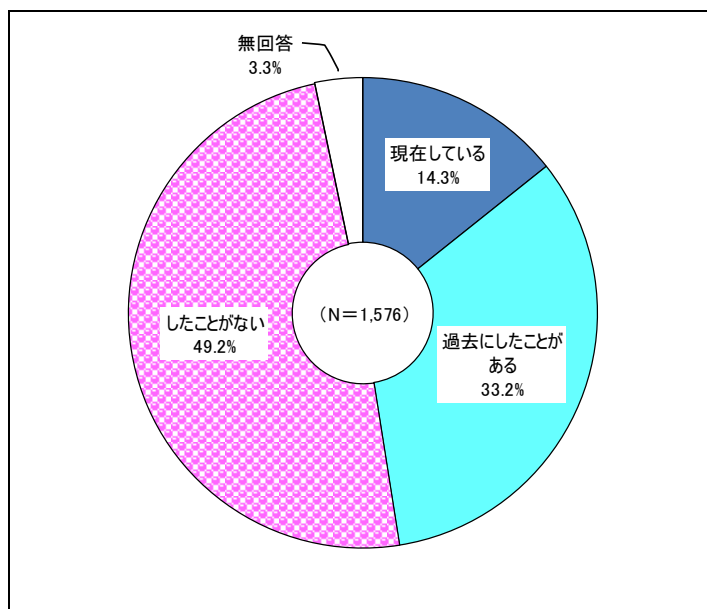
問2 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 現在している	⇒ 付問1にお進みください	14.3%
2 過去にしたことがある	⇒ 付問1および付問3にお進みください	33.2%
3 したことがない	⇒ 付問2および付問3にお進みください	49.2%
(無回答)		3.3%

ボランティアやNPO活動の経験の有無について、「したことがない」(49.2%)が最も多く、次いで「過去にしたことがある」(33.2%)、「現在している」(14.3%)などとなっている。

図表 1-(2)-1 ボランティアやNPO活動の経験の有無



ボランティアやNPO活動の経験の有無について、

性別にみると、男女ともに「したことがない」が最も多く、その比率は『男性』(48.9%)、『女性』(49.9%)となっており、これに「過去にしたことがある」『男性』(32.7%)、『女性』(34.0%)が続いている。

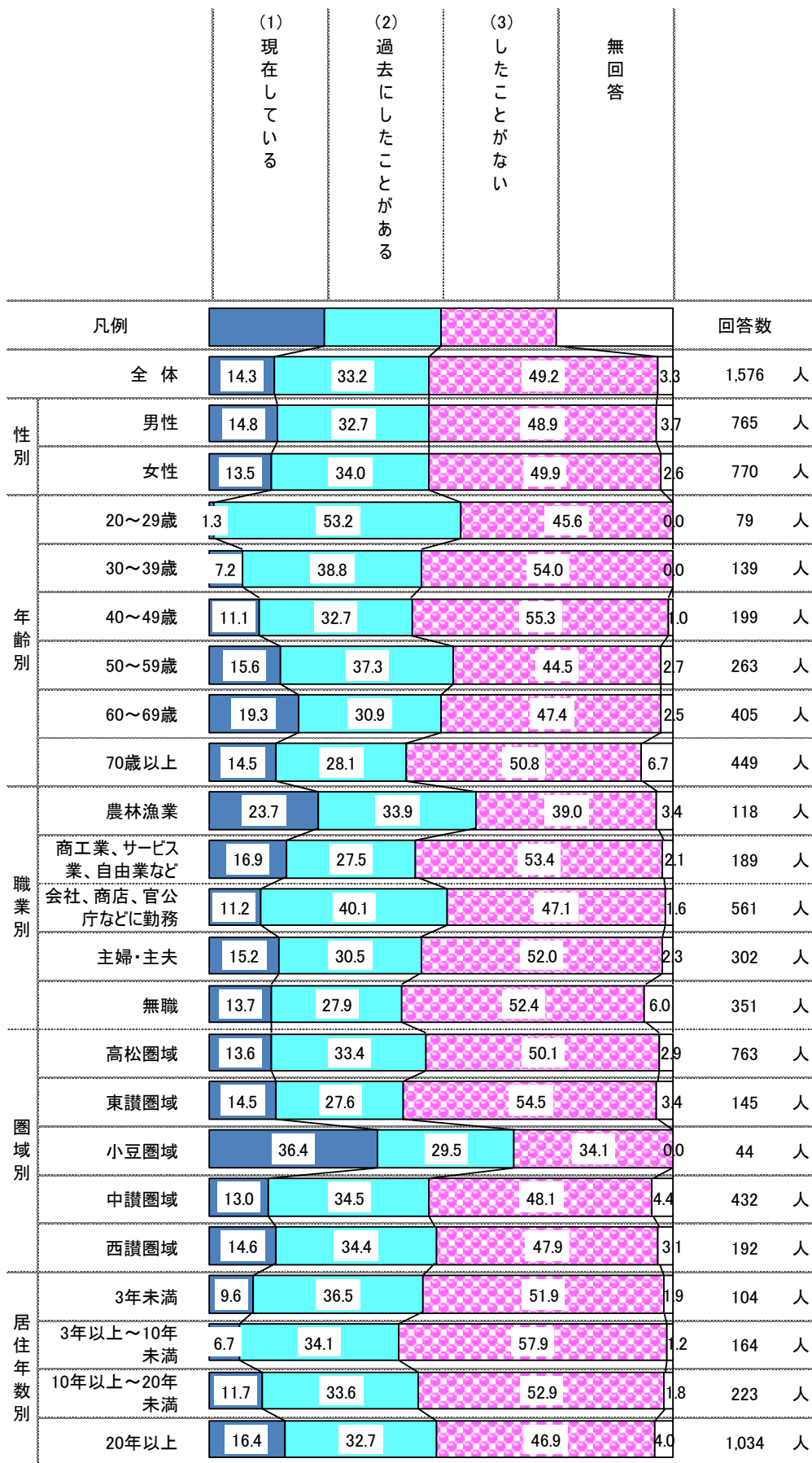
年齢別にみると、『20～29 歳』では「過去にしたことがある」が半数を越えて最も多く、これに「したことがない」が続いている。そのほかの年齢ではいずれも「したことがない」が最も多く、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

職業別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「現在している」が最も多く、これに「したことがない」が続いている。そのほかの圏域では「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

図表 1-(2)-2 ボランティアやNPO活動の経験の有無



グラフ単位：(%)

(3) これまでに経験があるボランティアやNPO活動

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=748】

1	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	41.4%
2	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	10.0%
3	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	59.6%
4	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.7%
5	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	8.3%
6	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	29.7%
7	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	59.2%
8	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	28.1%
9	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	27.9%
10	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	2.5%
11	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	8.3%
12	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	1.5%
13	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	25.3%
14	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	1.1%
15	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.1%
16	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	1.7%
17	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	2.0%
18	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.2%
19	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3%
20	その他（具体的に：)	4.0%
	（無回答）	1.5%

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(59.6%)が最も多く、次いで「環境保全関係」(59.2%)、「保健・医療・福祉関係」(41.4%)、「学術・文化・芸術・スポーツ関係」(29.7%)などとなっている。

図表 1-(3)-1 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	748 人
(1)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	310 人
(2)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	75 人
(3)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	446 人
(4)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	35 人
(5)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	62 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	222 人
(7)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	443 人
(8)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	210 人
(9)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	209 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	19 人
(11)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	62 人
(12)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	11 人
(13)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	189 人
(14)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	8 人
(15)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	1 人
(16)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	13 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	15 人
(18)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	9 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	25 人
(20)	その他	30 人
無回答	1.5	11 人

グラフ単位：(%)

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」(62.3%)が、『女性』では「環境保全関係」(57.7%)が最も多くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』では「環境保全関係」が半数を超え最も多く、『30～39歳』、『40～49歳』では「保健・医療・福祉関係」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「まちづくり関係」がそれぞれ最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「まちづくり関係」が7割を超え最も多く、これに「環境保全関係」が続いている。そのほかの職業では『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「まちづくり関係」、「環境保全関係」が同率で最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「環境保全関係」が、『無職』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「環境保全関係」が半数を超え最も多く、そのほかの圏域では「まちづくり関係」が6割を超え最も多くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「まちづくり関係」が6割を超え最も多く、そのほかでは「環境保全関係」が半数を超え最も多くなっている。

図表 1-(3)-2 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	無回答		
	回答者数(人)	41.4	10.0	59.6	4.7	8.3	29.7	59.2	28.1	27.9	2.5	8.3	1.5	25.3	1.1	0.1	1.7	2.0	1.2	3.3	4.0	1.5	
性別	男性	363	36.1	8.8	62.3	6.1	11.8	27.5	60.6	27.3	30.3	3.3	6.9	1.9	19.8	1.4	0.3	1.1	2.5	1.1	3.0	4.7	2.5
	女性	366	46.7	10.9	56.6	3.6	4.6	31.7	57.7	28.7	25.4	1.9	9.0	1.1	30.1	0.5	-	1.9	1.1	1.4	3.8	3.6	0.5
年齢別	20~29歳	43	51.2	2.3	30.2	-	2.3	9.3	58.1	16.3	-	4.7	-	7.0	-	-	-	2.3	-	4.7	2.3	-	
	30~39歳	64	60.9	4.7	32.8	-	3.1	29.7	40.6	29.7	10.9	1.6	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	3.1	-
	40~49歳	87	49.4	4.6	47.1	3.4	-	47.1	42.5	33.3	24.1	1.1	6.9	1.1	39.1	-	-	2.3	-	4.6	3.4	2.3	-
	50~59歳	139	42.4	7.2	64.7	5.0	4.3	48.2	69.1	28.1	32.4	2.2	10.8	1.4	32.4	-	-	0.7	1.4	0.7	4.3	5.8	-
	60~69歳	203	36.0	9.4	66.5	3.9	10.3	24.1	64.5	30.0	33.5	3.0	8.4	1.5	24.6	2.5	-	2.5	1.5	1.0	2.5	3.0	1.5
	70歳以上	191	34.0	18.3	69.6	8.9	15.7	18.3	60.7	25.7	32.5	4.2	5.2	2.6	22.0	1.0	0.5	2.6	2.6	3.1	4.2	5.2	3.1
職業別	農林漁業	68	32.4	19.1	79.4	5.9	42.6	26.5	70.6	42.6	51.5	1.5	7.4	1.5	32.4	1.5	-	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	-
	商工業、サービス業、自由業など	84	36.9	11.9	52.4	7.1	6.0	29.8	52.4	29.8	21.4	3.6	7.1	-	27.4	-	-	4.8	2.4	4.8	7.1	2.4	1.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	288	48.3	5.2	52.4	1.7	1.7	35.8	56.3	27.4	22.9	1.4	9.0	1.0	26.7	0.3	-	1.4	-	3.1	3.8	1.0	-
	主婦・主夫	138	41.3	13.8	62.3	5.8	7.2	28.3	62.3	27.5	32.6	1.4	8.7	2.9	29.0	1.4	-	2.2	1.4	1.4	1.4	4.3	1.4
	無職	146	35.6	10.3	66.4	8.2	7.5	19.9	61.6	21.9	26.7	6.2	6.2	2.1	13.7	2.1	0.7	2.7	2.1	0.7	4.1	5.5	3.4
地域別	高松圏域	359	37.9	8.4	54.3	4.2	8.4	29.0	59.9	26.2	28.4	1.9	9.5	1.7	25.1	1.1	0.3	2.2	2.2	1.4	3.1	3.9	1.9
	東讃圏域	61	41.0	6.6	62.3	4.9	9.8	29.5	54.1	29.5	19.7	1.6	6.6	-	18.0	-	-	-	-	-	1.6	1.6	-
	小豆圏域	29	48.3	6.9	75.9	6.9	10.3	37.9	62.1	37.9	20.7	6.9	10.3	-	27.6	-	-	3.4	-	6.9	3.4	3.4	-
	中讃圏域	205	42.4	13.2	64.9	5.4	8.8	30.7	60.0	28.3	30.2	3.9	6.8	2.0	24.4	1.0	-	2.0	2.4	1.0	3.9	5.4	1.5
	西讃圏域	94	51.1	12.8	61.7	4.3	5.3	27.7	57.4	30.9	28.7	1.1	7.4	1.1	31.9	2.1	-	2.1	-	4.3	3.2	1.1	
居住年数別	3年未満	48	47.9	4.2	29.2	4.2	2.1	22.9	50.0	22.9	8.3	2.1	6.3	-	10.4	-	-	-	-	-	2.1	4.2	-
	3年以上~10年未満	67	50.7	-	40.3	1.5	-	31.3	58.2	32.8	23.9	1.5	11.9	3.0	31.3	-	-	3.0	-	3.0	6.0	-	
	10年以上~20年未満	101	40.6	9.9	51.5	4.0	5.0	34.7	55.4	28.7	20.8	-	10.9	-	25.7	2.0	-	1.0	-	3.0	4.0	2.0	
	20年以上	508	40.0	11.8	66.9	5.5	10.4	29.1	61.2	27.8	31.9	3.3	6.9	1.8	25.6	1.0	0.2	2.0	2.2	1.8	3.7	3.7	1.8

(4) ボランティアやNPO活動をしたことがない理由

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

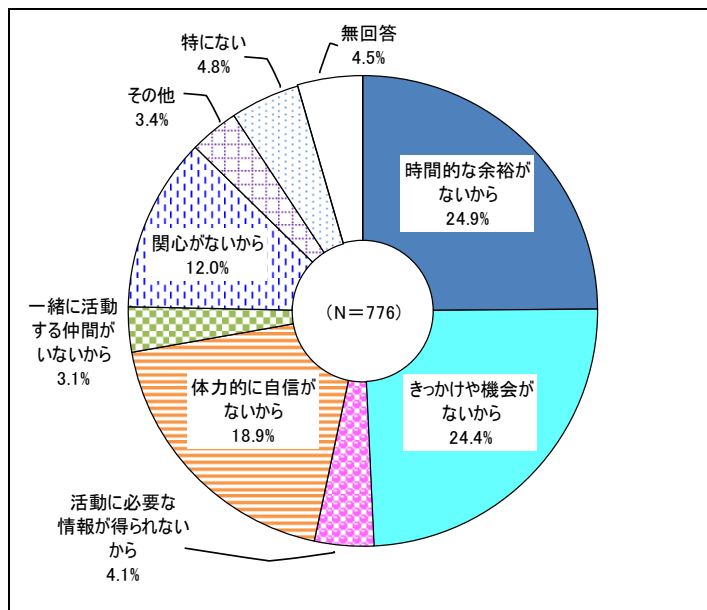
付問2 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=776】

1	時間的な余裕がないから	24.9%
2	きっかけや機会がないから	24.4%
3	活動に必要な情報が得られないから	4.1%
4	体力的に自信がないから	18.9%
5	一緒に活動する仲間がないから	3.1%
6	関心がないから	12.0%
7	その他（具体的に：)	3.4%
8	特にない	4.8%
	(無回答)	4.5%

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」(24.9%)が最も多く、次いで「きっかけや機会がないから」(24.4%)、「体力的に自信がないから」(18.9%)、「関心がないから」(12.0%)などとなっている。

図表 1-(4)-1 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、

性別にみると、『男性』では「時間的な余裕がないから」(26.7%)が最も多く、これに「きっかけや機会がないから」(23.5%)が続いている。『女性』では「きっかけや機会がないから」(25.3%)が最も多く、これに「体力的に自信がないから」(23.7%)が続いている。

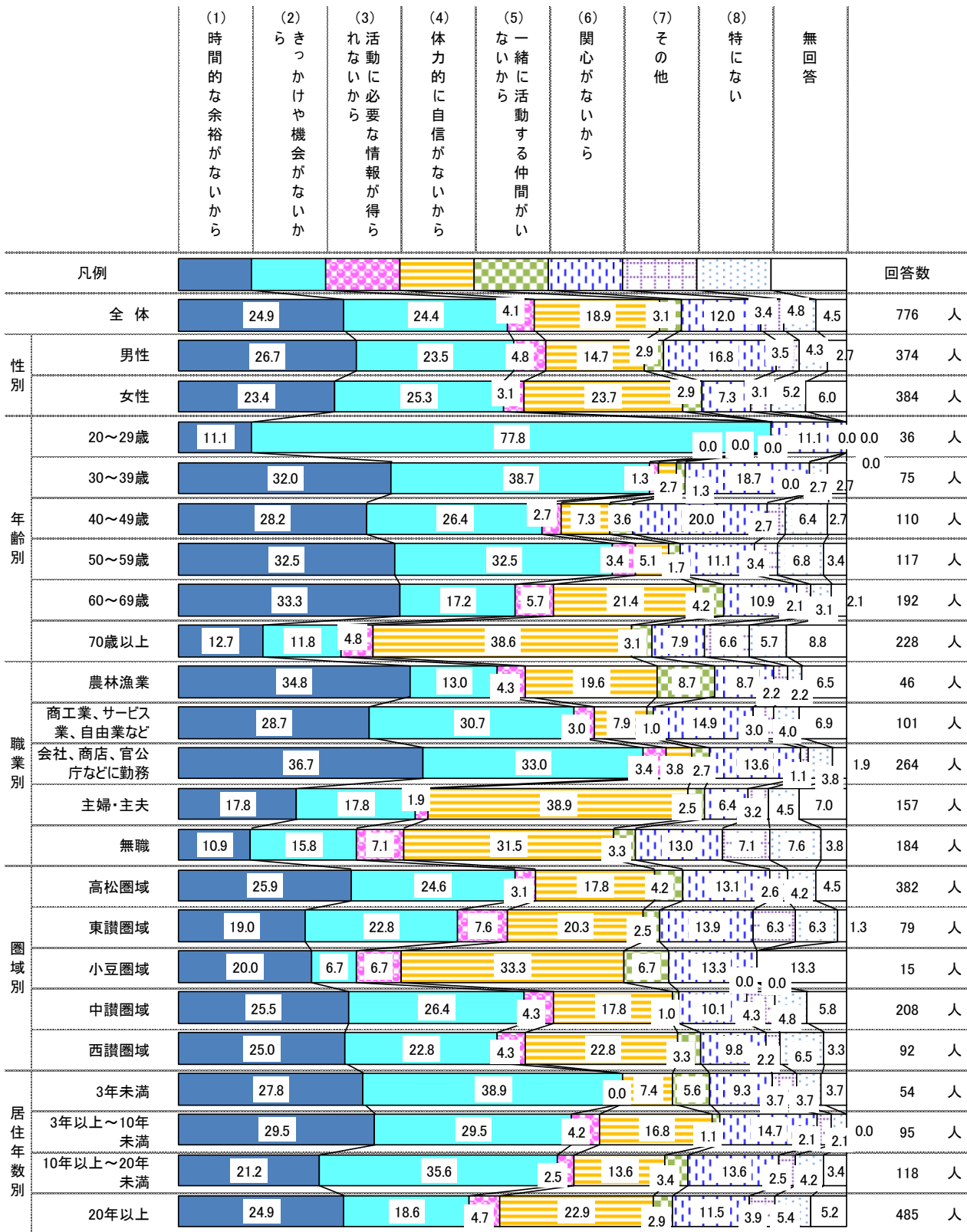
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「きっかけや機会がないから」が最も多く、『40～49歳』、『60～69歳』では「時間的な余裕がないから」が最も多くなっている。また、『50～59歳』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も多く、『70歳以上』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「時間的な余裕がないから」が最も多く、『商工業、サービス業、自由業など』では「きっかけや機会がないから」が最も多くなっている。『主婦・主夫』、『無職』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「時間的な余裕がないから」が最も多く、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「きっかけや機会がないから」が最も多くなっている。また、『小豆圏域』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「きっかけや機会がないから」が最も多く、『20年以上』では「時間的な余裕がないから」が最も多くなっている。また、『3年以上～10年未満』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も多くなっている。

図表 1-(4)-2 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



グラフ単位：(%)

(5) 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか

【問2で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

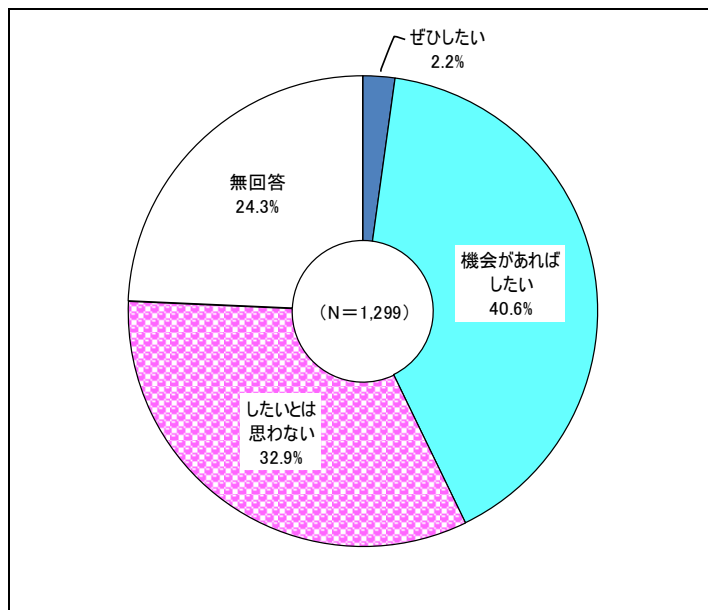
付問3 あなたは、今後ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,299】

1 ぜひしたい	2.2%
2 機会があればしたい	40.6%
3 したいとは思わない	32.9%
(無回答)	24.3%

今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、「機会があればしたい」(40.6%)が最も多く、次いで「したいとは思わない」(32.9%)、「ぜひしたい」(2.2%)などとなっている。

図表 1-(5)-1 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、性別にみると、男女ともに「機会があればしたい」が最も多く、その比率は『男性』(38.3%)、『女性』(43.0%)となっており、これに「ぜひしたい」を合わせた【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「したいとは思わない」が最も多く、【したいと思う】を上回っている。一方そのほかの年齢では「機会があればしたい」が最も多く、【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

職業別にみると、『無職』では「したいとは思わない」が最も多く、【したいと思う】を上回っている。一方そのほかの職業では【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も多くなっている。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も多く、特に『3年未満』では半数を超え最も多くなっている。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

図表 1-(5)-2 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



グラフ単位：(%)

(6) 今後、してみたいボランティアやNPO活動

【付問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3.1 今後してみたいボランティアやNPO活動を問2付問1の1～20までの活動分野から2つまで選んで、番号を記入してください。

①ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=28】

②機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=527】

	①	②
1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	25.0%	19.0%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	7.1%	8.5%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	32.1%	24.7%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	10.7%	11.0%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	17.9%	7.6%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	10.7%	11.6%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	28.6%	28.3%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	14.3%	17.5%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	14.3%	7.6%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	0.0%	1.7%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	3.6%	4.6%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	0.0%	2.5%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	3.6%	12.3%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	3.6%	2.1%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0%	1.1%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0%	1.5%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	3.6%	1.5%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0%	2.3%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	0.0%	1.3%
20 その他（具体的に：)	3.6%	0.2%
（無回答）	3.6%	11.6%

図表 1-(6)-1 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	28 人
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	25.0	7 人
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	7.1	2 人
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	32.1	9 人
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	10.7	3 人
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	17.9	5 人
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	10.7	3 人
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	28.6	8 人
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	14.3	4 人
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	14.3	4 人
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	0.0	- 人
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	3.6	1 人
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	0.0	- 人
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	3.6	1 人
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	3.6	1 人
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.0	- 人
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	0.0	- 人
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	3.6	1 人
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	0.0	- 人
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	0.0	- 人
(20) その他	3.6	1 人
無回答	3.6	1 人

グラフ単位：(%)

図表 1-(6)-2 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	527 人
(1)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	100 人
(2)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	45 人
(3)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	130 人
(4)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	58 人
(5)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	40 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	61 人
(7)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	149 人
(8)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	92 人
(9)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	40 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	9 人
(11)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	24 人
(12)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	13 人
(13)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	65 人
(14)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	11 人
(15)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	6 人
(16)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	8 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	8 人
(18)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	12 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	7 人
(20)	その他	1 人
無回答	11.6	61 人

グラフ単位：(%)

今後ぜひしたいボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(32.1%)が最も多く、次いで「環境保全関係」(28.6%)、「保健・医療・福祉関係」(25.0%)などとなっている。

また、今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、「環境保全関係」(28.3%)が最も多く、次いで「まちづくり関係」(24.7%)、「保健・医療・福祉関係」(19.0%)などとなっている。

今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、

性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」(29.3%)が最も多く、これに「環境保全関係」(28.5%)が続いている。『女性』では「環境保全関係」(28.4%)が最も多く、これに「保健・医療・福祉関係」(24.5%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「保健・医療・福祉関係」が最も多く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「環境保全関係」が最も多くなっている。また、『40～49歳』では「災害救援関係」が最も多くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「まちづくり関係」が最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「環境保全関係」が最も多くなっている。『農林漁業』では「まちづくり関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「環境保全関係」が最も多くなっている。一方『西讃圏域』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。また、『小豆圏域』では「観光の振興関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「災害救援関係」が最も多くなっている。一方『3年以上～10年未満』では「子どもの健全育成関係」が、『20年以上』では「環境保全関係」が最も多くなっている。また、『10年以上～20年未満』では「保健・医療・福祉関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

図表 1-(6)-3 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)				
	回答者数(人)	保健・医療・福祉関係(高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(P・T・A活動、美術指導など)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の基金など)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自防活動など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	職業能力の開発・雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	P・Oに関する相談や活動紹介など)	その他	無回答		
全体	28	25.0	7.1	32.1	10.7	17.9	10.7	28.6	14.3	14.3	-	3.6	-	3.6	-	-	3.6	-	-	-	3.6	3.6		
性別	男性	18	16.7	5.6	44.4	5.6	22.2	16.7	22.2	16.7	22.2	-	-	-	5.6	-	-	5.6	-	-	-	-	-	
	女性	10	40.0	10.0	10.0	20.0	10.0	40.0	10.0	-	-	10.0	-	10.0	-	-	-	-	-	-	10.0	10.0	-	
年齢別	20~29歳	1	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30~39歳	4	25.0	-	50.0	-	25.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	40~49歳	3	-	33.3	66.7	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	50~59歳	7	57.1	-	28.6	28.6	28.6	-	14.3	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	
	60~69歳	7	28.6	-	14.3	-	14.3	14.3	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	
	70歳以上	6	-	16.7	33.3	-	16.7	-	33.3	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
職業別	農林漁業	3	-	-	66.7	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	商工業、サービス業、自由業など	3	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	
	会社、商店、官公庁などに勤務	13	46.2	7.7	46.2	7.7	15.4	15.4	46.2	-	-	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	主婦・主夫	4	-	25.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	
	無職	5	20.0	-	20.0	20.0	-	-	-	40.0	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
圏域別	高松圏域	16	18.8	6.3	25.0	18.8	25.0	12.5	25.0	18.8	18.8	-	-	6.3	6.3	-	-	-	-	-	-	6.3	-	
	東讃圏域	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小豆圏域	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中讃圏域	7	42.9	14.3	28.6	-	-	-	14.3	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	
	西讃圏域	3	33.3	-	33.3	-	-	-	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
居住年数別	3年未満	3	33.3	-	100.0	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3年以上~10年未満	4	-	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	
	10年以上~20年未満	6	16.7	16.7	16.7	-	-	33.3	50.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	
	20年以上	15	33.3	6.7	26.7	13.3	26.7	-	20.0	13.3	20.0	-	6.7	-	6.7	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-	

図表 1-(6)-4 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)						
単位:比率(%)	回答者数(人)	高齢者支援活動、手話・点字などの障害者支援活動など	健康・医療・福祉関係(献血、介護ボランティア活動など)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の基金など)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(P・T・A活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の基金など)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	主防炎活動など	地域安全関係(交通安全、防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	活動推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援活動、青少年非行防止活動など)	技術・IT関係(パソコン技能やIT(情報通信)の普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	消費者保護関係(消費者教育、学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	P・Oに関する相談や活動紹介など	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア、NPOに関する相談や活動紹介など)	その他	無回答
全体	527	19.0	8.5	24.7	11.0	7.6	11.6	28.3	17.5	7.6	1.7	4.6	2.5	12.3	2.1	1.1	1.5	1.5	2.3	1.3	0.2	11.6				
性別	男性	239	13.0	5.4	29.3	13.4	11.7	11.3	28.5	24.3	10.9	1.3	4.2	0.4	6.3	3.8	2.5	2.5	0.8	1.3	0.4	-	10.5			
	女性	278	24.5	11.2	20.9	9.4	4.3	12.2	28.4	11.9	5.0	2.2	5.0	4.3	17.6	0.7	-	0.7	1.8	2.9	2.2	0.4	11.5			
年齢別	20~29歳	55	23.6	1.8	21.8	14.5	5.5	20.0	21.8	1.8	3.6	5.5	5.5	16.4	5.5	1.8	3.6	-	1.8	-	-	1.8	5.5			
	30~39歳	69	29.0	2.9	23.2	10.1	11.6	11.6	17.4	24.6	4.3	-	5.8	2.9	21.7	1.4	1.4	2.9	4.3	2.9	2.9	-	5.8			
	40~49歳	81	24.7	6.2	14.8	19.8	4.9	17.3	19.8	27.2	3.7	3.7	8.6	3.7	14.8	1.2	-	3.7	-	2.5	1.2	-	2.5			
	50~59歳	108	24.1	11.1	25.0	9.3	7.4	13.0	31.5	15.7	9.3	-	5.6	1.9	11.1	4.6	3.7	-	0.9	0.9	0.9	-	7.4			
	60~69歳	125	13.6	12.0	28.8	7.2	6.4	5.6	32.8	12.0	12.8	2.4	2.4	2.4	8.0	-	-	0.8	2.4	1.6	2.4	-	18.4			
	70歳以上	76	1.3	11.8	31.6	10.5	11.8	7.9	42.1	10.5	9.2	1.3	1.3	-	6.6	1.3	-	-	-	3.9	-	-	-	22.4		
職業別	農林漁業	27	11.1	3.7	40.7	7.4	29.6	3.7	40.7	11.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.5		
	商工業、サービス業、自由業など	65	15.4	12.3	29.2	18.5	6.2	7.7	21.5	18.5	12.3	3.1	7.7	-	12.3	1.5	-	1.5	1.5	1.5	3.1	-	10.8			
	会社、商店、官公庁などに勤務	253	24.5	7.9	17.8	11.5	7.1	14.6	28.5	21.7	8.3	2.0	5.1	3.6	13.8	2.8	2.0	2.0	2.0	2.0	1.2	0.4	5.1			
	主婦・主夫	87	19.5	10.3	23.0	6.9	1.1	6.9	31.0	10.3	3.4	1.1	2.3	4.6	18.4	1.1	-	-	1.1	3.4	2.3	-	20.7			
	無職	81	6.2	7.4	38.3	11.1	11.1	13.6	28.4	14.8	8.6	1.2	4.9	-	4.9	2.5	1.2	2.5	-	1.2	-	-	17.3			
地域別	高松圏域	257	21.4	7.4	21.4	9.7	7.4	14.0	26.5	18.3	6.2	1.9	5.1	3.9	14.8	2.7	1.6	2.3	1.9	3.1	2.3	-	8.6			
	東讃圏域	48	27.1	8.3	29.2	20.8	10.4	4.2	35.4	16.7	12.5	-	8.3	2.1	4.2	-	-	-	-	2.1	-	-	6.3			
	小豆圏域	11	9.1	-	9.1	36.4	9.1	9.1	36.4	9.1	18.2	-	9.1	-	18.2	-	-	-	-	-	-	9.1	-	9.1		
	中讃圏域	146	12.3	11.0	26.7	9.6	6.2	10.3	27.4	17.8	6.2	2.1	3.4	0.7	11.0	2.7	1.4	1.4	1.4	1.4	-	0.7	17.1			
	西讃圏域	65	20.0	9.2	32.3	7.7	9.2	10.8	30.8	15.4	10.8	1.5	1.5	1.5	10.8	-	-	-	1.5	1.5	-	-	15.4			
居住年数別	3年未満	49	24.5	4.1	18.4	18.4	6.1	14.3	24.5	28.6	4.1	2.0	4.1	6.1	10.2	2.0	4.1	2.0	2.0	2.0	-	-	6.1			
	3年以上~10年未満	71	18.3	2.8	16.9	12.7	8.5	14.1	16.9	14.1	7.0	-	7.0	5.6	23.9	2.8	1.4	2.8	2.8	4.2	5.6	-	12.7			
	10年以上~20年未満	94	27.7	13.8	17.0	11.7	6.4	10.6	27.7	20.2	5.3	3.2	4.3	2.1	13.8	3.2	1.1	2.1	2.1	-	-	-	5.3			
	20年以上	298	15.4	9.1	30.2	9.7	8.4	11.1	32.6	16.1	9.4	1.7	4.4	1.3	9.4	1.7	0.7	1.0	0.7	2.0	1.0	0.3	12.8			

2. 防災意識・防災対策について

(1)大地震が起こった場合の心配事

問3 あなたは、もし南海トラフ地震のような大地震が起こった場合、どのようなことが心配ですか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	建物の倒壊	67.4%
2	火災の発生	27.7%
3	電気、水道、ガスの供給停止	50.2%
4	食料や飲料水の確保	46.4%
5	津波や浸水、堤防の決壊	19.9%
6	タンスなど家具類の転倒	6.4%
7	迅速な医療の提供	15.1%
8	土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	15.9%
9	電話などの通信機能の不通	13.6%
10	道路の混雑や不通	6.2%
11	治安の混乱	6.9%
12	日用品の確保	10.0%
13	電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.2%
14	心配だと思わない	0.8%
15	その他（具体的に：)	3.0%
	（無回答）	1.0%

大地震が起こった場合の心配事について、「建物の倒壊」（67.4%）が最も多く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」（50.2%）、「食料や飲料水の確保」（46.4%）、「火災の発生」（27.7%）などとなっている。

図表 2-(1)-1 大地震が起こった場合の心配事

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 建物の倒壊	67.4	1,062 人
(2) 火災の発生	27.7	436 人
(3) 電気、水道、ガスの供給停止	50.2	791 人
(4) 食料や飲料水の確保	46.4	731 人
(5) 津波や浸水、堤防の決壊	19.9	314 人
(6) タンスなど家具類の転倒	6.4	101 人
(7) 迅速な医療の提供	15.1	238 人
(8) 土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	15.9	250 人
(9) 電話などの通信機能の不通	13.6	214 人
(10) 道路の混雑や不通	6.2	98 人
(11) 治安の混乱	6.9	109 人
(12) 日用品の確保	10.0	158 人
(13) 電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.2	19 人
(14) 心配だと思わない	0.8	13 人
(15) その他	3.0	47 人
無回答	1.0	16 人

グラフ単位：(%)

大地震が起こった場合の心配事について、

性別にみると、男女ともに「建物の倒壊」が6割を超え最も多く、その比率は『男性』(69.8%)、『女性』(64.9%)となっており、これに「電気、水道、ガスの供給停止」『男性』(50.2%)、『女性』(50.5%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「建物の倒壊」が半数を越え最も多くなっている。これに『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「食料や飲料水の確保」が、そのほかの年齢では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

職業別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超え最も多く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水の確保」が、そのほかの職業では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超え最も多くなっている。これに『西讃圏域』では「食料や飲料水の確保」が、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、『小豆圏域』では「電気、水道、ガスの供給停止」、「食料や飲料水の確保」が同率で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「建物の倒壊」が半数を超え最も多く、特に『20年以上』が7割を超え最も多くなっている。これに『20年以上』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、そのほかでは「食料や飲料水の確保」が続いている。

図表 2-(1)-2 大地震が起こった場合の心配事

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)		
		回答者数(人)	建物の倒壊	火災の発生	電気、水道、ガスの供給停止	食料や飲料水の確保	津波や浸水、堤防の決壊	タンスなど家具類の転倒	迅速な医療の提供	土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	電話などの通信機能の不通	道路の混雑や不通	治安の混乱	日用品の確保	電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	心配だと思わない	その他	無回答
単位: 比率(%)																		
全体		1,576	67.4	27.7	50.2	46.4	19.9	6.4	15.1	15.9	13.6	6.2	6.9	10.0	1.2	0.8	3.0	1.0
性別	男性	765	69.8	29.3	50.2	45.0	19.2	6.5	14.6	18.4	10.8	6.7	7.7	9.0	0.4	0.9	2.0	0.9
	女性	770	64.9	25.6	50.5	47.9	21.0	6.5	15.7	13.4	16.4	5.7	6.1	11.0	1.8	0.8	4.0	0.9
年齢別	20～29歳	79	67.1	15.2	29.1	57.0	25.3	1.3	20.3	8.9	31.6	3.8	11.4	13.9	2.5	1.3	5.1	-
	30～39歳	139	68.3	23.0	43.2	51.8	26.6	6.5	13.7	12.2	11.5	4.3	12.2	14.4	1.4	-	5.0	-
	40～49歳	199	59.8	24.1	46.7	57.8	22.6	6.0	19.1	11.1	16.6	3.5	7.5	10.1	-	1.0	7.0	0.5
	50～59歳	263	67.3	24.0	55.9	51.7	16.0	5.7	11.4	16.3	8.4	5.7	9.1	14.1	0.8	0.8	3.8	0.8
	60～69歳	405	71.4	29.4	50.9	40.7	22.5	6.4	14.6	20.5	11.4	8.1	6.4	7.4	1.5	0.5	0.7	1.0
	70歳以上	449	66.6	32.7	54.1	39.4	16.9	8.2	15.6	16.0	15.1	6.9	3.6	7.8	1.1	1.3	1.8	1.6
職業別	農林漁業	118	66.9	23.7	48.3	32.2	21.2	6.8	11.9	28.8	14.4	6.8	6.8	5.1	-	1.7	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	69.8	36.0	49.7	46.0	13.8	4.8	13.8	15.9	15.3	5.3	7.4	10.6	-	-	2.1	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	66.1	24.8	47.1	54.9	22.6	5.3	14.6	14.8	13.5	6.2	8.4	11.8	1.1	0.4	3.6	0.2
	主婦・主夫	302	63.2	25.5	58.6	41.1	18.2	7.0	14.6	15.2	15.6	6.6	5.6	11.6	1.7	1.3	4.0	1.0
	無職	351	71.2	29.6	49.9	42.7	20.8	8.8	17.9	14.0	10.5	6.0	5.1	7.4	1.7	1.4	2.0	0.9
圏域別	高松圏域	763	65.5	28.6	52.3	45.1	18.3	7.1	15.2	16.4	14.2	6.4	7.1	11.0	1.0	1.0	2.5	0.9
	東讃圏域	145	72.4	24.1	44.1	42.1	25.5	4.8	13.1	24.1	15.2	6.9	4.1	11.7	0.7	0.7	1.4	0.7
	小豆圏域	44	72.7	25.0	50.0	50.0	27.3	-	18.2	15.9	11.4	2.3	-	4.5	-	-	6.8	2.3
	中讃圏域	432	64.6	27.3	52.3	48.4	18.8	6.5	15.7	13.2	13.4	6.9	7.2	8.6	1.9	0.9	3.9	1.4
	西讃圏域	192	76.0	28.1	41.7	49.5	22.9	6.3	14.1	13.5	10.9	4.2	9.4	9.4	1.0	-	3.1	0.5
居住年数別	3年未満	104	55.8	15.4	45.2	54.8	22.1	3.8	19.2	11.5	14.4	6.7	13.5	12.5	1.9	2.9	4.8	1.9
	3年以上～10年未満	164	59.1	27.4	47.0	51.8	21.3	6.1	20.1	8.5	18.3	6.1	9.8	10.4	1.8	1.8	4.9	-
	10年以上～20年未満	223	59.2	24.2	55.2	55.6	19.7	4.5	11.7	13.0	17.0	5.4	7.2	14.3	0.4	-	5.4	-
	20年以上	1,034	71.5	29.3	50.7	42.6	20.0	7.1	14.7	18.3	11.9	6.4	5.7	8.8	1.0	0.7	2.0	1.2

(2) 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

問4 あなたは、南海トラフ地震に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9%
2	近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2%
3	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9%
4	風呂などに水をためおきするようになっている	16.1%
5	食料や飲料水を備蓄している ⇒付問1にお進みください	27.4%
6	消火器や消火用のバケツを準備している	14.3%
7	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2%
8	自分の家の耐震性を強化している	7.4%
9	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8%
10	防災訓練に積極的に参加している	14.1%
11	特に何もしていない	25.8%
12	その他（具体的に：)	1.5%
	(無回答)	1.8%

南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」(65.9%)が最も多く、次いで「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(41.2%)、「食料や飲料水を備蓄している」(27.4%)などとなっている。

図表 2-(2)-1 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9	1,039 人
(2) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2	650 人
(3) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9	329 人
(4) 風呂などに水をためおきするようになっている	16.1	254 人
(5) 食料や飲料水を備蓄している	27.4	432 人
(6) 消火器や消火用のバケツを準備している	14.3	226 人
(7) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2	192 人
(8) 自分の家の耐震性を強化している	7.4	117 人
(9) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8	202 人
(10) 防災訓練に積極的に参加している	14.1	223 人
(11) 特に何もしていない	25.8	406 人
(12) その他	1.5	23 人
無回答	1.8	28 人

グラフ単位：(%)

南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策について、性別にみると、男女ともに「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多く、その比率は『男性』(64.3%)、『女性』(67.8%)となっており、これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」『男性』(37.4%)、『女性』(45.5%)が続いている。

年齢別にみると、全ての年齢で「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。『20～29歳』では「特に何もしていない」が4割を超え他の年齢と大きく離れている。

職業別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超え最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超え最も多く、特に『小豆圏域』では7割を超え最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多く、特に『20年以上』では7割を超え最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

図表 2-(2)-2 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	近くの学校や公園など避難場所を決めている	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	風呂などに水をためおきするようにしている	食料や飲料水を備蓄している	消火器や消火用のバケツを準備している	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	自分の家の耐震性を強化している	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	防災訓練に積極的に参加している	特に何もしていない	その他	無回答
単位: 比率(%)															
全体		1,576	65.9	41.2	20.9	16.1	27.4	14.3	12.2	7.4	12.8	14.1	25.8	1.5	1.8
性別	男性	765	64.3	37.4	20.7	14.1	25.8	14.5	13.9	8.1	11.0	15.4	26.7	1.4	1.7
	女性	770	67.8	45.5	21.2	18.6	29.2	14.0	10.5	6.9	14.4	12.2	25.5	1.6	1.6
年齢別	20~29歳	79	34.2	24.1	11.4	2.5	13.9	3.8	3.8	2.5	10.1	1.3	45.6	-	-
	30~39歳	139	43.9	33.1	12.2	8.6	16.5	2.9	7.9	10.8	9.4	10.1	30.2	1.4	0.7
	40~49歳	199	54.8	38.7	14.1	13.6	24.1	7.5	12.6	7.5	12.1	6.5	31.2	3.5	-
	50~59歳	263	63.9	38.4	15.6	11.8	32.7	12.9	13.3	7.2	9.9	11.4	26.2	1.1	0.8
	60~69歳	405	74.1	46.4	21.0	19.5	32.1	17.3	12.8	7.2	11.4	18.3	21.5	1.0	1.0
	70歳以上	449	78.2	45.7	31.4	22.3	27.6	20.5	13.8	7.8	17.6	17.8	23.2	1.6	4.0
職業別	農林漁業	118	74.6	52.5	18.6	21.2	28.0	18.6	11.0	12.7	16.9	31.4	16.1	1.7	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	64.6	33.9	22.8	16.9	28.6	11.6	10.1	7.9	8.5	9.0	27.5	1.1	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	56.3	39.4	13.5	12.3	23.0	9.4	10.7	7.5	10.7	9.4	29.9	1.6	0.5
	主婦・主夫	302	75.2	51.7	26.5	21.2	35.1	15.9	14.6	7.9	17.5	16.2	20.2	0.7	1.3
	無職	351	72.4	37.6	27.4	16.8	27.9	20.5	14.5	5.4	13.1	15.4	27.4	1.7	2.6
圏域別	高松圏域	763	66.7	40.6	21.0	16.9	27.7	13.2	13.5	6.9	12.6	14.0	25.6	1.0	1.4
	東讃圏域	145	59.3	31.7	20.7	16.6	26.9	15.9	10.3	4.8	8.3	17.9	29.7	0.7	2.1
	小豆圏域	44	70.5	50.0	13.6	9.1	29.5	13.6	13.6	9.1	9.1	18.2	22.7	-	2.3
	中讃圏域	432	67.4	44.2	22.7	17.6	29.6	14.1	10.6	9.3	16.4	13.7	24.8	2.5	0.9
	西讃圏域	192	63.5	42.2	18.2	10.9	21.4	18.2	11.5	6.8	9.9	12.0	26.6	1.6	4.7
居住年数別	3年未満	104	42.3	27.9	16.3	4.8	19.2	1.9	7.7	10.6	8.7	2.9	37.5	1.0	1.9
	3年以上~10年未満	164	51.2	38.4	15.2	12.8	23.2	6.1	9.8	9.1	12.8	7.9	28.7	0.6	-
	10年以上~20年未満	223	59.6	40.4	15.7	12.6	29.1	9.4	14.3	6.7	9.9	5.4	30.9	3.1	1.3
	20年以上	1,034	72.7	43.8	23.6	18.9	29.0	17.9	12.8	7.2	13.9	17.7	23.4	1.3	1.6

(3)ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量

【問4で「5」と答えた方にお聞きします】

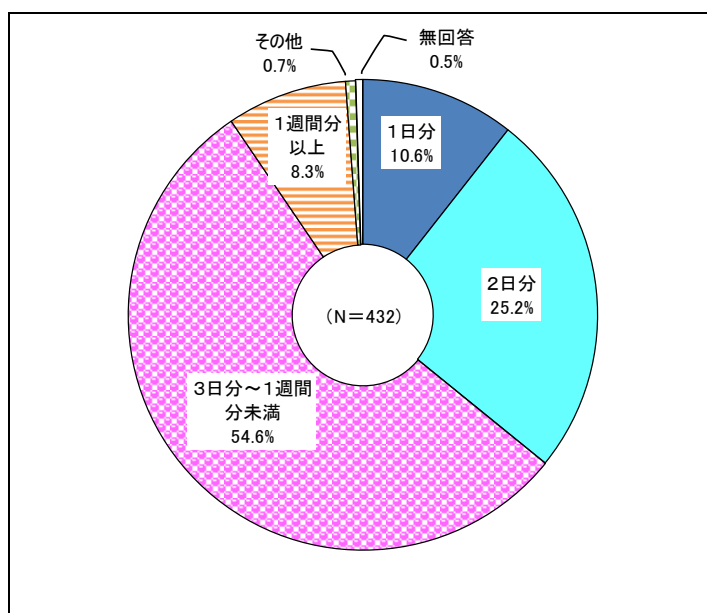
付問1 地震により交通手段、電気、水道などライフラインが途絶した場合に備えて、食料、飲料水などを何日分備蓄していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=432】

1	1日分	10.6%
2	2日分	25.2%
3	3日分～1週間分未満	54.6%
4	1週間分以上	8.3%
5	その他（理由： （無回答）	0.7% 0.5%

ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量について、「3日分～1週間分未満」（54.6%）が最も多く、次いで「2日分」（25.2%）、「1日分」（10.6%）、「1週間分以上」（8.3%）などとなっている。

図表 2-(3)-1 ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量



ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量について、性別にみると、男女ともに「3日分～1週間分未満」が最も多く、その比率は『男性』（54.3%）、『女性』（55.6%）となっており、これに「2日分」男女とも（24.9%）が続いている。

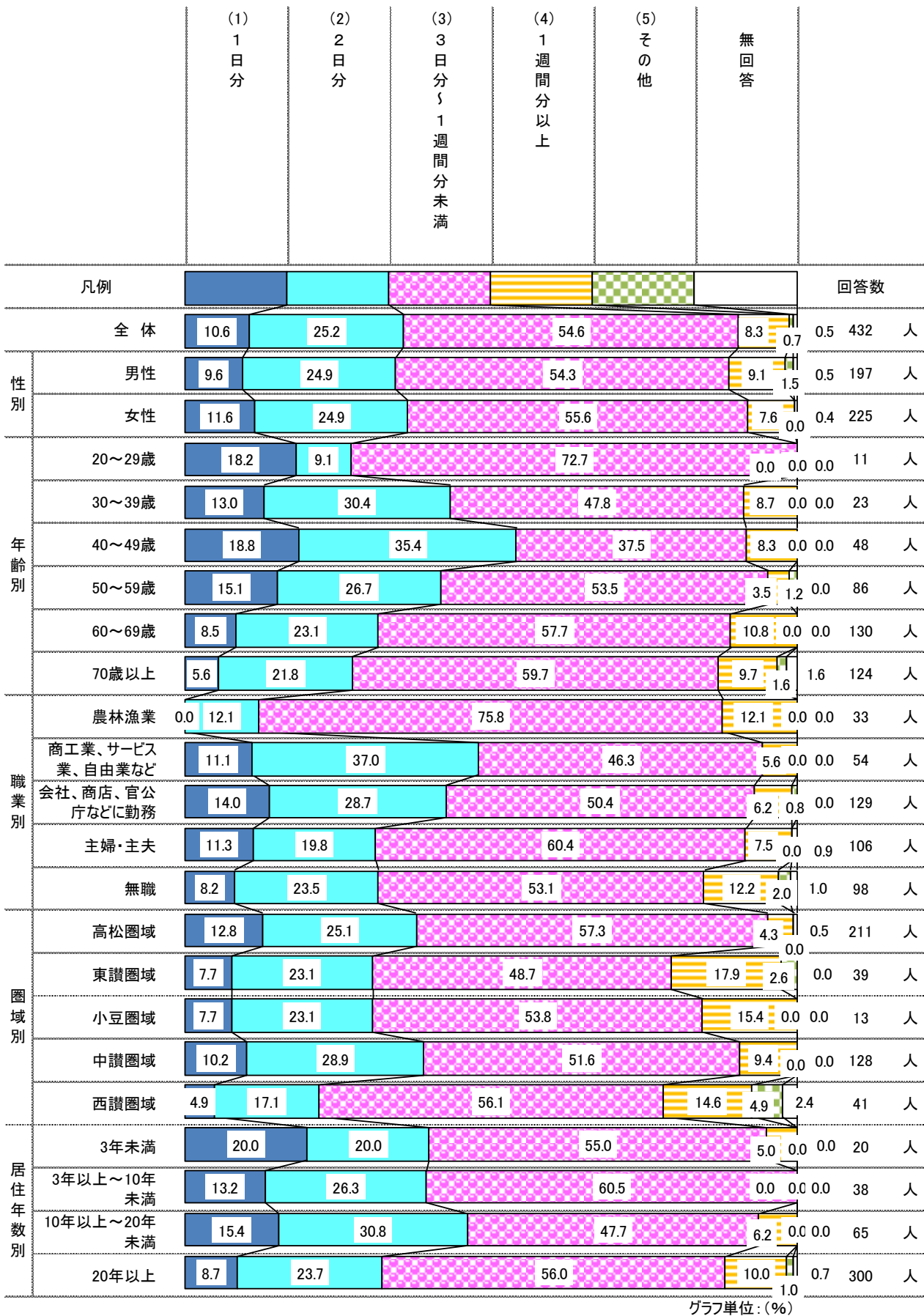
年齢別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『20～29歳』では7割を超えている。『40～49歳』では逆に「3日分～1週間分未満」に「1週間分以上」を合わせても5割に満たない。

職業別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『農林漁業』では7割を超えており、「1週間分以上」を加えると9割近くになる。

圏域別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『3年以上～10年未満』では6割を超え最も多くなっている。

図表 2-(3)-2 ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量



(4) 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

問5 あなたは、南海トラフ地震に備えて、今度どのような対策をとろうと考えていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	44.6%
2 近くの学校や公園など避難場所を決める	32.7%
3 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	51.6%
4 風呂などに水をためおきするようにする	14.3%
5 食料や飲料水を備蓄準備する	52.6%
6 消火器や消火用のバケツを準備する	14.4%
7 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	29.3%
8 自分の家の耐震性を強化する	12.4%
9 家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	42.4%
10 防災訓練に積極的に参加する	21.7%
11 特に何もしない	8.1%
12 その他（具体的に：)	1.5%
(無回答)	3.2%

南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策について、「食料や飲料水を備蓄準備する」(52.6%)が最も多く、次いで「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」(51.6%)、「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」(44.6%)、「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」(42.4%)などとなっている。

図表 2-(4)-1 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	44.6	703 人
(2) 近くの学校や公園など避難場所を決める	32.7	516 人
(3) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	51.6	813 人
(4) 風呂などに水をためおきするようにする	14.3	225 人
(5) 食料や飲料水を備蓄準備する	52.6	829 人
(6) 消火器や消火用のバケツを準備する	14.4	227 人
(7) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	29.3	461 人
(8) 自分の家の耐震性を強化する	12.4	195 人
(9) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	42.4	668 人
(10) 防災訓練に積極的に参加する	21.7	342 人
(11) 特に何もしない	8.1	128 人
(12) その他	1.5	24 人
無回答	3.2	51 人

グラフ単位：(%)

南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策について、

性別にみると、男女ともに「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多く、その比率は『男性』（47.8%）、『女性』（57.7%）となっており、これに「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」『男性』（46.5%）、『女性』（56.9%）が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多くなっているのに対し、『50～59歳』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も多く、『70歳以上』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」が最も多くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多く、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「食料や飲料水を備蓄準備する」と「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が1番目と2番目に多くなっているのに対し、『小豆圏域』は2番目に「家族や親類などと非常時の連絡方法を定める」が多くなっており、比率も5割を超え他と大きく離れている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「食料や飲料水を備蓄準備する」が、そのほかでは「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も多くなっている。

図表 2-(4)-2 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	携帯ラジオや懐中電灯を準備する	近くの学校や公園など避難場所を決める	貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	風呂などに水をためおきするようにする	食料や飲料水を備蓄準備する	消火器や消火用のバケツを準備する	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	自分の家の耐震性を強化する	家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	防災訓練に積極的に参加する	特に何もしない	その他	無回答
単位: 比率(%)															
全体		1,576	44.6	32.7	51.6	14.3	52.6	14.4	29.3	12.4	42.4	21.7	8.1	1.5	3.2
性別	男性	765	42.4	29.9	46.5	11.6	47.8	14.9	27.7	12.5	39.3	21.4	11.1	1.7	2.6
	女性	770	47.1	35.7	56.9	16.6	57.7	14.3	31.3	11.6	46.2	21.9	4.9	1.4	3.5
年齢別	20～29歳	79	29.1	30.4	51.9	1.3	55.7	5.1	27.8	7.6	46.8	12.7	11.4	1.3	-
	30～39歳	139	36.0	25.2	47.5	2.9	63.3	7.2	29.5	5.8	49.6	12.9	7.2	1.4	0.7
	40～49歳	199	34.2	24.1	47.7	8.0	53.8	9.0	31.2	8.5	48.7	18.6	11.6	1.0	-
	50～59歳	263	37.3	22.8	51.3	13.3	47.5	9.1	28.1	13.3	44.5	19.0	9.1	1.9	1.5
	60～69歳	405	44.2	37.3	52.1	16.5	54.1	16.5	29.4	12.8	42.2	25.4	5.7	0.7	2.7
	70歳以上	449	59.9	41.0	55.0	20.9	50.6	22.5	30.1	14.9	37.0	25.6	7.6	2.4	6.9
職業別	農林漁業	118	46.6	36.4	55.9	14.4	53.4	24.6	23.7	14.4	46.6	35.6	5.1	1.7	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	45.5	33.3	56.1	12.2	53.4	14.3	28.6	11.6	45.5	18.5	7.4	0.5	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	37.6	29.2	48.8	8.9	53.8	9.4	26.6	10.2	47.2	18.5	8.4	1.6	1.1
	主婦・主夫	302	51.7	38.1	57.9	22.5	57.0	15.6	35.8	14.9	44.4	25.8	4.3	0.7	4.0
	無職	351	48.7	32.5	47.6	16.0	47.3	19.1	31.3	12.5	32.2	20.2	12.3	2.6	5.4
圏域別	高松圏域	763	41.8	31.8	50.2	15.6	50.9	15.2	29.0	11.7	41.2	20.3	8.3	1.2	3.9
	東讃圏域	145	41.4	24.8	49.7	11.0	46.2	9.0	28.3	12.4	43.4	20.7	11.7	1.4	3.4
	小豆圏域	44	45.5	38.6	65.9	11.4	40.9	15.9	22.7	9.1	56.8	25.0	4.5	2.3	2.3
	中讃圏域	432	48.8	34.0	52.3	14.4	55.1	13.4	29.4	13.4	43.1	23.4	7.4	2.3	1.9
	西讃圏域	192	48.4	38.0	53.6	12.0	61.5	17.2	32.3	13.5	41.7	23.4	7.3	1.0	3.6
居住年数別	3年未満	104	35.6	23.1	44.2	3.8	55.8	6.7	26.0	1.9	42.3	11.5	11.5	1.9	3.8
	3年以上～10年未満	164	39.6	28.0	47.6	7.9	55.5	9.8	31.1	7.3	48.8	18.9	7.9	1.8	1.8
	10年以上～20年未満	223	40.8	36.3	56.1	13.0	55.2	11.2	30.9	9.4	51.6	19.3	6.3	0.9	1.3
	20年以上	1,034	47.3	33.7	52.5	16.4	52.0	17.0	29.3	14.4	40.1	23.8	8.1	1.5	3.4

(5) 自主防災組織への加入の有無

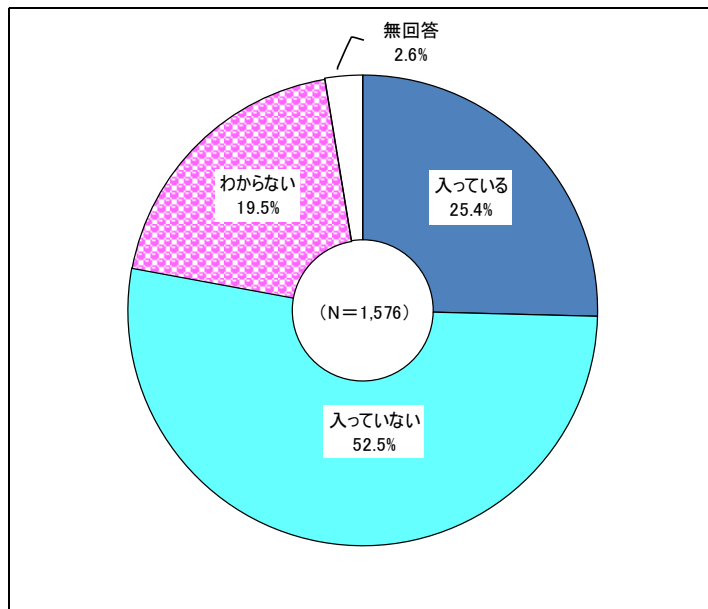
問6 災害から住民を守るため、消防団とは別に、自治会などを単位として、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護などの自主的な防災活動を行う組織を自主防災組織（自主防災会）といいます。あなたは、その自主防災組織に入っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 入っている	25.4%
2 入っていない ⇒付問1にお進みください	52.5%
3 わからない	19.5%
(無回答)	2.6%

自主防災組織への加入の有無について、「入っていない」が52.5%、「入っている」が25.4%、「わからない」が19.5%となっている。

図表 2-(5)-1 自主防災組織への加入の有無



自主防災組織への加入の有無について、

性別にみると、男女ともに「入っていない」が半数を超えており、その比率は『男性』(54.1%)、『女性』(51.4%)となっている。一方、「入っている」は『男性』(28.5%)、『女性』(21.9%)となっている。

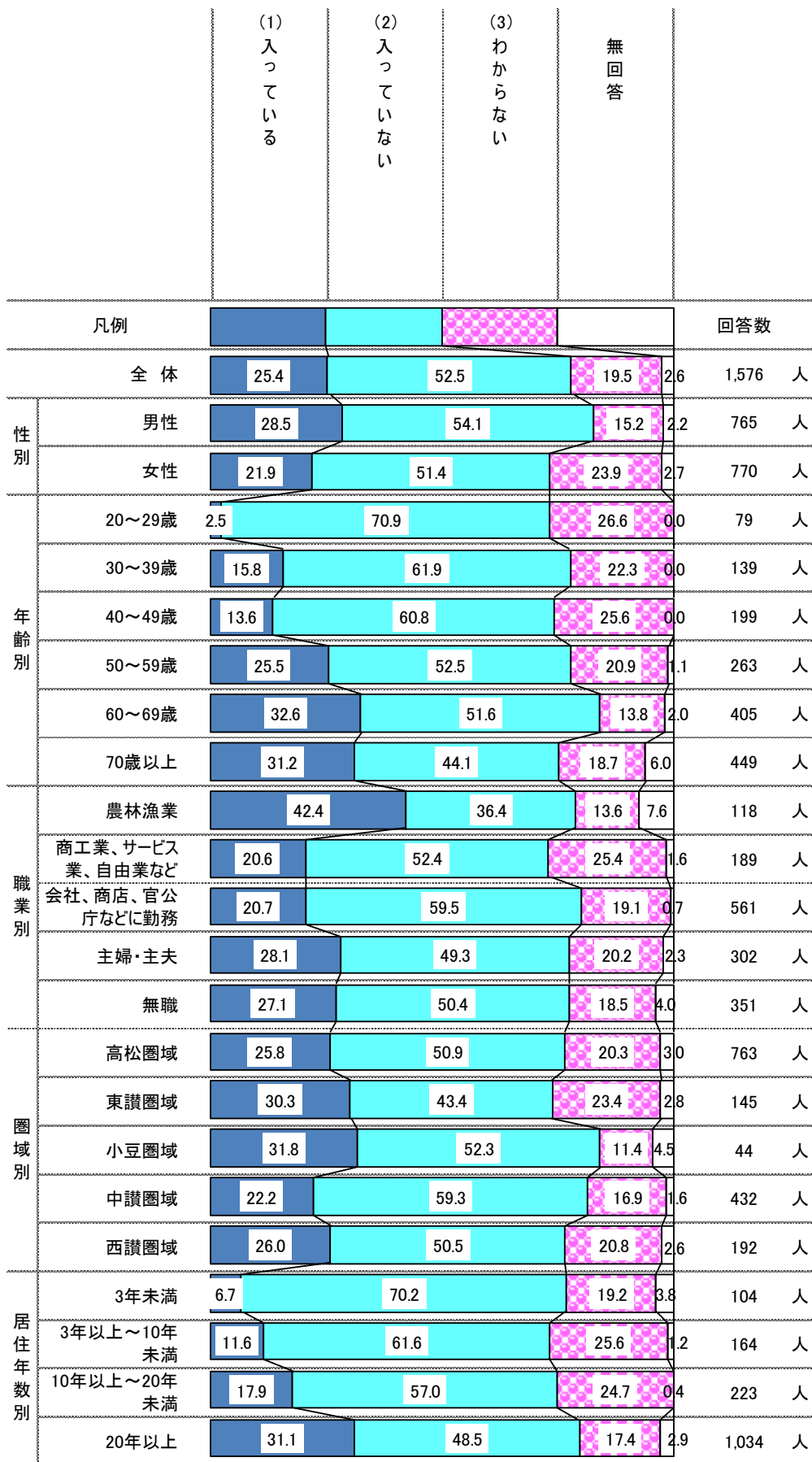
年齢別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『20～29歳』では「入っている」が1割未満となっている。一方『60～69歳』、『70歳以上』では「入っている」が3割を越えている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「入っていない」が「入っている」を上回っている。一方で『農林漁業』では「入っている」の方が多く4割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っている。『東讃圏域』、『小豆圏域』では「入っている」が3割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、『3年未満』では「入っている」が1割未満となっている。『20年以上』では「入っている」が3割を超え、居住年数が長いほど加入割合が高くなっている。

図表 2-(5)-2 自主防災組織への加入の有無



グラフ単位：(%)

(6) 自主防災組織に入っていない理由

【問6で「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 自主防災組織に入っていない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=827】

1 地域に自主防災組織がない	33.9%
2 活動内容がわからない	33.6%
3 時間がない	22.4%
4 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	3.4%
5 地域の活動に関心がない	6.5%
6 自主防災組織が何か知らない	26.2%
7 その他（具体的に： （無回答）	13.3% 2.4%

自主防災組織に入っていない理由について、「地域に自主防災組織がない」(33.9%)が最も多く、次いで「活動内容がわからない」(33.6%)、「自主防災組織が何か知らない」(26.2%)、「時間がない」(22.4%)などとなっている。

図表 2-(6)-1 自主防災組織に入っていない理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	827 人
(1) 地域に自主防災組織がない	33.9	280 人
(2) 活動内容がわからない	33.6	278 人
(3) 時間がない	22.4	185 人
(4) 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	3.4	28 人
(5) 地域の活動に関心がない	6.5	54 人
(6) 自主防災組織が何か知らない	26.2	217 人
(7) その他	13.3	110 人
無回答	2.4	20 人

グラフ単位：(%)

自主防災組織に入っていない理由について、

性別にみると、『男性』では「地域に自主防災組織がない」(33.6%)が、『女性』では「活動内容がわからない」(35.6%)が最も多く、これに『男性』では「活動内容がわからない」(32.1%)が、『女性』では「地域に自主防災組織がない」(33.8%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「自主防災組織が何か知らない」が半数を超え最も多く、『60～69歳』、『70歳以上』では「地域に自主防災組織がない」が最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「地域に自主防災組織がない」が最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「時間がない」が、『農林漁業』では「地域に自主防災組織がない」、「活動内容がわからない」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「活動内容がわからない」が最も多く、そのほかの圏域では「地域に自主防災組織がない」が最も多くなっている。これに『高松圏域』では「自主防災組織が何か知らない」が、『東讃圏域』では「時間がない」が、『西讃圏域』では「地域に自主防災組織がない」が、そのほかの圏域では「活動内容がわからない」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「地域に自主防災組織がない」が、『10年以上～20年未満』では「活動内容がわからない」が、そのほかでは「自主防災組織が何か知らない」が最も多くなっている。

図表 2-(6)-2 自主防災組織に入っていない理由

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		回答者数 (人)	地域に 自主防災組織 がない	活動 内容が わからない	時間 がない	自主 防災組織 は地震発生 時に役に 立たない	地域 の活動に 関心がない	自主 防災組織 が何か 知らない	その他	無 回答
単位：比率(%)										
全体		827	33.9	33.6	22.4	3.4	6.5	26.2	13.3	2.4
性別	男性	414	33.6	32.1	26.3	3.4	8.0	24.6	12.3	2.4
	女性	396	33.8	35.6	18.4	3.3	4.8	28.3	14.1	2.0
年齢別	20～29歳	56	7.1	37.5	28.6	-	5.4	51.8	7.1	3.6
	30～39歳	86	10.5	32.6	29.1	-	8.1	58.1	12.8	1.2
	40～49歳	121	26.4	35.5	27.3	4.1	9.9	28.9	11.6	1.7
	50～59歳	138	29.7	25.4	31.9	1.4	8.7	21.0	17.4	-
	60～69歳	209	40.2	36.8	23.9	3.3	5.3	19.6	10.5	1.9
	70歳以上	198	52.0	34.3	6.6	6.6	3.5	15.2	16.2	4.5
職業別	農林漁業	43	32.6	32.6	27.9	7.0	-	4.7	18.6	2.3
	商工業、サービス業、 自由業など	99	39.4	35.4	19.2	3.0	6.1	24.2	12.1	2.0
	会社、商店、官公庁 などに勤務	334	24.9	33.8	35.0	1.5	8.1	34.4	8.7	0.6
	主婦・主夫	149	40.3	37.6	11.4	3.4	4.0	22.8	14.1	3.4
	無職	177	41.8	30.5	9.0	5.6	6.8	21.5	20.9	4.0
圏域別	高松圏域	388	29.1	36.1	24.0	3.4	7.5	31.2	12.1	2.1
	東讃圏域	63	28.6	34.9	30.2	3.2	7.9	14.3	11.1	4.8
	小豆圏域	23	47.8	34.8	13.0	-	-	13.0	30.4	8.7
	中讃圏域	256	41.0	28.9	18.8	3.5	5.1	25.8	12.5	1.6
	西讃圏域	97	34.0	35.1	22.7	4.1	7.2	18.6	17.5	3.1
居住年数別	3年未満	73	13.7	30.1	24.7	-	5.5	43.8	11.0	2.7
	3年以上～10年未満	101	20.8	37.6	26.7	2.0	8.9	41.6	11.9	1.0
	10年以上～20年未満	127	19.7	40.9	26.8	1.6	8.7	33.1	15.0	0.8
	20年以上	502	42.8	31.5	19.9	4.6	5.6	19.1	13.3	2.6

(7) 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

問7 県に対して、南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9%
2	地震に関する県防災計画の充実	21.1%
3	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5%
4	近県との広域応援体制の確立	14.1%
5	道路、堤防やため池などのハード整備	28.5%
6	市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8%
7	自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3%
8	防災訓練の実施	8.6%
9	災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6%
10	学校での防災教育	9.0%
11	ボランティア活動の支援体制の確立	8.3%
12	その他（具体的に：)	1.7%
13	特にない	2.3%
	(無回答)	3.4%

南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策について、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」(70.9%)が最も多く、次いで「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」(64.5%)、「道路、堤防やため池などのハード整備」(28.5%)、「地震に関する県防災計画の充実」(21.1%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9	1,118 人
(2) 地震に関する県防災計画の充実	21.1	333 人
(3) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5	1,016 人
(4) 近県との広域応援体制の確立	14.1	222 人
(5) 道路、堤防やため池などのハード整備	28.5	449 人
(6) 市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8	123 人
(7) 自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3	162 人
(8) 防災訓練の実施	8.6	135 人
(9) 災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6	293 人
(10) 学校での防災教育	9.0	142 人
(11) ボランティア活動の支援体制の確立	8.3	131 人
(12) その他	1.7	27 人
(13) 特にない	2.3	37 人
無回答	3.4	53 人

グラフ単位：(%)

南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策について、性別にみると、男女ともに「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、その比率は『男性』（66.9%）、『女性』（75.6%）となっており、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」『男性』（63.7%）、『女性』（66.9%）が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が7割を超え最も多くなっており、そのほかの年齢では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多くなっている。これに『20～29歳』では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が、そのほかの年齢では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

職業別にみると、ほとんどの職業で「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、続いて「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が多くなっている。対して、『農林漁業』では逆に「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も多く「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が続いている。また、『農林漁業』では3番目に多い「道路、堤防やため池などのハード整備」が4割を超え、他の職業の比率と大きく離れている。

圏域別にみると、いずれも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

図表 2-(7)-2 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答	
		回答者数（人）	食料、飲料水、医薬品等の備蓄	地震に関する県防災計画の充実	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	近県との広域応援体制の確立	道路、堤防やため池などのハード整備	市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	自主防災組織の結成についての市町への支援	防災訓練の実施	災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	学校での防災教育	ボランティア活動の支援体制の確立	その他	特になし	
単位：比率(%)																
全体		1,576	70.9	21.1	64.5	14.1	28.5	7.8	10.3	8.6	18.6	9.0	8.3	1.7	2.3	3.4
性別	男性	765	66.9	21.8	63.7	13.2	29.9	8.8	11.8	10.1	19.9	7.6	8.9	2.1	2.4	2.6
	女性	770	75.6	20.5	66.9	14.5	26.9	6.8	8.6	7.0	18.1	10.5	7.7	1.2	2.3	3.5
年齢別	20～29歳	79	73.4	20.3	74.7	15.2	32.9	15.2	3.8	7.6	19.0	6.3	5.1	3.8	-	2.5
	30～39歳	139	79.1	22.3	59.7	15.8	28.1	8.6	6.5	7.9	17.3	23.0	6.5	3.6	-	0.7
	40～49歳	199	77.9	20.1	66.3	18.1	26.6	7.5	5.0	7.5	18.1	15.1	5.0	3.0	2.5	0.5
	50～59歳	263	74.1	20.2	67.3	15.6	28.5	8.4	9.5	5.7	18.3	5.3	12.5	1.1	2.7	1.1
	60～69歳	405	66.4	21.7	65.9	15.3	31.9	8.4	13.6	7.9	20.0	7.4	8.9	1.7	1.0	3.2
	70歳以上	449	68.4	21.6	62.8	8.9	25.2	5.3	12.2	11.6	19.4	6.2	8.0	0.2	4.2	6.0
職業別	農林漁業	118	56.8	19.5	62.7	11.0	40.7	10.2	16.1	6.8	19.5	5.9	11.9	-	2.5	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	73.5	26.5	66.1	11.1	24.3	7.9	9.5	5.8	14.8	12.7	6.9	3.7	0.5	3.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	74.0	20.9	67.2	17.8	28.2	7.3	9.3	9.1	21.2	9.4	7.5	1.2	1.2	1.2
	主婦・主夫	302	74.5	20.5	64.2	11.6	28.5	7.9	10.9	8.6	15.9	10.9	7.6	0.7	3.0	3.3
	無職	351	67.8	19.7	63.8	12.0	27.9	7.4	9.4	9.4	19.9	6.3	9.7	2.6	4.6	3.7
圏域別	高松圏域	763	71.8	22.8	62.8	15.1	29.8	7.1	8.7	8.3	18.3	9.8	7.6	1.7	2.1	2.9
	東讃圏域	145	67.6	21.4	58.6	6.9	29.7	13.1	12.4	7.6	14.5	6.2	11.7	0.7	4.1	6.2
	小豆圏域	44	86.4	20.5	75.0	6.8	31.8	6.8	13.6	11.4	9.1	6.8	-	2.3	2.3	-
	中讃圏域	432	69.2	18.5	66.4	16.4	25.2	8.8	11.3	10.2	20.8	8.8	9.7	2.1	1.9	2.5
	西讃圏域	192	70.3	20.3	68.8	12.0	29.2	4.7	12.0	6.3	19.8	8.9	7.3	1.6	3.1	5.7
居住年数別	3年未満	104	77.9	20.2	69.2	13.5	26.0	6.7	6.7	9.6	18.3	10.6	7.7	1.0	2.9	1.9
	3年以上～10年未満	164	80.5	20.7	62.8	15.9	27.4	9.1	3.0	10.4	14.6	17.1	4.9	4.3	3.0	1.8
	10年以上～20年未満	223	73.1	19.3	68.6	23.8	23.3	7.6	11.7	6.7	17.0	10.8	7.2	1.8	-	0.9
	20年以上	1,034	68.7	21.6	64.6	11.6	30.1	7.7	11.4	8.5	20.3	7.4	9.3	1.3	2.7	3.7

(8)地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策

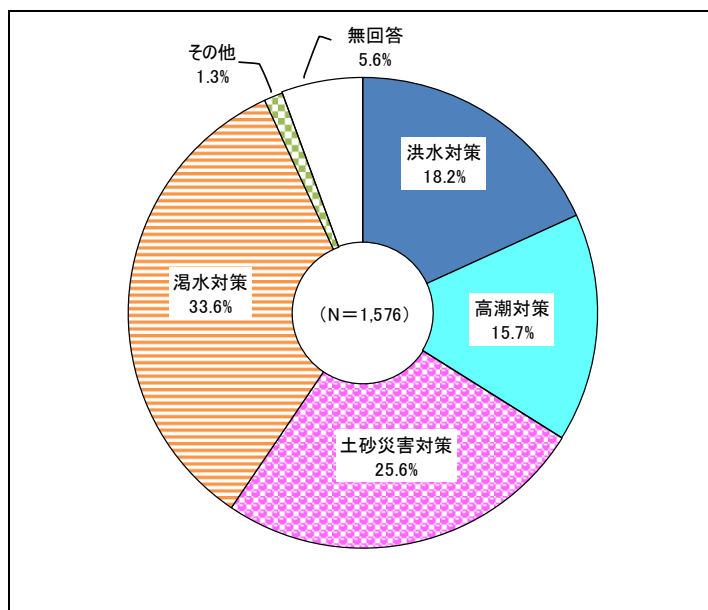
問8 県に対して、地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 洪水対策	18.2%
2 高潮対策	15.7%
3 土砂災害対策	25.6%
4 渇水対策	33.6%
5 その他 (対策)	1.3%
(無回答)	5.6%

地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策について、「渇水対策」(33.6%)が最も多く、次いで「土砂災害対策」(25.6%)、「洪水対策」(18.2%)、「高潮対策」(15.7%)などとなっている。

図表 2-(8)-1 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策



地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策について、

性別にみると、男女ともに「渇水対策」が最も多く、その比率は『男性』(33.6%)、『女性』(33.8%)となっており、これに「土砂災害対策」『男性』(25.9%)、『女性』(25.8%)が続いている。

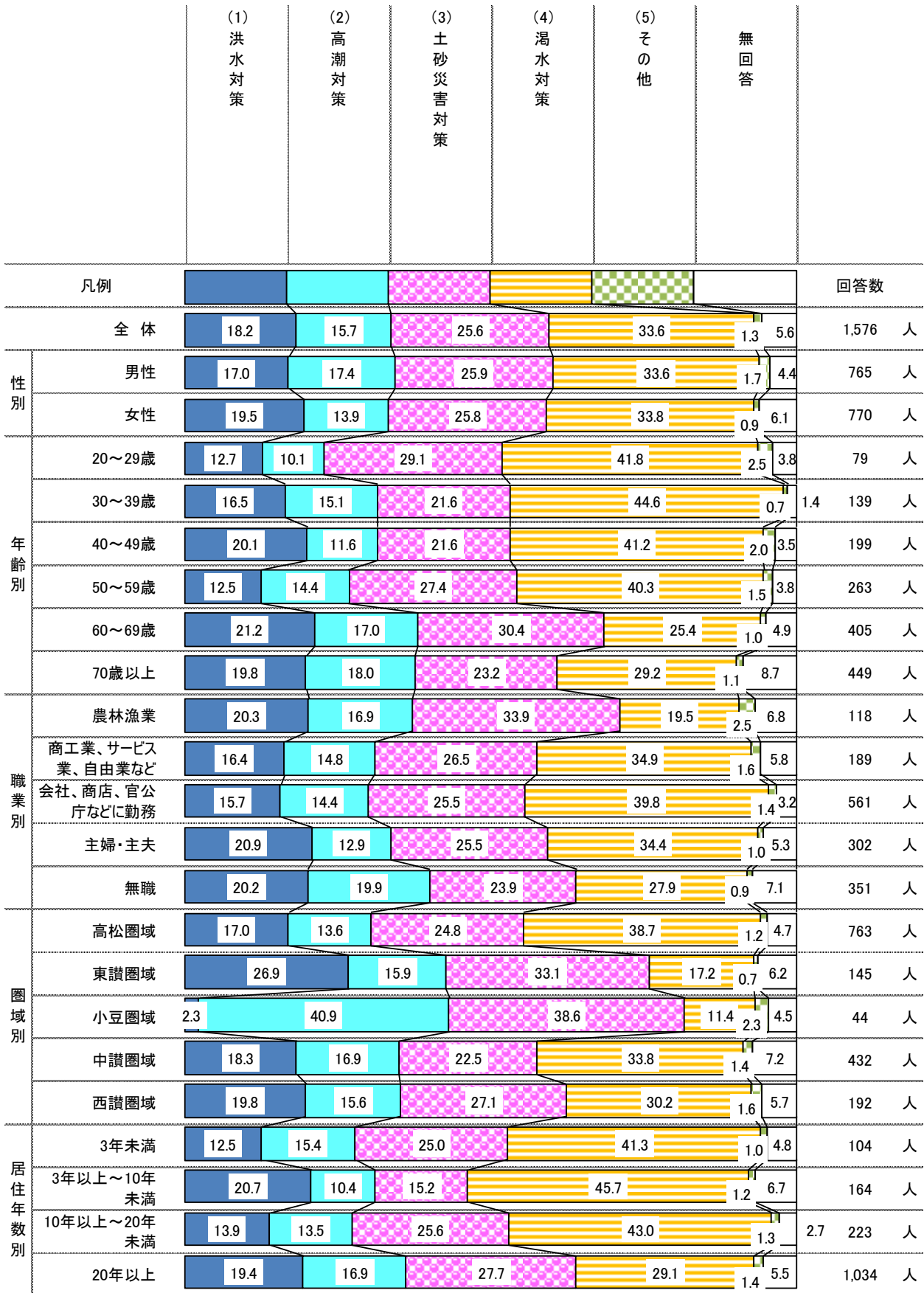
年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「渇水対策」が最も多く、『60～69歳』では「土砂災害対策」が最も多くなっている。これに『60～69歳』では「渇水対策」が、そのほかの年齢では「土砂災害対策」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「土砂災害対策」が最も多く、これに「洪水対策」が続いている。そのほかの職業では「渇水対策」が最も多く、これに「土砂災害対策」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「渇水対策」が、『東讃圏域』では「土砂災害対策」が、『小豆圏域』では「高潮対策」が最も多くなっている。これに『東讃圏域』では「洪水対策」が、そのほかの圏域では「土砂災害対策」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「渇水対策」が最も多くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「洪水対策」が、そのほかでは「土砂災害対策」が続いている。

図表 2-(8)-2 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策



グラフ単位：(%)

(9)ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

問9 土砂災害は、昨年8月に広島市で発生した大規模なものをはじめ、多くの尊い人命を失ってきました。県は、土砂災害から県民の皆様の人命や財産を守るため、土砂災害に対する危険箇所において、砂防ダムなどの施設整備（ハード対策）を行っています。一方で、危険箇所を住民の皆様にも周知するため、警戒区域の指定など、ソフト対策も併せて行うこととしています。そこで、ソフト対策として県に特に力を入れて欲しいものを、次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	67.2%
2	住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	48.8%
3	大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	47.3%
4	砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	11.1%
5	児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	23.1%
6	住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	20.7%
7	住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	15.7%
8	土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	10.7%
	(無回答)	7.6%

ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組みについて、「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」(67.2%)が最も多く、次いで「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」(48.8%)、「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」(47.3%)、「児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供」(23.1%)などとなっている。

図表 2-(9)-1 ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	67.2	1,059 人
(2) 住民参加によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	48.8	769 人
(3) 大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	47.3	745 人
(4) 砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	11.1	175 人
(5) 児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	23.1	364 人
(6) 住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	20.7	326 人
(7) 住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	15.7	247 人
(8) 土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	10.7	168 人
無回答	7.6	119 人

グラフ単位：(%)

ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組みについて、

性別にみると、男女ともに「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が最も多く、その比率は『男性』（66.0%）、『女性』（68.8%）となっており、これに『男性』では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」（51.8%）が、『女性』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」（47.8%）が続いている。

年齢別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『70歳以上』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの年齢では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

職業別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『農林漁業』、『主婦・主夫』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの職業では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『西讃圏域』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの圏域では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『20年以上』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかでは「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

図表 2-(9)-2 ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	無回答	
		回答者数(人)	の土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	住民参加によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	
単位:比率(%)											
全体		1,576	67.2	48.8	47.3	11.1	23.1	20.7	15.7	10.7	7.6
性別	男性	765	66.0	51.8	46.5	10.8	21.3	22.9	13.5	12.0	6.1
	女性	770	68.8	46.9	47.8	11.4	25.6	18.8	17.9	9.6	7.9
年齢別	20～29歳	79	60.8	59.5	50.6	12.7	22.8	17.7	15.2	10.1	5.1
	30～39歳	139	66.2	49.6	46.8	11.5	39.6	18.0	22.3	10.8	1.4
	40～49歳	199	67.8	55.8	51.3	9.5	27.6	13.6	16.1	7.5	2.5
	50～59歳	263	72.2	52.9	52.5	13.7	16.3	18.6	12.2	13.3	4.2
	60～69歳	405	68.9	50.9	46.4	10.6	22.7	23.5	15.6	12.3	5.9
	70歳以上	449	64.8	40.8	42.8	10.5	21.4	24.5	15.8	9.8	13.8
職業別	農林漁業	118	62.7	39.0	50.8	9.3	14.4	27.1	16.1	11.9	11.0
	商工業、サービス業、自由業など	189	66.7	54.5	47.6	14.3	28.0	21.2	12.2	12.2	5.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	68.1	55.1	48.1	11.1	24.8	18.0	16.8	11.8	2.7
	主婦・主夫	302	69.2	41.7	49.3	12.6	25.8	22.5	18.5	8.6	7.0
	無職	351	67.8	47.9	42.2	8.8	19.9	22.2	13.4	10.8	12.5
圏域別	高松圏域	763	68.8	50.9	50.3	10.2	21.9	18.5	14.3	12.2	7.1
	東讃圏域	145	66.2	44.1	40.7	13.1	24.1	25.5	16.6	9.0	7.6
	小豆圏域	44	72.7	59.1	54.5	11.4	22.7	20.5	13.6	4.5	4.5
	中讃圏域	432	66.7	46.3	42.8	12.3	24.1	20.8	18.1	11.1	7.6
	西讃圏域	192	61.5	47.4	48.4	10.4	25.0	25.5	15.6	6.3	9.9
居住年数別	3年未満	104	60.6	52.9	48.1	11.5	28.8	13.5	16.3	12.5	7.7
	3年以上～10年未満	164	64.0	54.9	45.7	13.4	27.4	14.0	19.5	11.6	6.1
	10年以上～20年未満	223	71.3	57.0	48.4	10.3	28.3	15.2	13.5	8.1	2.7
	20年以上	1,034	68.1	46.5	47.1	11.0	21.4	23.9	15.6	11.2	7.9

3. 食習慣・生活習慣について

(1) 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況

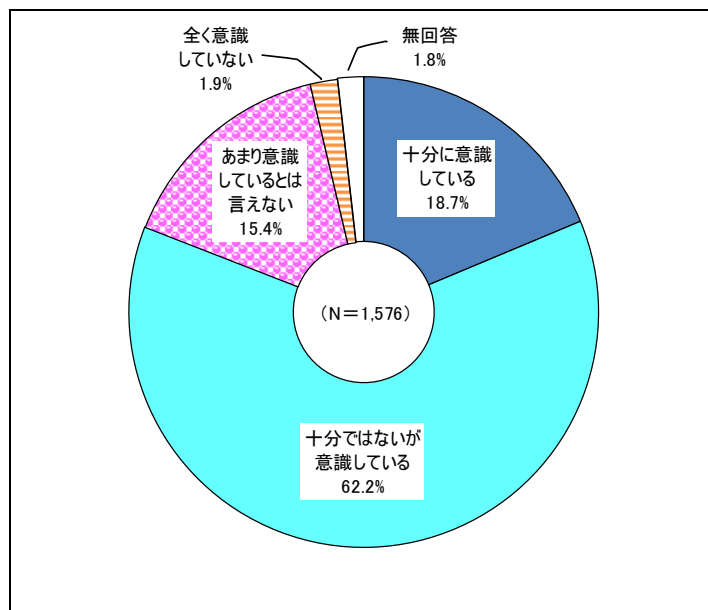
問10 あなたの健康や食生活についてよりよくすることをふだんから意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 十分に意識している	18.7%
2 十分ではないが意識している	62.2%
3 あまり意識しているとは言えない	15.4%
4 全く意識していない	1.9%
(無回答)	1.8%

健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、「十分ではないが意識している」(62.2%)が最も多く、次いで「十分に意識している」(18.7%)、「あまり意識しているとは言えない」(15.4%)、「全く意識していない」(1.9%)などとなっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況



健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、性別にみると、男女ともに「十分でないが意識している」が最も多く、その比率は『男性』(60.1%)、『女性』(64.8%)となっており、これに『男性』では「あまり意識しているとは言えない」(18.7%)が、『女性』では「十分に意識している」(20.5%)が続いている。いずれも「十分に意識している」と「十分でないが意識している」を合わせた【意識している】が「あまり意識しているとは言えない」と「全く意識していない」を合わせた【意識していない】を上回っている。

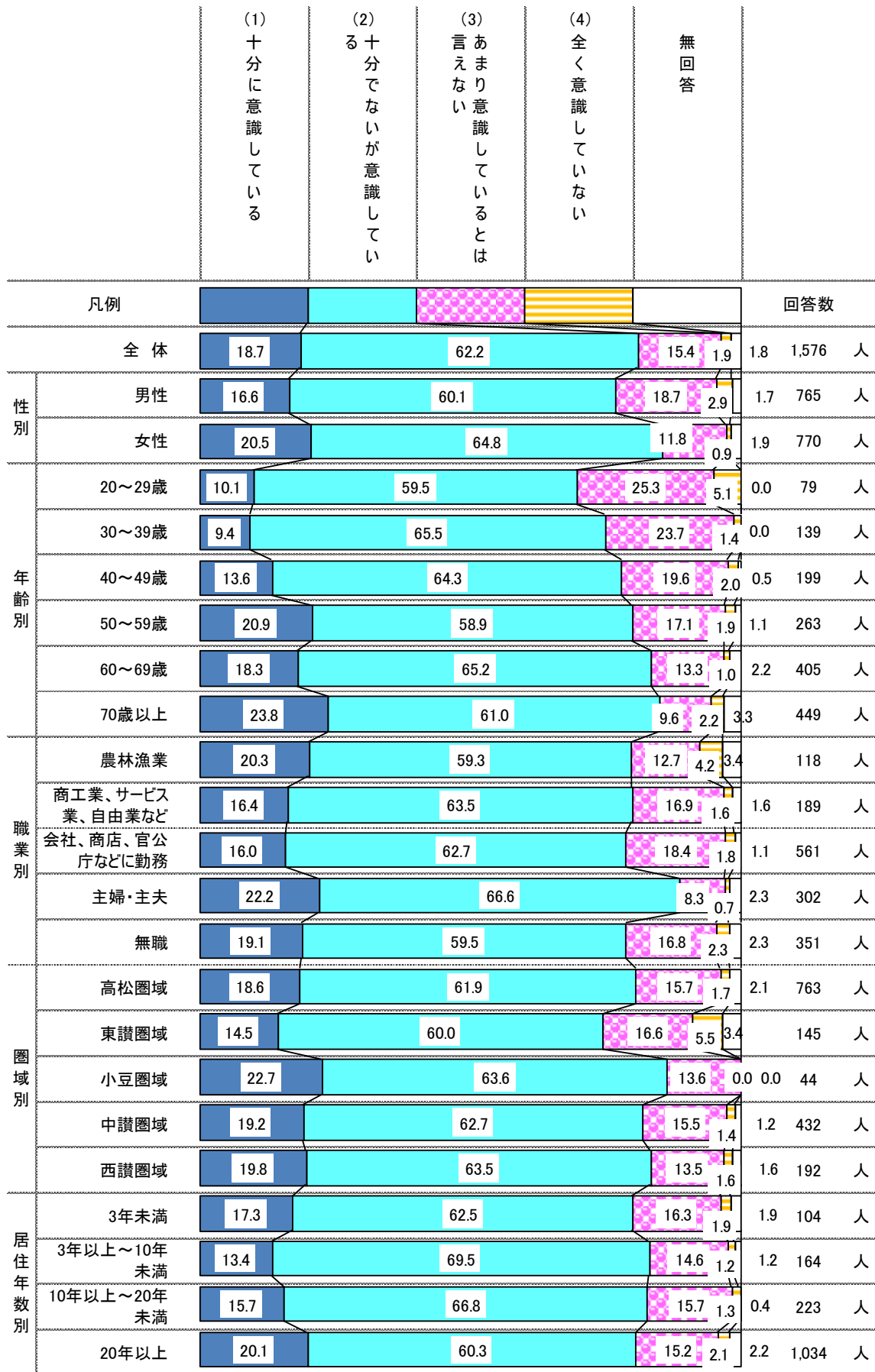
年齢別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が半数を超え最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が半数を超え最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『主婦・主夫』では【意識している】が8割を超え最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が6割を超え最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『小豆圏域』では【意識している】が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が6割を超え最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『3年以上～10年未満』では【意識している】が最も多くなっている。

図表 3-(1)-2 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況



グラフ単位：(%)

(2) 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度

問11 1日に1回以上、家族と一緒に食事をすることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

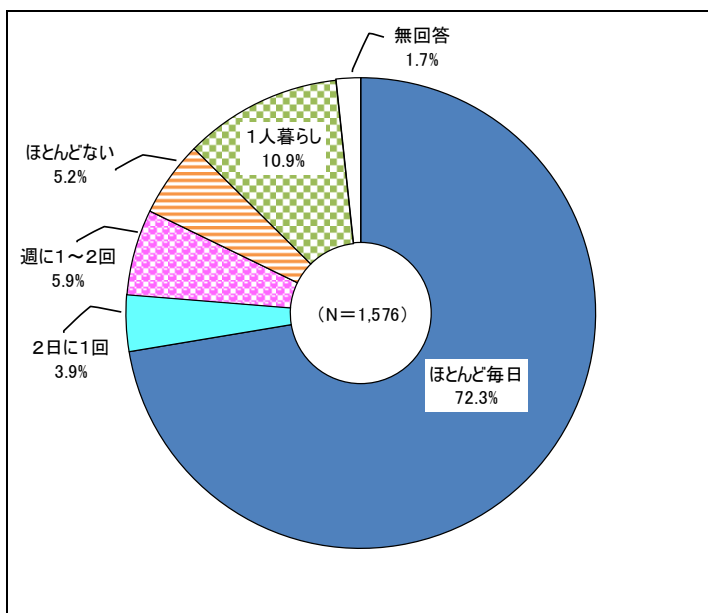
【回答者数=1,576】

1	ほとんど毎日	72.3%
2	2日に1回	3.9%
3	週に1～2回	5.9%
4	ほとんどない	5.2%
5	1人暮らし	10.9%
	(無回答)	1.7%

1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、「ほとんど毎日」(72.3%)が最も多く、次いで「週に1～2回」(5.9%)、「ほとんどない」(5.2%)などとなっている。

「1人暮らし」と答えた人は10.9%である。

図表 3-(2)-1 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度



1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、性別にみると、男女ともに「ほとんど毎日」が最も多く、その比率は『男性』（71.1%）、『女性』（74.3%）となっており、これに「週に1～2回」『男性』（7.1%）『女性』（4.5%）が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『男性』が9.0%、『女性』が12.6%である。

年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が半数を超え最も多く、これに『30～39歳』、『60～69歳』では「ほとんどない」が、『70歳以上』では「週に1～2回」と「ほとんどない」が、そのほかの年齢では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『20～29歳』が24.1%、『30～39歳』が7.9%、『40～49歳』が5.5%、『50～59歳』が6.1%、『60～69歳』が8.6%、『70歳以上』が16.7%である。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超え最も多く、これに『無職』では「ほとんどない」が、そのほかの職業では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『農林漁業』が7.6%、『商工業、サービス業、自由業など』が7.9%、『会社、商店、官公庁などに勤務』が7.1%、『主婦・主夫』が7.9%、『無職』が22.2%である。

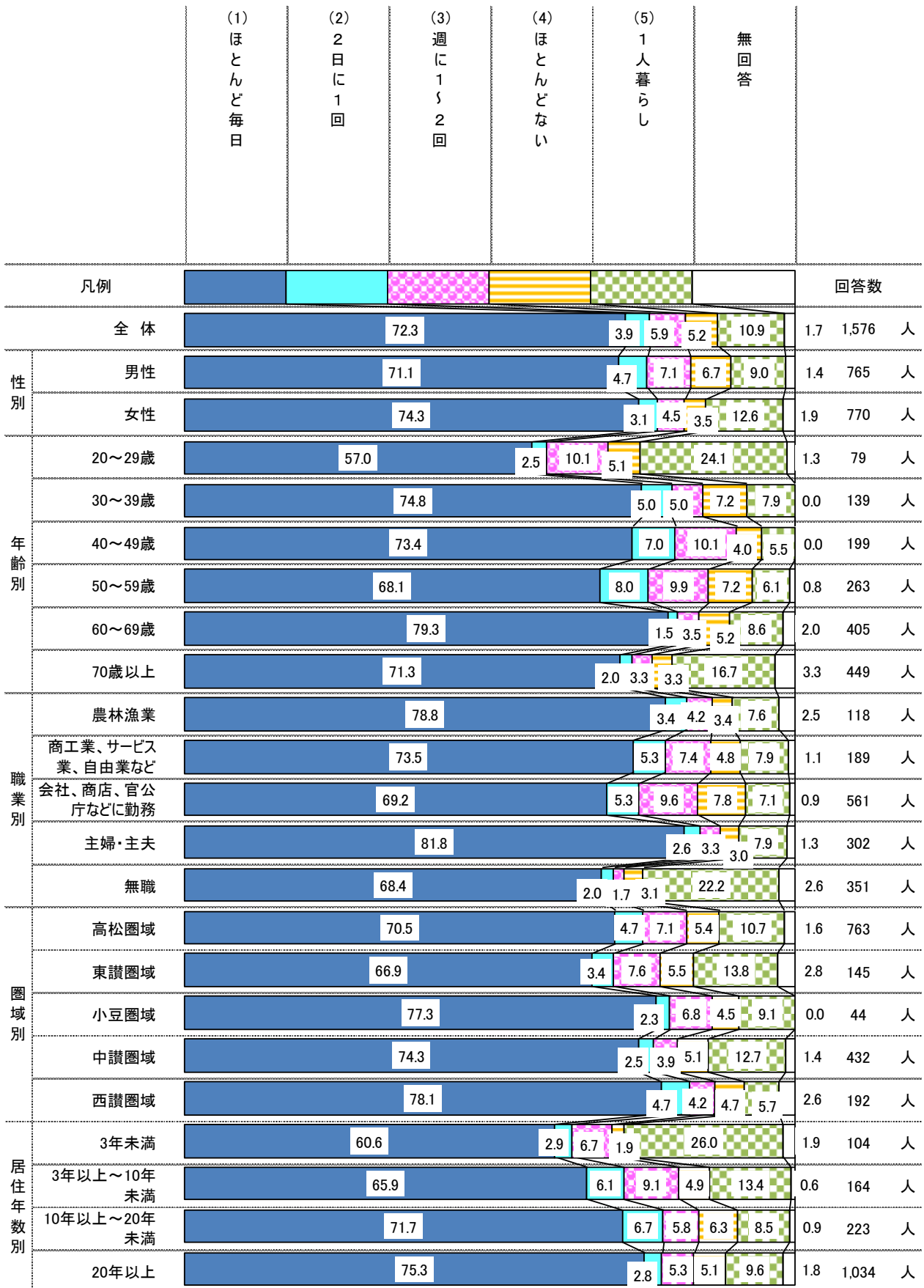
圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超え最も多く、これに『中讃地域』では「ほとんどない」が、『西讃地域』では「2日に1回」と「ほとんどない」が、そのほかの圏域では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『高松地域』が10.7%、『東讃地域』が13.8%、『小豆地域』が9.1%、『中讃地域』が12.7%、『西讃地域』が5.7%である。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超え最も多く、これに『10年以上20年未満』では「2日に1回」が、そのほかの居住年数では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『3年未満』が26.0%、『3年以上10年未満』が13.4%、『10年以上20年未満』が8.5%、『20年以上』が9.6%である。

図表 3-(2)-2 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度



グラフ単位：(%)

(3) 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況

問12 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【主食】：ごはん、パン、うどんなど 【主菜】：肉、魚、卵、大豆料理など

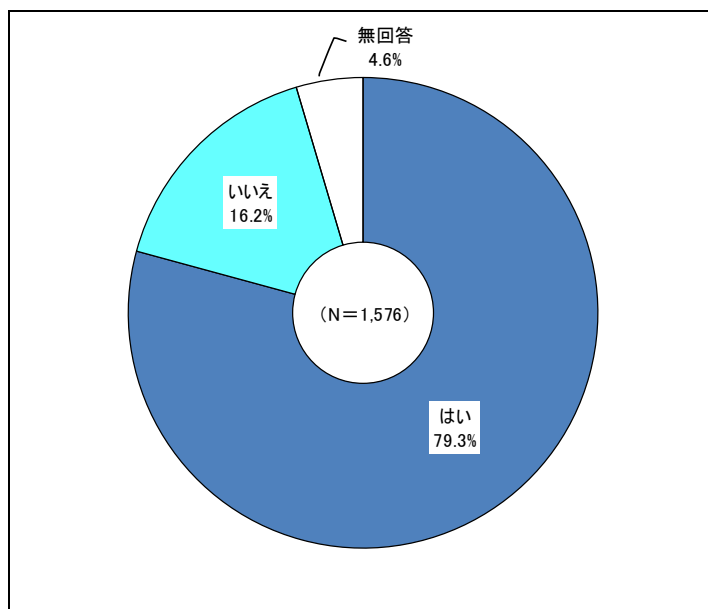
【副菜】：野菜、きのこ、いも、海藻料理など

【回答者数=1,576】

1 はい	79.3%
2 いいえ	16.2%
(無回答)	4.6%

食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について、「はい」(79.3%)、「いいえ」(16.2%)、などとなっている。

図表 3-(3)-1 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況



食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について、性別にみると、男女ともに「はい」が最も多く、その比率は『男性』(75.9%)『女性』(82.7%)となっている。

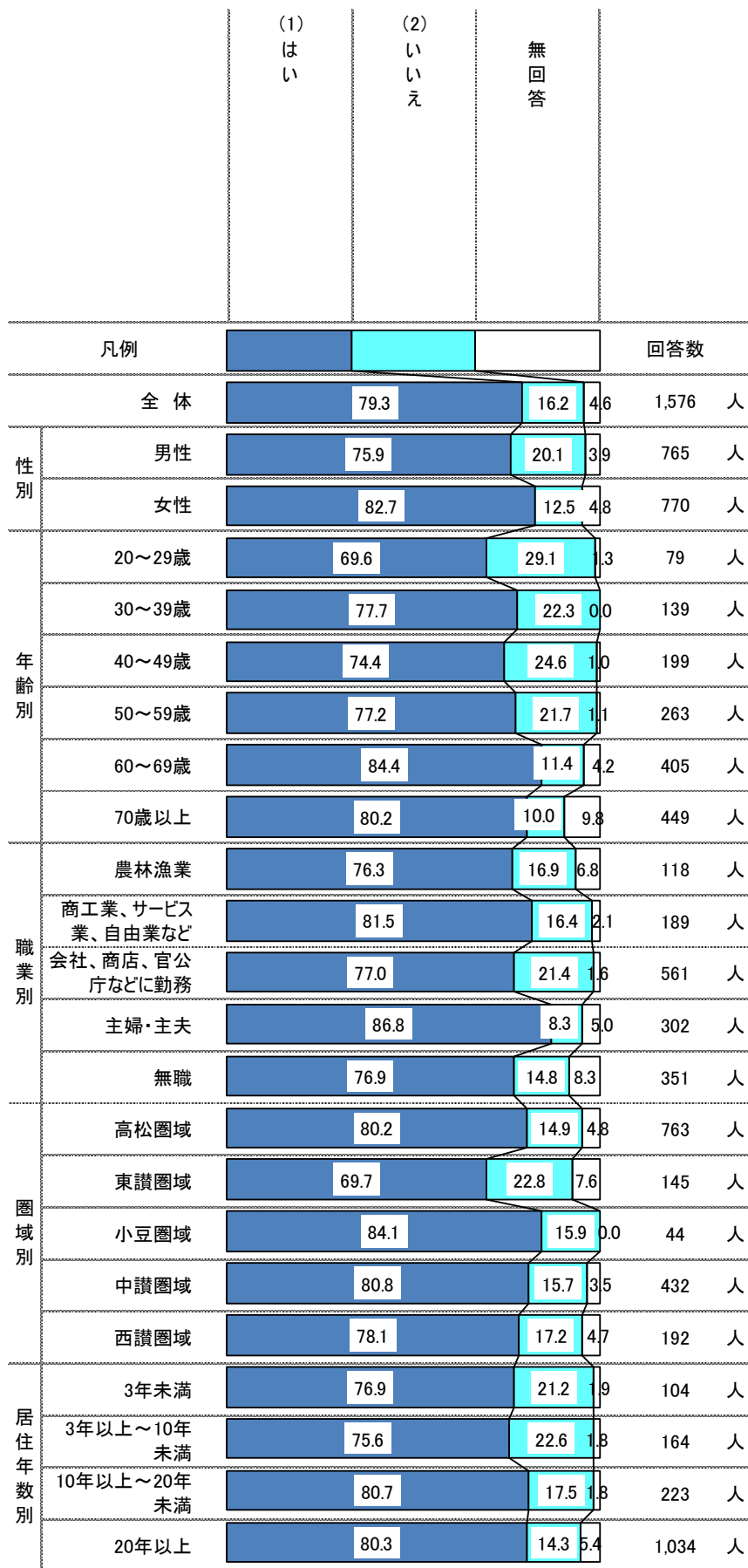
年齢別にみると、いずれも「はい」が6割を超え最も多く、特に『60～69歳』(84.4%)が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が7割を超え最も多く、特に『主婦・主夫』(86.8%)が最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が6割を超え最も多く、特に『小豆圏域』(84.1%)が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が7割を超え最も多く、特に『10年以上～20年未満』(80.7%)が最も多くなっている。

図表 3-(3)-2 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況



グラフ単位：(%)

(4)うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況

問13 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

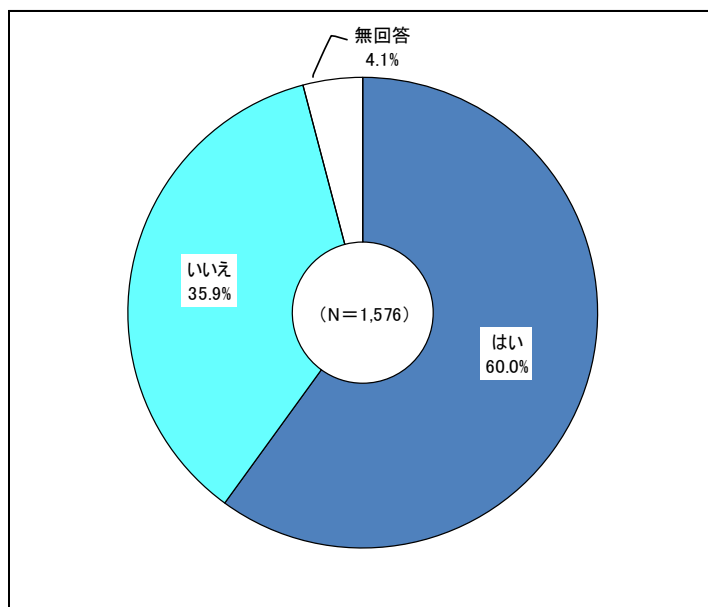
【副食】：おかず ※寿司やおにぎりなどのご飯類、パン類は除く

【回答者数=1,576】

1 はい	60.0%
2 いいえ	35.9%
(無回答)	4.1%

うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、「はい」(60.0%)、「いいえ」(35.9%) などとなっている。

図表 3-(4)-1 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況



うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、性別にみると、男女ともに「はい」が最も多く、その比率は『男性』(55.2%)『女性』(65.2%)となっている。

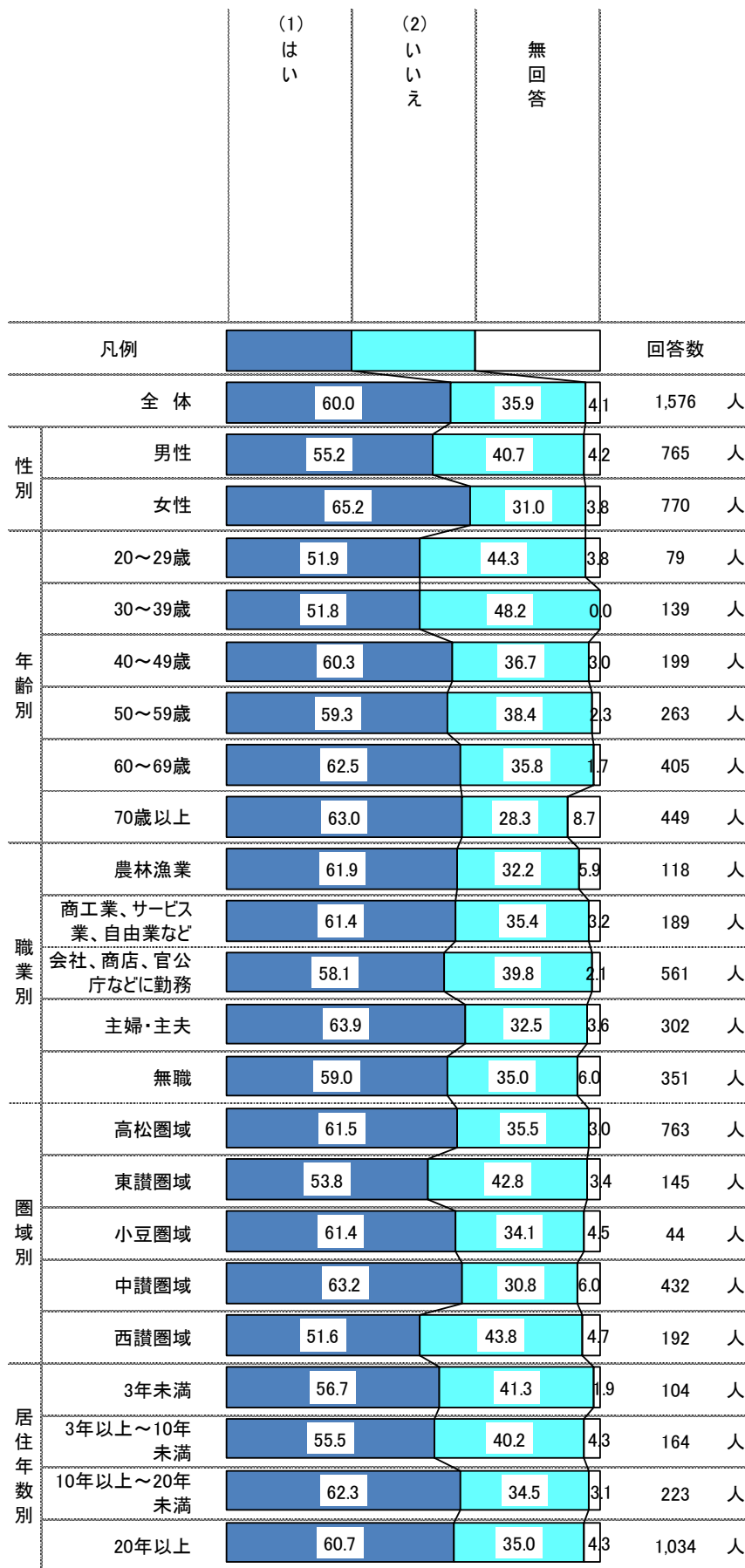
年齢別にみると、いずれも「はい」が半数を超え最も多く、特に『70歳以上』(63.0%)が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が半数を超え最も多く、特に『主婦・主夫』(63.9%)が最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が半数を超え最も多く、特に『中讃圏域』(63.2%)が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が半数を超え最も多く、特に『10年以上～20年未満』(62.3%)が最も多くなっている。

図表 3-(4)-2 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況



グラフ単位：(%)

(5) 朝食の摂取頻度

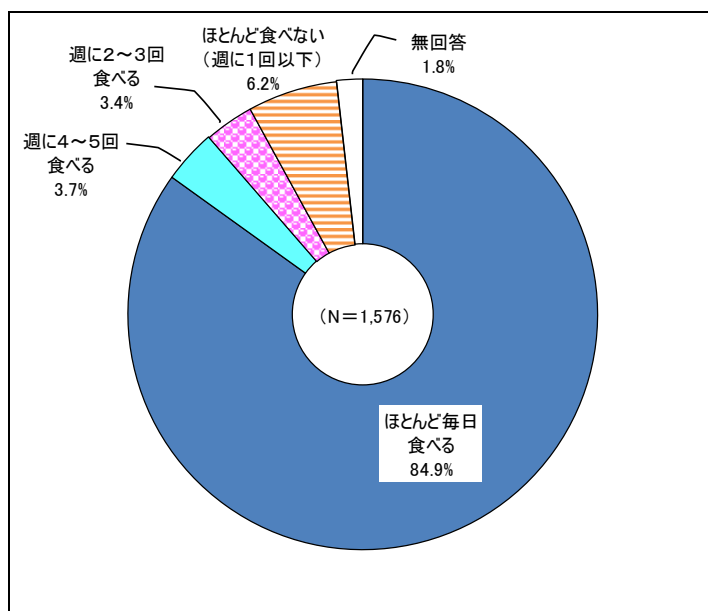
問14 朝食をどの程度食べますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1	ほとんど毎日食べる	84.9%
2	週に4～5回食べる	3.7%
3	週に2～3回食べる	3.4%
4	ほとんど食べない（週に1回以下）	6.2%
	（無回答）	1.8%

朝食の摂取頻度について、「ほとんど毎日食べる」（84.9%）が最も多く、次いで「ほとんど食べない（週に1回以下）」（6.2%）、「週に4～5回食べる」（3.7%）、「週に2～3回食べる」（3.4%）などとなっている。

図表 3-(5)-1 朝食の摂取頻度



朝食の摂取頻度について、

性別にみると、男女ともに「ほとんど毎日食べる」が最も多く、その比率は『男性』(82.0%)『女性』(88.2%)となっており、これに「ほとんど食べない」『男性』(8.2%)、『女性』(4.0%)が続いている。

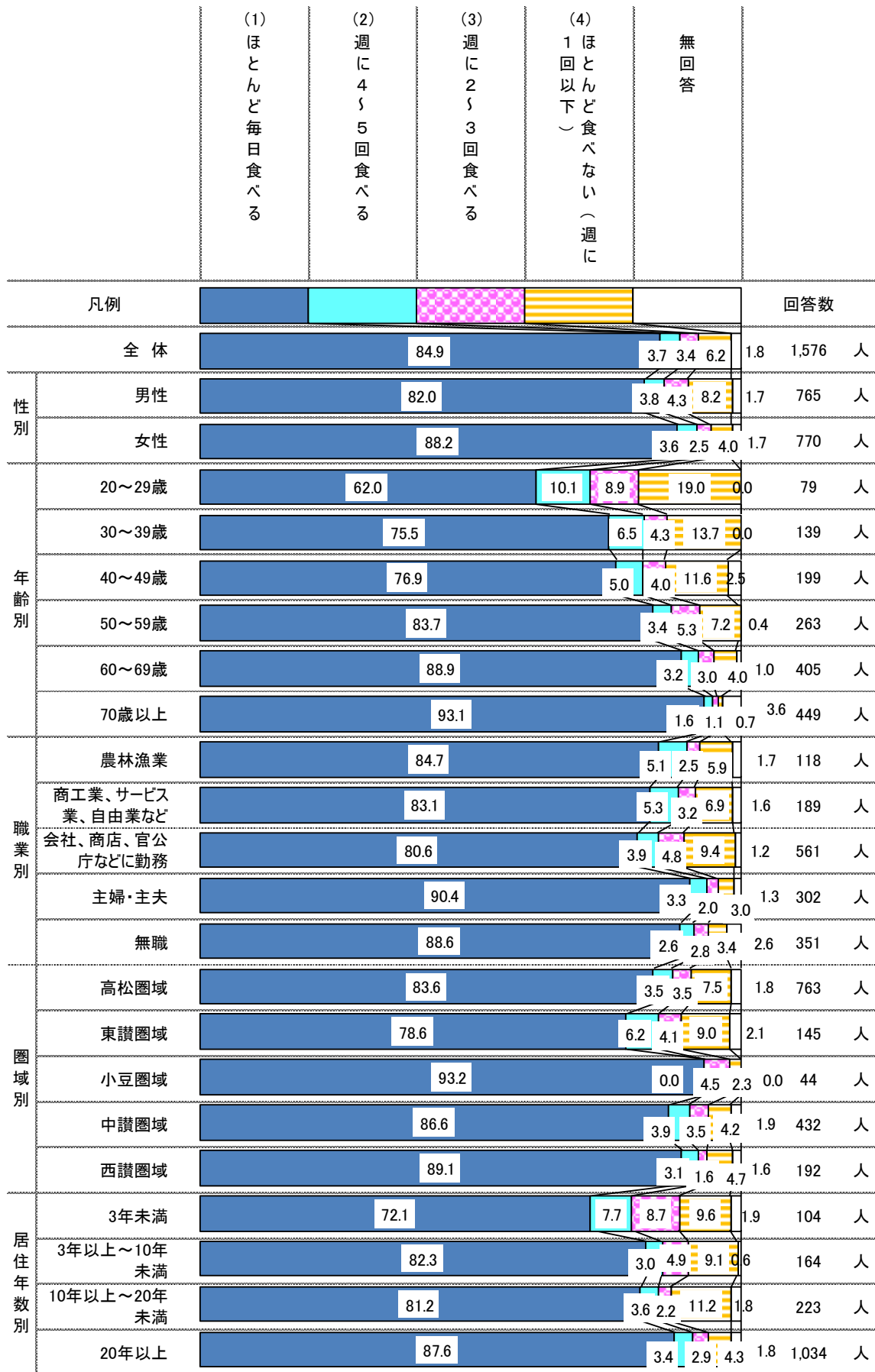
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が6割を超え最も多く、これに『70歳以上』では「週に4～5回食べる」が、そのほかの年齢では「ほとんど食べない(週に1回以下)」が続いている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が8割を超え最も多く、これに『主婦・主夫』では「週に4～5回食べる」が、そのほかの職業では「ほとんど食べない(週に1回以下)」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7割を超え最も多く、これに『小豆圏域』では「週に2～3回食べる」が、そのほかの圏域では「ほとんど食べない(週に1回以下)」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7割を超え最も多く、これに「ほとんど食べない(週に1回以下)」が続いている。

図表 3-(5)-2 朝食の摂取頻度



グラフ単位: (%)

(6) 身長・体重

問15 差し支えなければ、あなたの身長・体重をご記入ください。

【回答者数=1,576】

身長

(無回答)

8.4%

体重

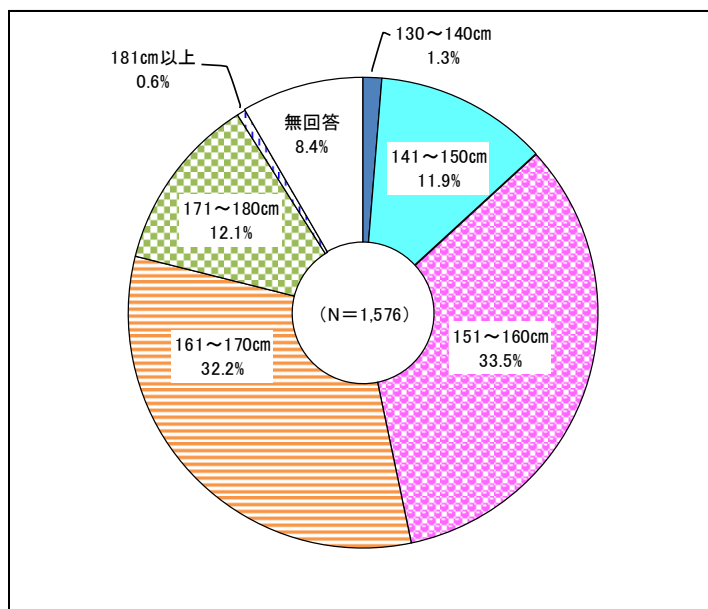
(無回答)

9.8%

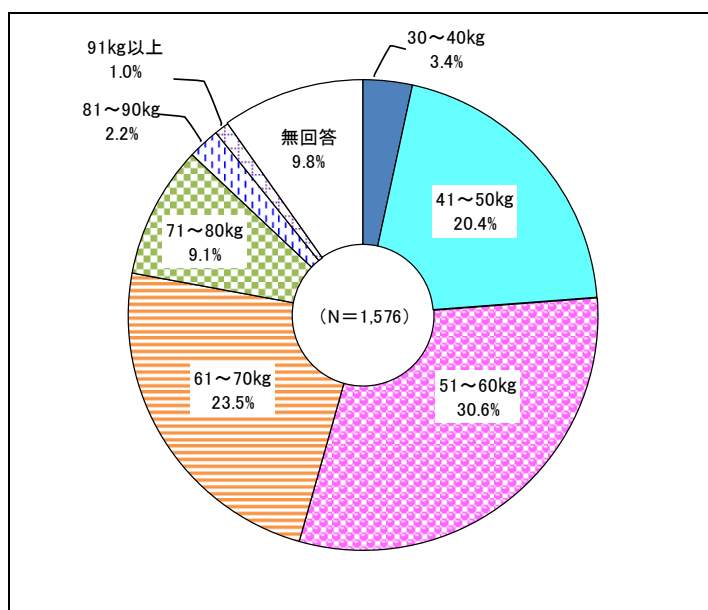
身長について、平均は (160.9 cm) となっている。

体重について、平均は (58.9 kg) となっている。

図表 3-(6)-1 身長



図表 3-(6)-2 体重



身長について、

性別にみると、『男性』では「161cm～170cm」（52.0%）が、『女性』では「151cm～160cm」（51.6%）が最も多くなっており、これに『男性』では「171cm～180cm」（24.1%）が、『女性』では「141cm～150cm」（23.1%）が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「161cm～170cm」が、『30～39歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「151cm～160cm」が最も多くなっている。『50～59歳』では「151cm～160cm」、「161cm～170cm」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「161cm～170cm」が最も多く、『主婦・主夫』では「151cm～160cm」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「151cm～160cm」が、そのほかの圏域では「161cm～170cm」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「151cm～160cm」が最も多く、『3年未満』では「161cm～170cm」が最も多くなっている。

体重について、

性別にみると、『男性』では「61kg～70kg」（35.6%）が、『女性』では「41kg～50kg」（35.3%）が最も多くなっており、これに「51kg～60kg」『男性』（30.1%）、『女性』（31.9%）が続いている。

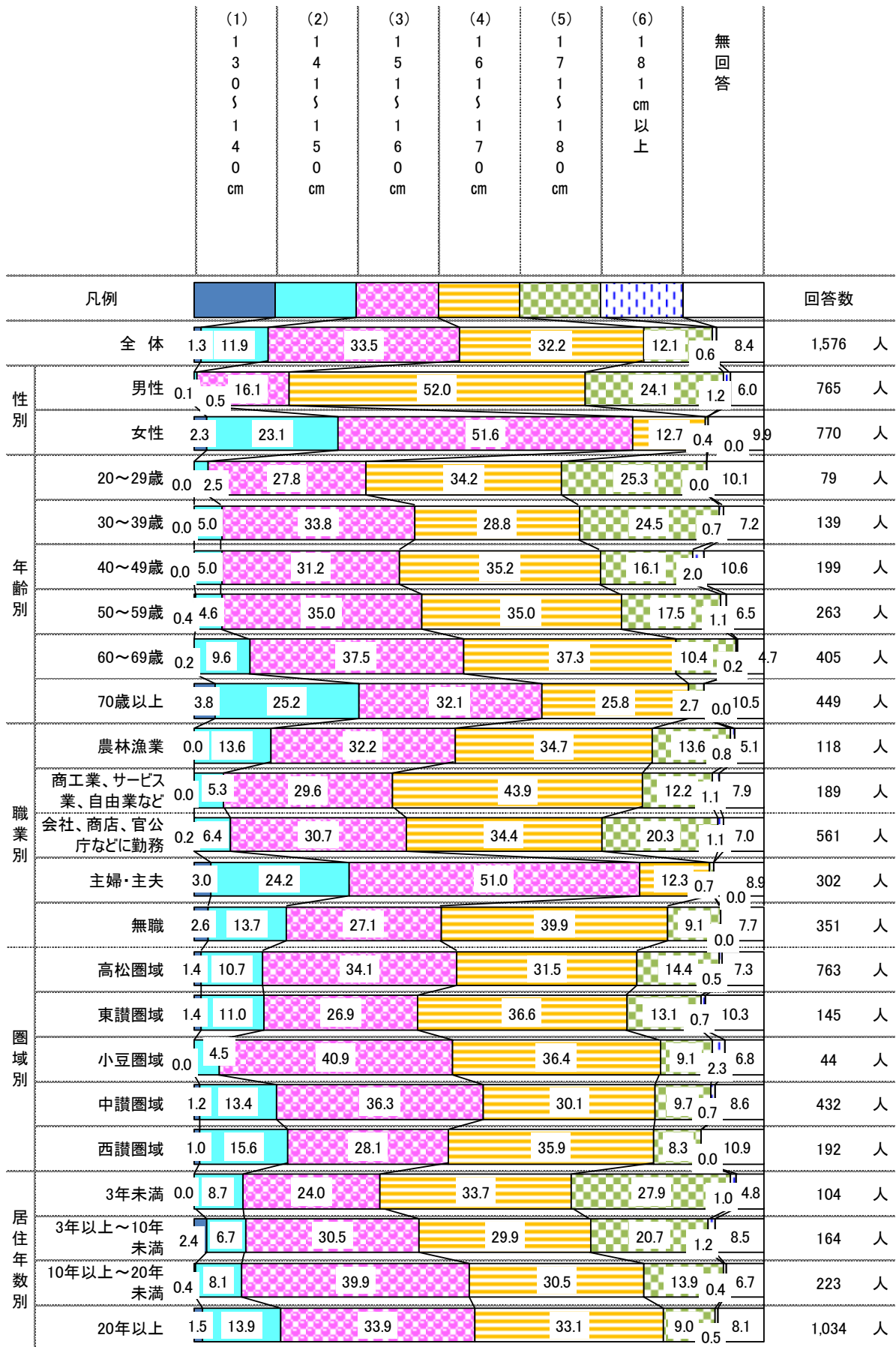
年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「51kg～60kg」が最も多く、『30～39歳』では「41kg～50kg」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「51kg～60kg」が最も多く、これに『主婦・主夫』では「41kg～50kg」が、そのほかの職業では「61kg～70kg」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「51kg～60kg」が最も多く、『小豆圏域』では「61kg～70kg」が最も多くなっている。

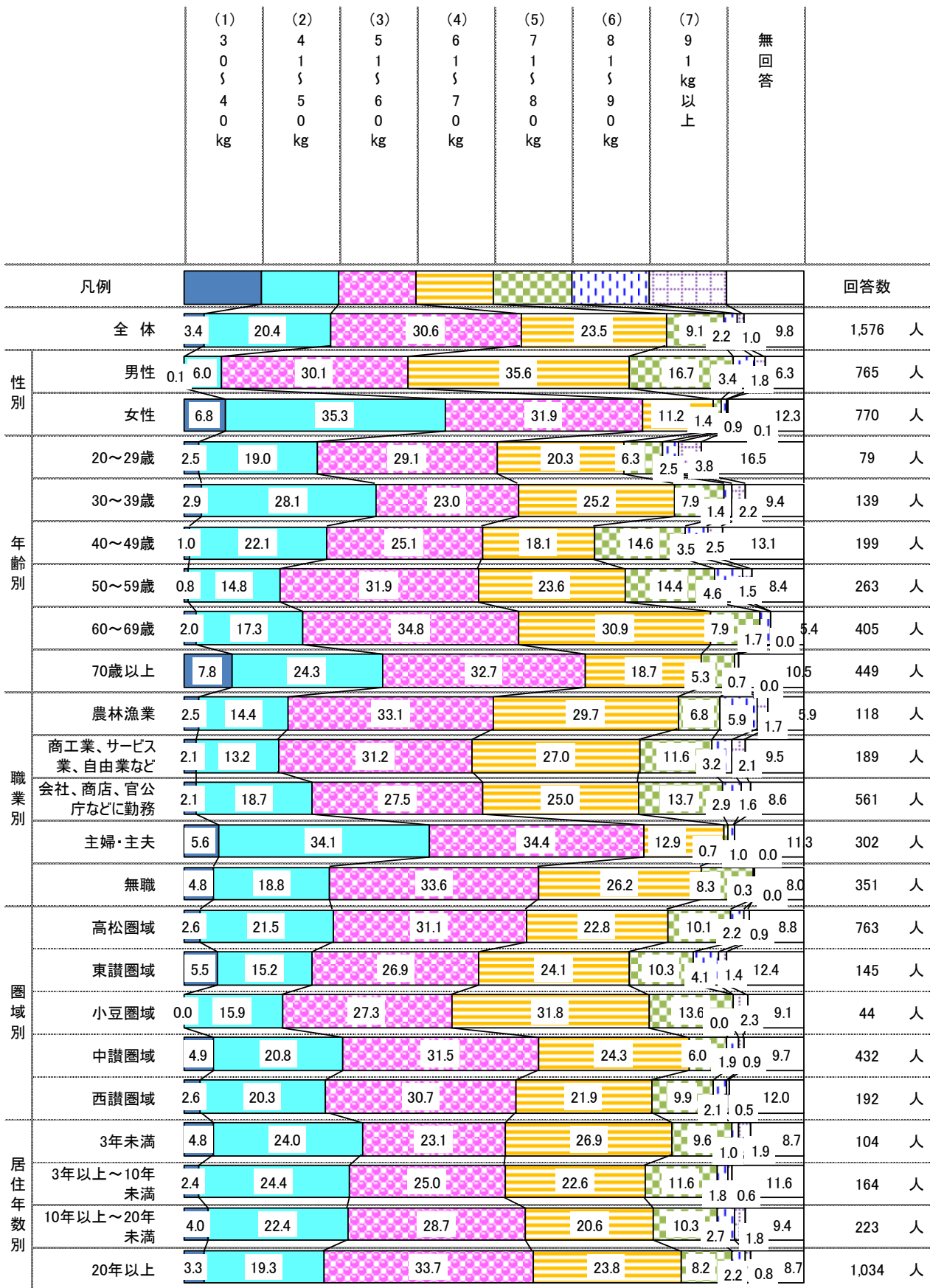
居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「51kg～60kg」が最も多く、『3年未満』では「61～70kg」が最も多くなっている。

図表 3-(6)-3 身長



グラフ単位：(%)

図表 3-(6)-4 体重



グラフ単位：(%)

4. 地域医療の充実について

(1) 自分の最期を迎えたい場所

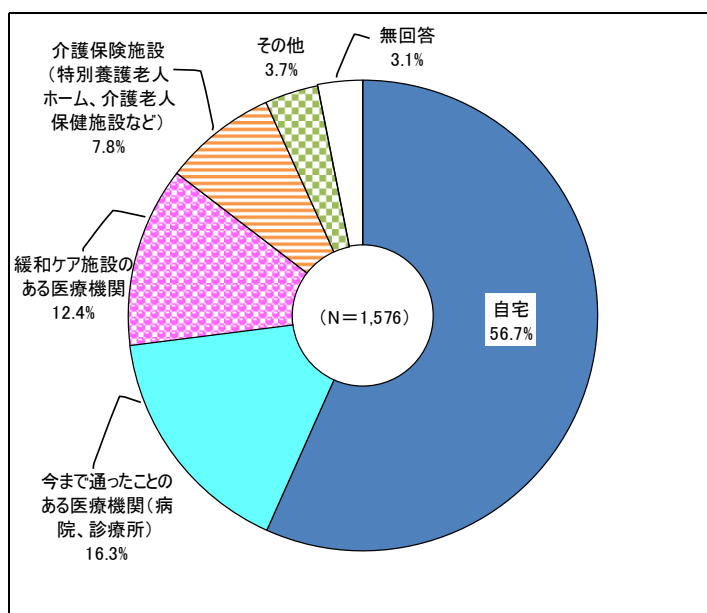
問16 あなたは、ご自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | | |
|--------------------------------|--------------|-------|
| 1 自宅 | ⇒問17にお進みください | 56.7% |
| 2 今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所） | | 16.3% |
| 3 緩和ケア施設のある医療機関 | | 12.4% |
| 4 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など） | | 7.8% |
| 5 その他（具体的に：) | | 3.7% |
| （無回答） | | 3.1% |
- 3、4、5を選んだ方は、問18にお進みください

自分の最期を迎えたい場所について、「自宅」（56.7%）が最も多く、次いで「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」（16.3%）、「緩和ケア施設のある医療機関」（12.4%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」（7.8%）などとなっている。

図表 4-(1)-1 自分の最期を迎えたい場所



自分の最期を迎えたい場所について、

性別にみると、男女ともに「自宅」が最も多く、その比率は、『男性』(63.3%)、『女性』(50.0%)となっており、これに「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」『男性』(15.6%)、『女性』(17.3%)が続いている。

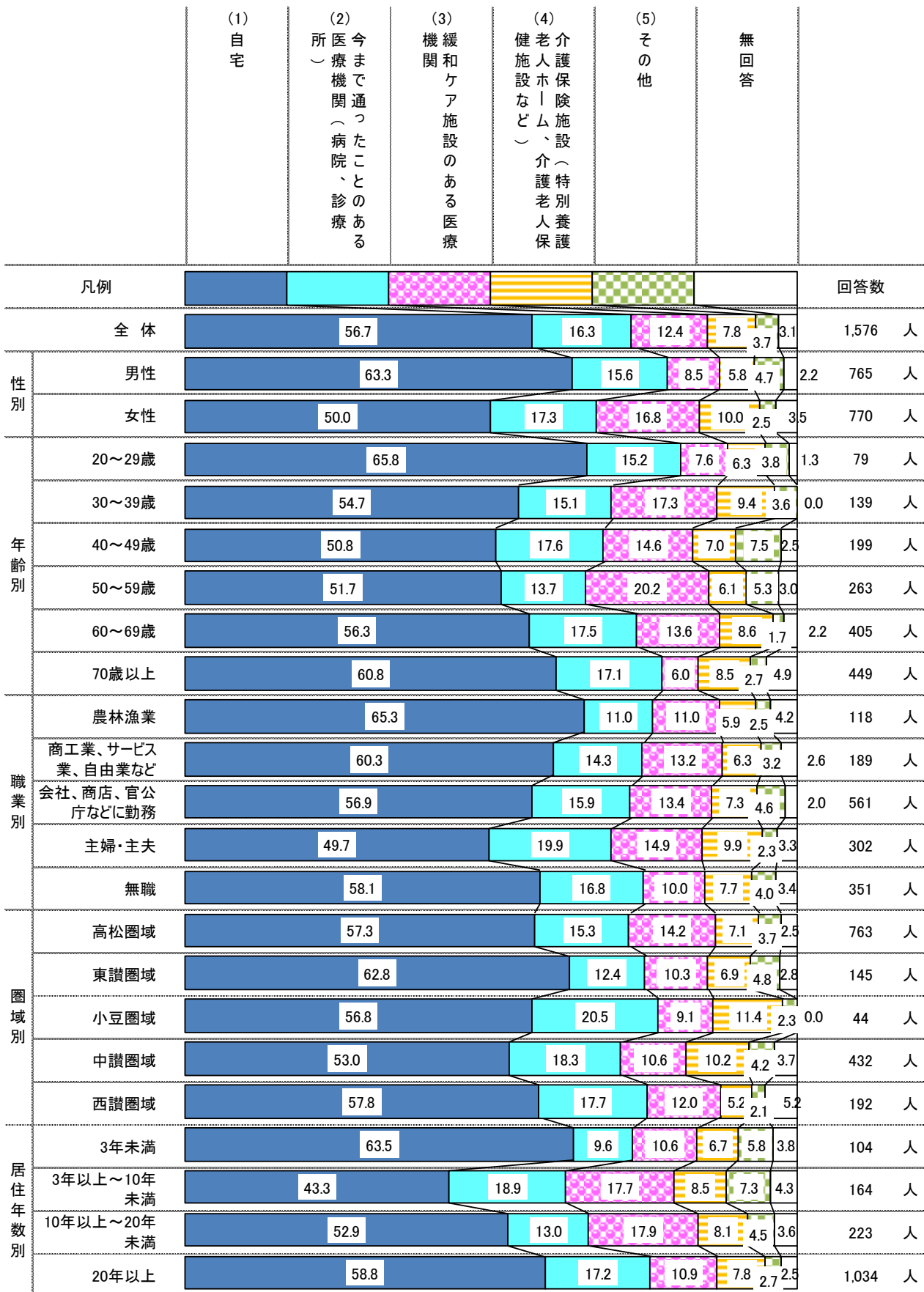
年齢別にみると、いずれも「自宅」が半数を超え最も多くなっている。また『50～59歳』では「緩和ケア施設のある医療機関」が2割を超え、そのほかの年齢と比べるとやや多くなっている。

職業別にみると、いずれも「自宅」が最も多くなっている。また『主婦・主夫』では「緩和ケア施設のある医療機関」がそのほかの職業と比べるとやや多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「自宅」が半数を超え最も多くなっている。また『小豆圏域』では「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」がそのほかの圏域と比べるとやや多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅」が最も多くなっている。また『3年以上～10年未満』では「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」がそのほかと比べるとやや多くなっている。

図表 4-(1)-2 自分の最期を迎えたい場所



グラフ単位：(%)

(2) 自宅で最期を迎えたい理由

【問16で「1 自宅」と答えた方にお聞きします】

問17 なぜ、自宅で最期を迎えたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=893】

1 住み慣れた場所で暮らしたいから	73.3%
2 自分の好きなことをしながら暮らしたいから	65.5%
3 家族との時間を多く過ごしたいから	55.2%
4 病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから	33.9%
5 病院や施設に入れるか分からないから	17.6%
6 家族や知人が自宅で療養しているから	1.6%
7 その他（具体的に： （無回答）	2.1% 0.2%

自宅で最期を迎えたい理由について、「住み慣れた場所で暮らしたいから」（73.3%）が最も多く、次いで「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」（65.5%）、「家族との時間を多く過ごしたいから」（55.2%）、「病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから」（33.9%）などとなっている。

図表 4-(2)-1 自宅で最期を迎えたい理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	893 人
(1) 住み慣れた場所で暮らしたいから	73.3	655 人
(2) 自分の好きなことをしながら暮らしたいから	65.5	585 人
(3) 家族との時間を多く過ごしたいから	55.2	493 人
(4) 病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから	33.9	303 人
(5) 病院や施設に入れるか分からないから	17.6	157 人
(6) 家族や知人が自宅で療養しているから	1.6	14 人
(7) その他	2.1	19 人
無回答	0.2	2 人

グラフ単位：(%)

自宅で最期を迎えたい理由について、

性別にみると、男女ともに「住み慣れた場所で暮らしたいから」が最も多く、その比率は『男性』(74.0%)、『女性』(71.9%)となっており、これに「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」『男性』(65.9%)『女性』(65.7%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「住み慣れた場所で暮らしたいから」、「家族との時間を多く過ごしたいから」が同率で最も多くなっている。『50～59歳』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が、そのほかの年齢では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が最も多くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が最も多く、そのほかの職業では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が7割を超え最も多くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が最も多く、そのほかの圏域では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が6割を超え最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「家族との時間を多く過ごしたいから」が最も多く、そのほかでは「住み慣れた場所で暮らしたいから」が6割を超え最も多くなっている。

図表 4-(2)-2 自宅で最期を迎えたい理由

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		回答者数 (人)	住み慣れた 場所で暮ら したいから	自 分の 好 きな こ と を し な が ら 暮 ら し た い か ら	家 族 と の 時 間 を 多 く 過 ご し た い か ら	病 院 や 施 設 で 過 ご す の は 経 済 的 に 負 担 が 大 き い か ら	病 院 や 施 設 に 入 れ る か 分 か ら な い か ら	家 族 や 知 人 が 自 宅 で 療 養 し て い る か ら	そ の 他	無 回 答
単位：比率(%)										
全体		893	73.3	65.5	55.2	33.9	17.6	1.6	2.1	0.2
性別	男性	484	74.0	65.9	54.3	32.4	15.9	1.9	2.5	0.4
	女性	385	71.9	65.7	56.1	36.1	20.3	1.3	1.8	-
年齢別	20～29歳	52	63.5	57.7	63.5	23.1	3.8	-	1.9	1.9
	30～39歳	76	69.7	64.5	69.7	21.1	6.6	2.6	2.6	-
	40～49歳	101	70.3	64.4	62.4	38.6	18.8	3.0	4.0	-
	50～59歳	136	67.6	70.6	57.4	37.5	30.9	0.7	0.7	-
	60～69歳	228	75.4	67.5	50.9	37.3	20.2	0.9	1.8	0.4
	70歳以上	273	78.0	65.2	49.8	33.3	15.0	2.2	2.2	-
職業別	農林漁業	77	74.0	55.8	58.4	33.8	16.9	1.3	-	-
	商工業、サービス業、 自由業など	114	68.4	74.6	60.5	34.2	15.8	3.5	1.8	-
	会社、商店、官公庁 などに勤務	319	73.0	64.3	58.9	32.9	18.2	1.6	2.2	0.6
	主婦・主夫	150	73.3	69.3	56.0	32.7	20.0	-	2.0	-
	無職	204	75.0	65.2	44.6	36.8	17.6	1.5	2.0	-
圏域別	高松圏域	437	76.0	66.4	56.3	34.8	17.6	1.6	2.3	0.2
	東讃圏域	91	71.4	60.4	41.8	29.7	18.7	-	1.1	-
	小豆圏域	25	80.0	84.0	72.0	32.0	16.0	-	12.0	-
	中讃圏域	229	69.0	65.9	54.6	36.7	18.3	1.7	1.7	0.4
	西讃圏域	111	72.1	61.3	59.5	28.8	15.3	2.7	0.9	-
居住年数別	3年未満	66	74.2	72.7	62.1	28.8	9.1	-	3.0	-
	3年以上～10年未満	71	64.8	66.2	70.4	28.2	15.5	1.4	5.6	-
	10年以上～20年未満	118	67.8	63.6	57.6	37.3	19.5	-	1.7	-
	20年以上	608	75.0	65.6	52.3	34.5	18.6	2.0	1.5	0.3

(3) 自宅以外で最期を迎えたい理由

【問16で「1 自宅」以外と答えた方にお聞きします】

問18 なぜ、自宅以外の所で最期を迎えたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=634】

1 自宅では家族の介護などの負担が大きいため	69.1%
2 介護をしてくれる家族がないから	23.8%
3 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいため	13.7%
4 自宅では緊急時の対応が心配だから	45.3%
5 往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	19.7%
6 自宅での療養について家族が希望していないから	4.9%
7 それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	5.2%
8 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	4.4%
9 その他（具体的に： ）	8.8%
（無回答）	5.4%

自宅以外で最期を迎えたい理由について、「自宅では家族の介護などの負担が大きいため」(69.1%)が最も多く、次いで「自宅では緊急時の対応が心配だから」(45.3%)、「介護をしてくれる家族がないから」(23.8%)、「往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから」(19.7%)などとなっている。

図表 4-(3)-1 自宅以外で最期を迎えたい理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	634 人
(1) 自宅では家族の介護などの負担が大きいため	69.1	438 人
(2) 介護をしてくれる家族がないから	23.8	151 人
(3) 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいため	13.7	87 人
(4) 自宅では緊急時の対応が心配だから	45.3	287 人
(5) 往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	19.7	125 人
(6) 自宅での療養について家族が希望していないから	4.9	31 人
(7) それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	5.2	33 人
(8) 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	4.4	28 人
(9) その他	8.8	56 人
無回答	5.4	34 人

グラフ単位：(%)

自宅以外で最期を迎えたい理由について、

性別にみると、男女ともに「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が最も多く、その比率は『男性』(63.6%)、『女性』(73.5%)となっており、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」『男性』(45.1%)、『女性』(45.5%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が6割を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

職業別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が半数を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が6割を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が半数を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

図表 4-(3)-2 自宅以外で最期を迎えたい理由

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答	
		回答者数(人)	自宅では家族の介護などの負担が大きいため	介護をしてくれる家族がいないから	自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいため	自宅では緊急時の対応が心配だから	往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	自宅での療養について家族が希望していないから	それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	その他	
単位: 比率(%)												
全体		634	69.1	23.8	13.7	45.3	19.7	4.9	5.2	4.4	8.8	5.4
性別	男性	264	63.6	19.7	12.5	45.1	24.6	7.2	3.0	4.9	13.3	6.8
	女性	358	73.5	27.1	15.1	45.5	15.9	3.4	7.0	4.2	5.6	3.9
年齢別	20~29歳	26	69.2	-	15.4	46.2	19.2	-	-	3.8	11.5	7.7
	30~39歳	63	84.1	6.3	12.7	30.2	11.1	-	1.6	-	6.3	4.8
	40~49歳	93	73.1	21.5	21.5	40.9	12.9	1.1	2.2	1.1	16.1	4.3
	50~59歳	119	71.4	19.3	16.8	42.0	17.6	3.4	3.4	3.4	10.9	3.4
	60~69歳	168	66.7	26.8	10.7	51.8	25.6	4.2	8.3	4.8	5.4	6.0
	70歳以上	154	61.7	37.0	11.0	49.4	22.7	12.3	7.8	9.1	7.8	5.8
職業別	農林漁業	36	61.1	36.1	8.3	38.9	25.0	2.8	5.6	2.8	11.1	11.1
	商工業、サービス業、自由業など	70	77.1	14.3	12.9	50.0	17.1	4.3	1.4	1.4	7.1	2.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	231	74.9	15.6	16.9	41.1	18.2	3.0	2.2	3.5	10.4	4.8
	主婦・主夫	142	75.4	26.1	14.1	47.2	15.5	4.2	12.0	4.9	6.3	4.2
	無職	135	52.6	37.0	11.1	49.6	25.9	9.6	5.9	7.4	9.6	5.2
圏域別	高松圏域	307	69.1	23.1	14.3	48.9	21.2	5.9	6.2	5.2	8.5	4.9
	東讃圏域	50	70.0	28.0	14.0	36.0	16.0	4.0	2.0	2.0	8.0	4.0
	小豆圏域	19	78.9	15.8	5.3	42.1	21.1	-	-	5.3	10.5	5.3
	中讃圏域	187	66.8	21.4	15.5	44.4	18.7	3.2	4.8	4.3	9.1	7.0
	西讃圏域	71	71.8	32.4	8.5	39.4	18.3	7.0	5.6	2.8	9.9	4.2
居住年数別	3年未満	34	55.9	17.6	20.6	29.4	11.8	-	2.9	2.9	17.6	14.7
	3年以上~10年未満	86	72.1	15.1	16.3	41.9	20.9	-	4.7	1.2	11.6	5.8
	10年以上~20年未満	97	70.1	18.6	10.3	37.1	16.5	1.0	1.0	3.1	12.4	5.2
	20年以上	400	69.5	27.8	13.8	49.3	20.5	7.5	6.5	5.5	6.8	4.3

(4)「かかりつけ医」の有無

【全員の方にお聞きします】

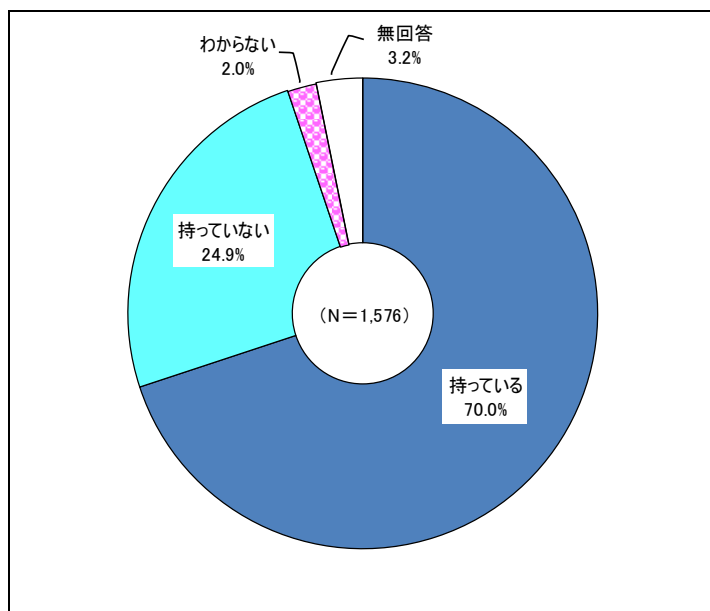
問19 あなたは、日ごろから病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 持っている	⇒問20にお進みください	70.0%
2 持っていない	⇒問21にお進みください	24.9%
3 わからない		2.0%
(無回答)		3.2%

「かかりつけ医」の有無について、「持っている」(70.0%)、「持っていない」(24.9%)、「わからない」(2.0%) などとなっている。

図表 4-(4)-1 「かかりつけ医」の有無



「かかりつけ医」の有無について、性別にみると、男女ともに「持っている」が最も多く、その比率は『男性』（66.5%）、『女性』（73.4%）となっている。

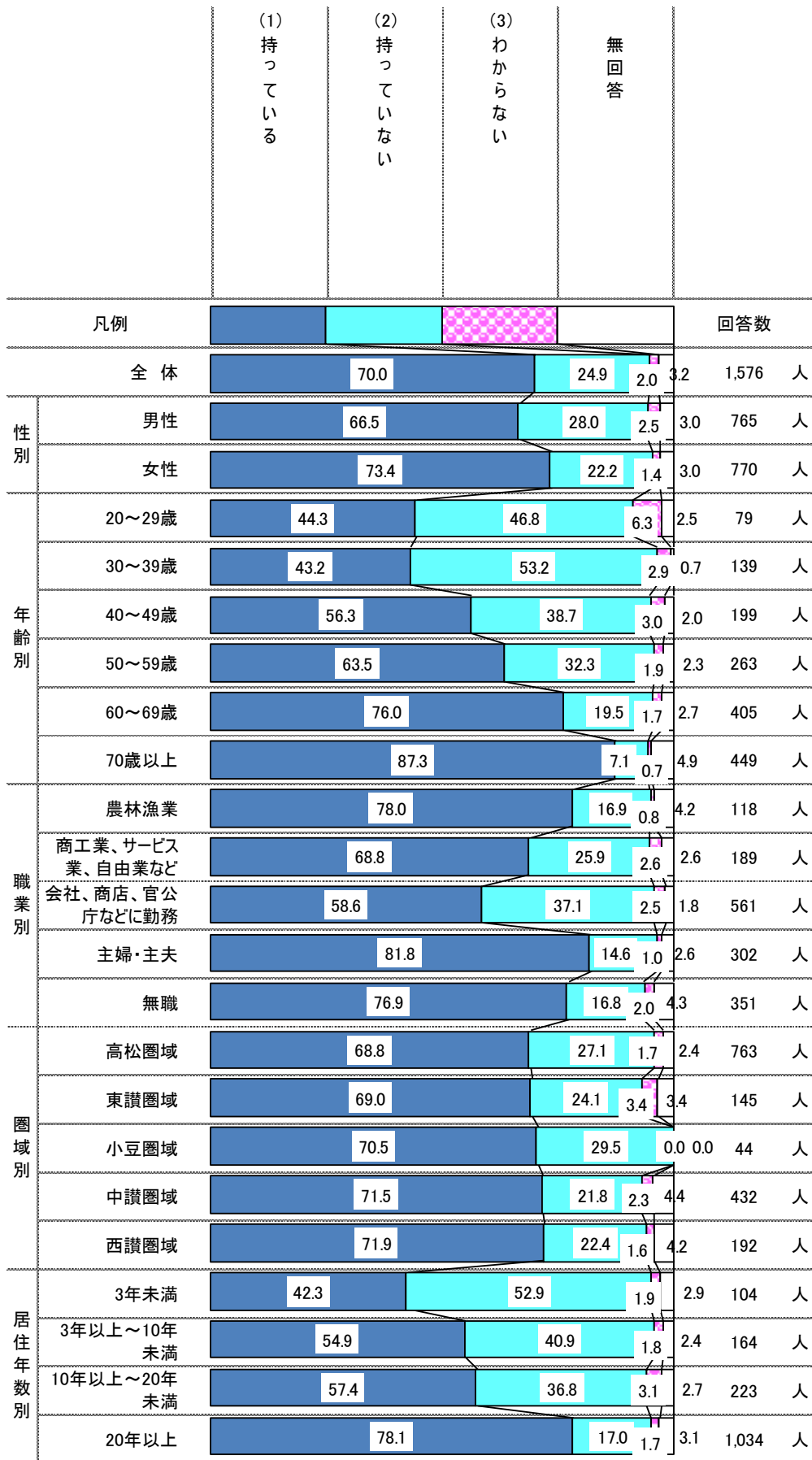
年齢別にみると、『20～29 歳』、『30～39 歳』では「持っていない」が最も多く、「持っていない」が「持っている」をやや上回っている。そのほかの年齢では「持っている」が半数を超え、特に『70 歳以上』では8割を超える結果となっている。

職業別にみると、いずれも「持っている」が半数を超え最も多く、「持っている」が「持っていない」を上回っているものの、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「持っていない」が3割を超える結果となっている。

圏域別にみると、いずれも「持っている」が6割を超え最も多く、「持っている」が「持っていない」を上回っている。

居住年数別にみると、『3 年未満』では「持っていない」が半数を超え最も多く、「持っていない」が「持っている」をやや上回っている。そのほかでは「持っている」が半数を超え、特に『20 年以上』では7割を超える結果となっている。

図表 4-(4)-2 「かかりつけ医」の有無



グラフ単位: (%)

(5)「かかりつけ医」の所属施設

【問19で「1 持っている」と答えた方にお聞きします】

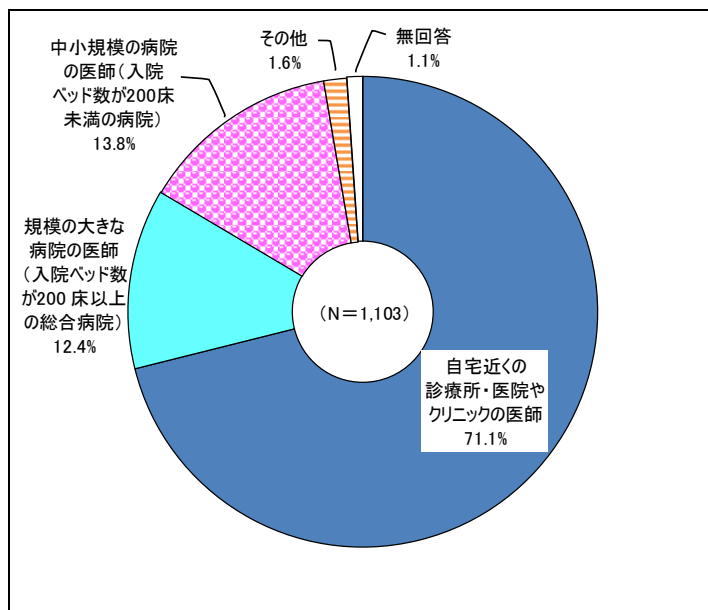
問20 あなたのかかりつけ医は、どのような施設の医師ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,103】

1 自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師	71.1%
2 規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）	12.4%
3 中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）	13.8%
4 その他（具体的に：)	1.6%
（無回答）	1.1%

「かかりつけ医」の所属施設について、「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」(71.1%)が最も多く、次いで「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」(13.8%)、「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」(12.4%)などとなっている。

図表 4-(5)-1 「かかりつけ医」の所属施設



「かかりつけ医」の所属施設について、

性別にみると、男女ともに「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が最も多く、その比率は『男性』(69.7%)、『女性』(71.9%)となっており、これに「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」『男性』(14.9%)、『女性』(13.1%)が続いている。

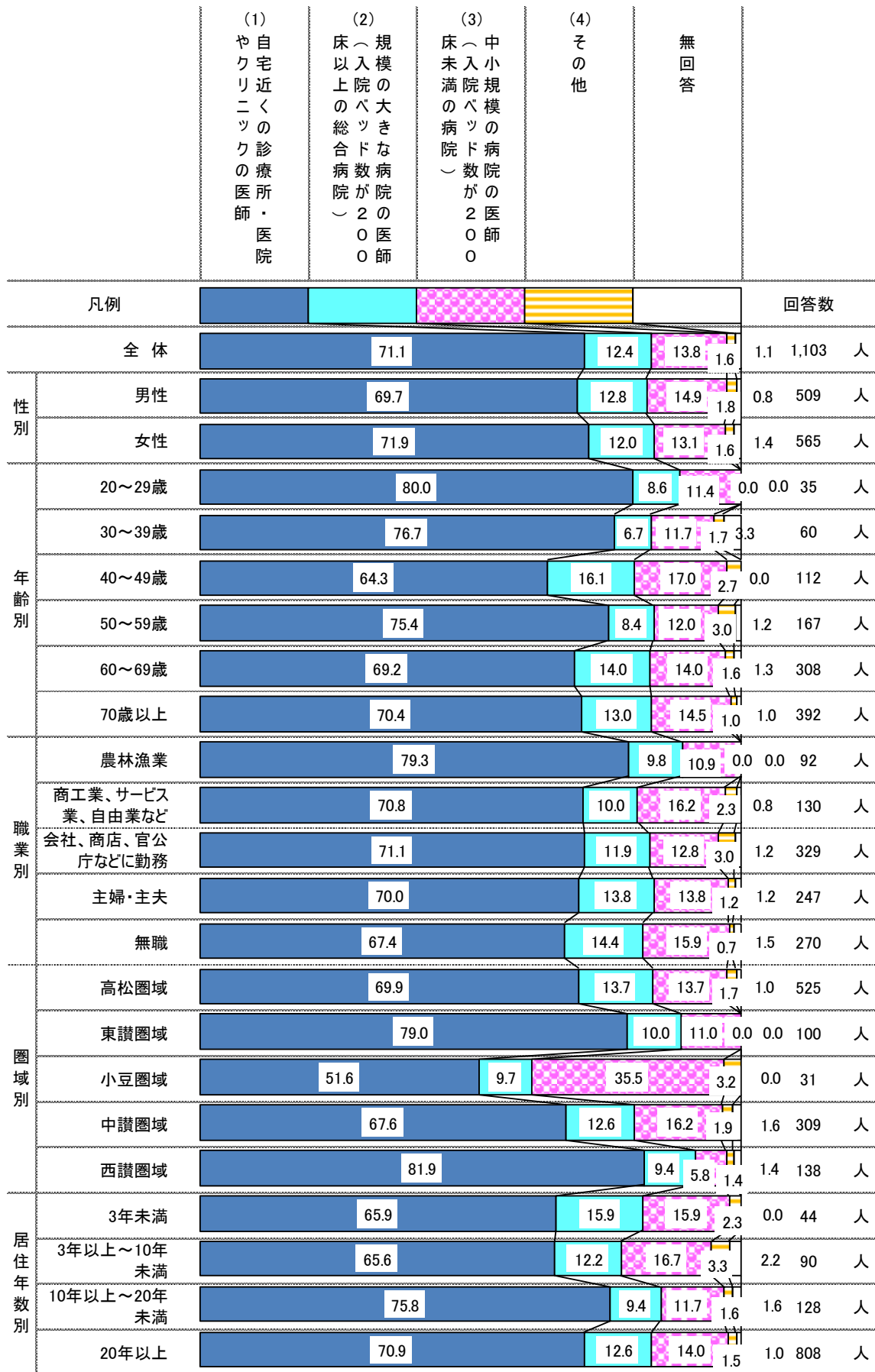
年齢別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超え最も多く、これに『60～69歳』では「規模の大きな病院の医師(入院ベッド数が200床以上の総合病院)」、「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が同率で続いている。そのほかの年齢では「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が続いている。

職業別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超え最も多く、これに『主婦・主夫』では「規模の大きな病院の医師(入院ベッド数が200床以上の総合病院)」、「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が同率で続いている。そのほかの職業では「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が半数を超え最も多くなっている。これに『高松圏域』では「規模の大きな病院の医師(入院ベッド数が200床以上の総合病院)」、「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が同率で続いている。『西讃圏域』では「規模の大きな病院の医師(入院ベッド数が200床以上の総合病院)」が、そのほかの圏域では「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超え最も多く、これに『3年未満』では「規模の大きな病院の医師(入院ベッド数が200床以上の総合病院)」、「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が同率で続いている。そのほかでは「中小規模の病院の医師(入院ベッド数が200床未満の病院)」が続いている。

図表 4-(5)-2 「かかりつけ医」の所属施設



グラフ単位：(%)

(6)「かかりつけ医」を持っていない理由

【問19で「2 持っていない」と答えた方にお聞きします】

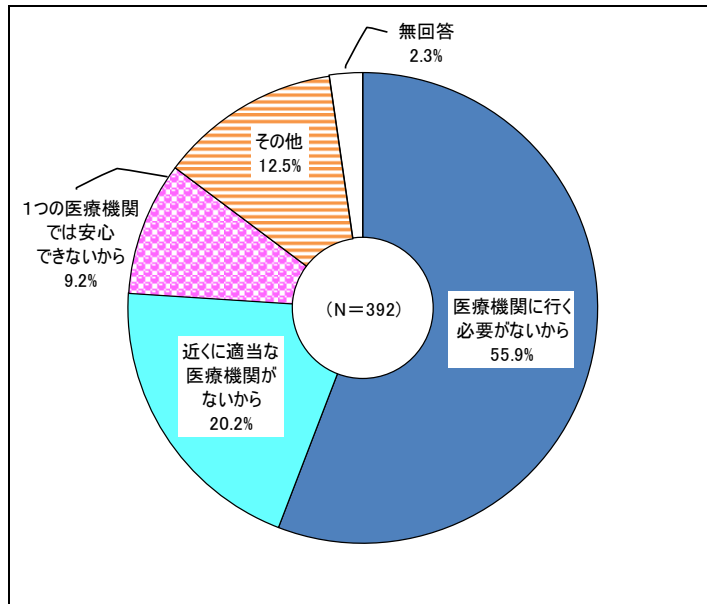
問21 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=392】

1 医療機関に行く必要がないから	55.9%
2 近くに適切な医療機関がないから	20.2%
3 1つの医療機関では安心できないから	9.2%
4 その他（具体的に： （無回答）	12.5% 2.3%

「かかりつけ医」を持っていない理由について、「医療機関に行く必要がないから」（55.9%）が最も多く、次いで「近くに適切な医療機関がないから」（20.2%）、「その他」（12.5%）、「1つの医療機関では安心できないから」（9.2%）などとなっている。

図表 4-(6)-1 「かかりつけ医」を持っていない理由



「かかりつけ医」を持っていない理由について、

性別にみると、男女ともに「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、『男性』(53.3%)、『女性』(59.1%)となっており、これに「近くに適切な医療機関がないから」『男性』(23.4%)、『女性』(16.4%)が続いている。

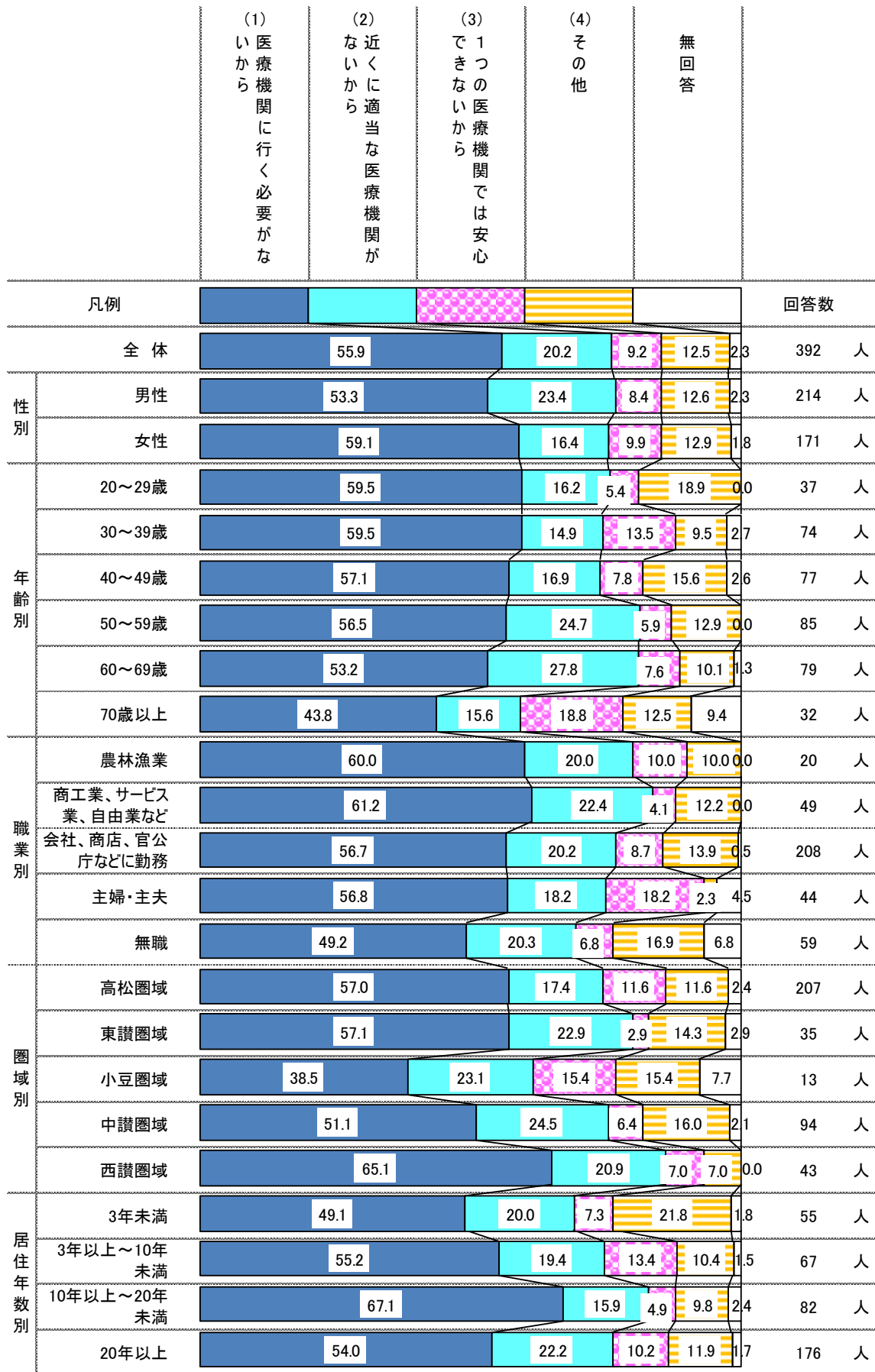
年齢別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多くなっている。これに『20～29歳』では「その他」が、『70歳以上』では「1つの医療機関では安心できないから」が、そのほかの年齢では「近くに適切な医療機関がないから」が続いている。

職業別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに『主婦・主夫』では「近くに適切な医療機関がないから」、「1つの医療機関では安心できないから」が同率で続いている。そのほかの職業では「近くに適切な医療機関がないから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに「近くに適切な医療機関がないから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに『3年未満』では「その他」が、そのほかでは「近くに適切な医療機関がないから」が続いている。

図表 4-(6)-2 「かかりつけ医」を持っていない理由



グラフ単位：(%)

(7) 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

【全員の方にお聞きします】

問22 国では、疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を継続することができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進していますが、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 家族や親族の理解と協力があること	69.6%
2 友人・知人の理解と協力があること	7.6%
3 地元の自治会の理解と協力があること	9.7%
4 自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	50.6%
5 規模の大きな病院（入院ベッド数が200床以上の総合病院）が充実していること	15.7%
6 中小規模の病院（入院ベッド数が200床未満の病院）が充実していること	12.4%
7 自宅近くの歯科診療所が充実していること	3.7%
8 自宅近くの薬局が充実していること	2.9%
9 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること	25.0%
10 自宅近くの介護支援事業所（ケアマネージャーなど）が充実していること	18.3%
11 自宅近くの訪問看護事業所（訪問看護師など）が充実していること	22.6%
12 行政（地域包括支援センターなど）の支援があること	26.9%
13 その他（具体的に：)	1.6%
（無回答）	4.3%

地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うことについて、「家族や親族の理解と協力があること」（69.6%）が最も多く、次いで「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」（50.6%）、「行政（地域包括支援センターなど）の支援があること」（26.9%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」（25.0%）などとなっている。

図表 4-(7)-1 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 家族や親族の理解と協力があること	69.6	1,097 人
(2) 友人・知人の理解と協力があること	7.6	119 人
(3) 地元の自治会の理解と協力があること	9.7	153 人
(4) 自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	50.6	798 人
(5) 規模の大きな病院(入院ベッド数が200床以上の総合病院)が充実していること	15.7	247 人
(6) 中小規模の病院(入院ベッド数が200床未満の病院)が充実していること	12.4	196 人
(7) 自宅近くの歯科診療所が充実していること	3.7	59 人
(8) 自宅近くの薬局が充実していること	2.9	45 人
(9) 介護保険施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など)が充実していること	25.0	394 人
(10) 自宅近くの介護支援事業所(ケアマネージャーなど)が充実していること	18.3	289 人
(11) 自宅近くの訪問看護事業所(訪問看護師など)が充実していること	22.6	356 人
(12) 行政(地域包括支援センターなど)の支援があること	26.9	424 人
(13) その他	1.6	25 人
無回答	4.3	67 人

グラフ単位：(%)

地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「家族や親族の理解と協力があること」が最も多く、その比率は『男性』(69.0%)、『女性』(70.5%)となっており、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」『男性』(50.8%)、『女性』(50.1%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

図表 4-(7)-2 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答	
		回答者数(人)	家族や親族の理解と協力があること	友人・知人の理解と協力があること	地元の自治会の理解と協力があること	と自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	規模の大きな病院(入院ベッド数が2000床以上の総合病院)が充実していること	中小規模の病院(入院ベッド数が2000床未満の病院)が充実していること	自宅近くの歯科診療所が充実していること	自宅近くの薬局が充実していること	介護保険施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など)が充実していること	自宅近くの介護支援事業所(ケアマネージャーなど)が充実していること	自宅近くの訪問看護事業所(訪問看護師など)が充実していること	行政(地域包括支援センターなど)の支援があること	その他	
単位: 比率(%)																
全体		1,576	69.6	7.6	9.7	50.6	15.7	12.4	3.7	2.9	25.0	18.3	22.6	26.9	1.6	4.3
性別	男性	765	69.0	7.8	10.6	50.8	16.7	14.8	3.4	2.9	23.1	17.1	21.0	25.4	1.8	4.4
	女性	770	70.5	7.1	8.6	50.1	14.8	10.4	4.0	2.5	27.1	20.3	24.3	29.0	1.4	3.5
年齢別	20~29歳	79	83.5	12.7	16.5	57.0	15.2	8.9	5.1	7.6	17.7	12.7	16.5	22.8	-	1.3
	30~39歳	139	78.4	9.4	10.8	46.0	18.7	5.8	2.9	5.0	19.4	18.7	30.9	27.3	2.2	0.7
	40~49歳	199	79.9	11.1	7.5	48.7	14.1	15.1	3.5	1.5	22.6	20.1	21.6	31.2	3.0	1.5
	50~59歳	263	68.8	6.1	8.0	53.6	12.5	11.0	1.5	2.7	24.3	20.9	25.1	32.3	1.9	3.4
	60~69歳	405	67.7	4.7	7.9	50.6	15.8	14.8	3.2	2.5	29.4	17.3	21.2	32.8	1.0	5.2
	70歳以上	449	63.0	7.6	11.6	49.7	18.0	12.9	5.6	2.0	26.1	18.7	21.6	18.0	1.6	5.6
職業別	農林漁業	118	72.9	12.7	18.6	51.7	11.9	10.2	3.4	2.5	25.4	8.5	22.0	14.4	2.5	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	72.0	7.9	11.6	52.4	15.9	14.3	3.2	3.2	23.3	20.6	18.5	29.6	1.6	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	75.0	8.0	8.0	51.2	13.0	11.9	2.5	2.3	24.2	20.0	24.6	30.8	1.6	2.5
	主婦・主夫	302	67.9	5.6	8.3	46.4	19.9	10.6	6.0	3.3	26.5	20.9	22.8	26.5	1.0	4.6
	無職	351	61.8	6.0	8.8	52.1	18.5	15.4	4.3	2.6	26.2	17.4	22.2	25.6	1.4	5.1
圏域別	高松圏域	763	70.1	6.2	8.1	50.9	15.9	13.8	4.1	3.4	24.4	19.7	24.2	27.5	1.2	3.3
	東讃圏域	145	74.5	9.0	9.7	46.2	13.1	15.9	2.1	5.5	27.6	18.6	20.7	24.1	0.7	2.8
	小豆圏域	44	70.5	2.3	6.8	59.1	15.9	15.9	4.5	-	34.1	15.9	29.5	29.5	-	2.3
	中讃圏域	432	67.8	9.7	13.7	48.8	16.9	9.0	2.8	1.9	22.7	17.6	20.1	27.1	2.5	6.3
	西讃圏域	192	67.7	8.3	7.8	55.2	14.1	11.5	5.7	1.6	28.6	15.1	21.4	25.5	2.1	5.2
居住年数別	3年未満	104	74.0	7.7	12.5	58.7	19.2	9.6	2.9	1.9	17.3	16.3	21.2	29.8	2.9	2.9
	3年以上~10年未満	164	71.3	6.7	8.5	44.5	17.1	8.5	1.8	3.7	22.0	18.3	27.4	36.6	1.8	3.7
	10年以上~20年未満	223	71.7	6.7	7.2	45.3	11.2	14.3	3.6	3.1	22.0	24.7	25.6	32.3	0.9	2.7
	20年以上	1,034	68.9	7.6	10.2	52.1	16.2	13.2	4.1	2.6	27.2	17.7	21.4	24.4	1.5	4.4

(8) 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

問23 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、あなたが特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること	77.3%
2 本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアについて正しく理解できるような広報・啓発活動	19.4%
3 医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保	39.7%
4 ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保	28.6%
5 医師による往診の体制が確立されていること	34.2%
6 訪問看護の体制が充実していること	28.9%
7 容態が急変した時の体制が確保されていること	40.9%
8 その他（具体的に：)	1.3%
（無回答）	4.1%

今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うことについて、「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」(77.3%)が最も多く、次いで「容態が急変した時の体制が確保されていること」(40.9%)、「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」(39.7%)、「医師による往診の体制が確立されていること」(34.2%)などとなっている。

図表 4-(8)-1 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなりたくないこと	77.3	1,218 人
(2) 本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアについて正しく理解できるような広報・啓発活動	19.4	306 人
(3) 医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保	39.7	626 人
(4) ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保	28.6	450 人
(5) 医師による往診の体制が確立されていること	34.2	539 人
(6) 訪問看護の体制が充実していること	28.9	455 人
(7) 容態が急変した時の体制が確保されていること	40.9	644 人
(8) その他	1.3	20 人
無回答	4.1	65 人

グラフ単位：(%)

今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うことについて、性別にみると、男女ともに「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」が最も多く、その比率は『男性』(78.2%)、『女性』(76.6%) になっており、これに『男性』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」(43.7%) が、『女性』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」(42.5%) が続いている。

年齢別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」が7割を超え最も多く、これに『20～29歳』、『30～39歳』、『60～69歳』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が、『40～49歳』、『50～59歳』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、『70歳以上』では「医師による往診の体制が確立されていること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」が6割を超え最も多く、これに『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、そのほかの職業では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」が7割を超え最も多く、これに『高松圏域』、『中讃圏域』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が、そのほかの圏域では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」が7割を超え最も多く、これに『20年以上』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、そのほかでは「容態が急変した時の体制が確保されていること」が続いている。

図表 4-(8)-2 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		回答者数(人)	在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること	本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアについて正しく理解できるような広報・啓発活動	医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保	ケアマネジャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保	医師による往診の体制が確立されていること	訪問看護の体制が充実していること	容態が急変した時の体制が確保されていること	その他	無回答
単位: 比率(%)											
全体		1,576	77.3	19.4	39.7	28.6	34.2	28.9	40.9	1.3	4.1
性別	男性	765	78.2	19.1	43.7	27.3	33.3	27.6	40.0	1.0	3.9
	女性	770	76.6	20.3	36.0	30.6	35.2	29.5	42.5	1.4	3.6
年齢別	20～29歳	79	75.9	27.8	44.3	31.6	29.1	16.5	48.1	-	2.5
	30～39歳	139	87.8	15.1	36.7	34.5	28.1	32.4	41.0	1.4	0.7
	40～49歳	199	80.9	24.1	42.7	30.7	29.6	21.6	41.2	2.5	2.5
	50～59歳	263	82.5	15.6	39.2	38.0	30.0	28.5	38.0	1.9	3.0
	60～69歳	405	74.8	20.7	41.5	27.2	34.1	32.3	43.2	1.0	4.2
	70歳以上	449	72.4	19.4	37.9	22.3	41.6	29.2	40.3	0.9	5.3
職業別	農林漁業	118	66.1	19.5	44.1	21.2	43.2	29.7	39.8	0.8	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	82.5	19.6	37.0	29.6	28.6	28.6	44.4	2.1	4.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	82.7	19.6	42.4	33.5	29.1	26.7	40.3	1.6	1.8
	主婦・主夫	302	71.2	20.9	28.8	28.8	41.1	32.1	45.0	0.3	5.0
	無職	351	75.2	19.1	46.2	24.5	37.3	28.5	38.7	0.9	4.0
圏域別	高松圏域	763	78.2	21.0	36.2	30.9	35.8	29.6	40.5	0.9	3.3
	東讃圏域	145	82.1	20.0	44.8	22.1	32.4	28.3	40.7	-	3.4
	小豆圏域	44	81.8	11.4	65.9	18.2	27.3	29.5	40.9	2.3	2.3
	中讃圏域	432	74.5	18.3	37.7	26.9	32.9	25.9	43.5	2.3	6.0
	西讃圏域	192	75.0	17.2	48.4	30.2	33.9	32.8	36.5	1.0	4.2
居住年数別	3年未満	104	80.8	24.0	39.4	29.8	26.9	26.9	45.2	1.0	4.8
	3年以上～10年未満	164	81.1	17.7	31.7	37.8	28.0	24.4	46.3	2.4	3.0
	10年以上～20年未満	223	76.2	19.7	41.3	30.5	36.3	29.1	41.7	0.9	1.8
	20年以上	1,034	76.8	19.5	41.1	27.5	35.6	29.4	40.1	1.2	4.1

5-A. 子どもの教育(学校)について

(1) 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状

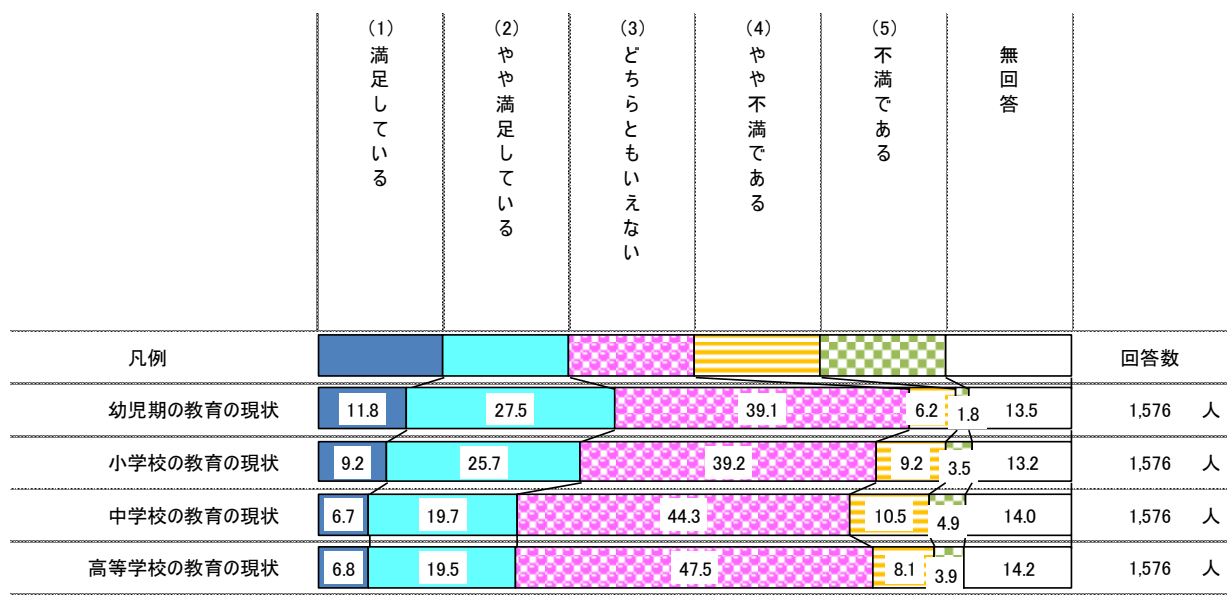
問24 幼児期の教育、小学校の教育、中学校の教育、高等学校の教育の現状についてどう思いますか。それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

項目	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
幼児期の教育の現状	11.8	27.5	39.1	6.2	1.8	13.5
小学校の教育の現状	9.2	25.7	39.2	9.2	3.5	13.2
中学校の教育の現状	6.7	19.7	44.3	10.5	4.9	14.0
高等学校の教育の現状	6.8	19.5	47.5	8.1	3.9	14.2

幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状について、「満足している」+「やや満足している」を合わせた『満足している』は「幼児期の現状」(39.3%)が最も多くなっている。

図表 5-A-(1)-1 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状



グラフ単位: (%)

幼児期の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(38.2%)、『女性』(40.5%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(28.0%)、『女性』(27.8%)が続いている。「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】は男女ともに「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『30～39 歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が半数を超え最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多く、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 5-A-(1)-2 幼児期の教育の現状

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		回答者数 (人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	11.8	27.5	39.1	6.2	1.8	13.5
性別	男性	765	12.0	28.0	38.2	8.0	1.8	12.0
	女性	770	11.9	27.8	40.5	4.4	1.8	13.5
年齢別	20~29歳	79	22.8	21.5	44.3	3.8	1.3	6.3
	30~39歳	139	16.5	30.9	42.4	6.5	1.4	2.2
	40~49歳	199	14.1	32.7	39.2	6.0	2.5	5.5
	50~59歳	263	10.6	25.5	43.7	10.3	1.9	8.0
	60~69歳	405	8.4	26.9	43.0	7.7	3.0	11.1
	70歳以上	449	11.8	28.1	31.6	3.1	0.7	24.7
職業別	農林漁業	118	16.9	33.9	28.8	5.1	-	15.3
	商工業、サービス業、 自由業など	189	12.2	29.1	38.6	6.3	5.8	7.9
	会社、商店、官公庁 などに勤務	561	12.8	28.3	44.2	7.5	1.6	5.5
	主婦・主夫	302	11.9	26.8	37.7	4.3	1.0	18.2
	無職	351	9.4	24.8	37.9	6.0	1.4	20.5
圏域別	高松圏域	763	11.9	27.3	39.6	7.6	1.6	12.1
	東讃圏域	145	8.3	27.6	44.8	5.5	3.4	10.3
	小豆圏域	44	6.8	36.4	40.9	2.3	2.3	11.4
	中讃圏域	432	13.0	26.2	38.0	4.9	1.2	16.9
	西讃圏域	192	12.5	29.2	35.4	5.2	3.1	14.6
居住年数別	3年未満	104	13.5	23.1	43.3	7.7	1.9	10.6
	3年以上~10年未満	164	15.2	24.4	42.7	6.7	1.8	9.1
	10年以上~20年未満	223	12.6	27.8	41.3	7.6	1.8	9.0
	20年以上	1,034	11.3	29.0	38.1	5.6	1.8	14.1

小学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(36.7%)、『女性』(41.9%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(27.1%)、『女性』(24.9%)が続いている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 5-A-(1)-3 小学校の教育の現状

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		回答者数 (人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	9.2	25.7	39.2	9.2	3.5	13.2
性別	男性	765	9.5	27.1	36.7	11.4	3.7	11.6
	女性	770	9.1	24.9	41.9	7.4	3.2	13.4
年齢別	20~29歳	79	19.0	21.5	44.3	6.3	2.5	6.3
	30~39歳	139	6.5	25.2	48.9	11.5	5.8	2.2
	40~49歳	199	11.6	30.2	34.7	14.6	4.0	5.0
	50~59歳	263	9.1	21.3	46.0	12.2	4.6	6.8
	60~69歳	405	4.9	26.9	43.5	9.4	3.7	11.6
	70歳以上	449	11.8	26.7	30.1	5.3	1.8	24.3
職業別	農林漁業	118	14.4	29.7	32.2	5.1	2.5	16.1
	商工業、サービス業、 自由業など	189	7.4	21.2	45.5	11.1	6.3	8.5
	会社、商店、官公庁 などに勤務	561	8.4	29.4	41.7	11.9	3.4	5.2
	主婦・主夫	302	10.3	24.8	38.4	7.3	2.3	16.9
	無職	351	9.7	22.8	36.2	7.7	3.1	20.5
圏域別	高松圏域	763	9.7	24.8	41.0	10.0	3.1	11.4
	東讃圏域	145	5.5	26.9	42.1	10.3	5.5	9.7
	小豆圏域	44	9.1	22.7	47.7	4.5	2.3	13.6
	中讃圏域	432	9.3	26.9	35.0	8.6	3.7	16.7
	西讃圏域	192	9.9	26.6	37.5	7.8	3.1	15.1
居住年数別	3年未満	104	10.6	24.0	41.3	12.5	1.0	10.6
	3年以上~10年未満	164	9.1	21.3	45.1	10.4	5.5	8.5
	10年以上~20年未満	223	9.0	29.1	36.8	12.1	4.0	9.0
	20年以上	1,034	9.4	26.2	39.0	8.3	3.2	13.9

中学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(40.7%)、『女性』(48.7%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(20.9%)、『女性』(18.8%)が続いている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『70歳以上』が最も多くなっている。『30～39歳』では満足度が2割にも満たない結果となっている。『30～39歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『東讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 5-A-(1)-4 中学校の教育の現状

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		回答者数 (人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	6.7	19.7	44.3	10.5	4.9	14.0
性別	男性	765	7.1	20.9	40.7	13.3	5.6	12.4
	女性	770	6.5	18.8	48.7	7.8	4.2	14.0
年齢別	20~29歳	79	11.4	19.0	46.8	7.6	8.9	6.3
	30~39歳	139	3.6	12.9	60.4	10.8	7.9	4.3
	40~49歳	199	7.5	23.6	44.2	10.6	8.0	6.0
	50~59歳	263	7.2	16.3	49.0	15.6	4.9	6.8
	60~69歳	405	3.7	18.8	48.1	12.8	4.4	12.1
	70歳以上	449	9.1	23.2	34.3	6.0	2.2	25.2
職業別	農林漁業	118	11.9	23.7	34.7	10.2	2.5	16.9
	商工業、サービス業、 自由業など	189	6.3	14.8	49.7	11.1	9.0	9.0
	会社、商店、官公庁 などに勤務	561	5.7	20.5	49.0	13.7	4.8	6.2
	主婦・主夫	302	6.6	19.5	45.0	8.3	3.0	17.5
	無職	351	7.4	19.9	39.3	7.4	5.1	20.8
圏域別	高松圏域	763	7.5	18.6	45.7	10.6	5.5	12.1
	東讃圏域	145	4.8	22.8	44.1	12.4	4.1	11.7
	小豆圏域	44	6.8	18.2	54.5	4.5	2.3	13.6
	中讃圏域	432	6.0	20.4	39.8	10.9	5.3	17.6
	西讃圏域	192	6.3	20.3	46.4	8.9	3.1	15.1
居住年数別	3年未満	104	7.7	14.4	52.9	8.7	4.8	11.5
	3年以上~10年未満	164	4.9	9.8	56.7	11.0	7.9	9.8
	10年以上~20年未満	223	6.3	24.7	38.6	13.0	8.5	9.0
	20年以上	1,034	7.1	21.0	43.6	10.2	3.6	14.6

高等学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、『男性』(45.2%)、『女性』(50.8%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(20.1%)、『女性』(19.1%)が続いている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『20～29 歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『東讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 5-A-(1)-5 高等学校の教育の現状

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		回答者数 (人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	6.8	19.5	47.5	8.1	3.9	14.2
性別	男性	765	7.1	20.1	45.2	10.8	4.3	12.4
	女性	770	6.6	19.1	50.8	5.5	3.4	14.7
年齢別	20~29歳	79	13.9	25.3	41.8	7.6	5.1	6.3
	30~39歳	139	5.8	10.8	62.6	8.6	7.2	5.0
	40~49歳	199	6.5	22.6	52.8	5.5	5.5	7.0
	50~59歳	263	6.1	18.6	50.6	13.7	3.4	7.6
	60~69歳	405	4.4	17.3	52.8	9.6	3.2	12.6
	70歳以上	449	8.9	22.3	36.7	4.7	2.7	24.7
職業別	農林漁業	118	12.7	22.0	39.8	6.8	2.5	16.1
	商工業、サービス業、 自由業など	189	6.3	15.3	50.8	9.0	8.5	10.1
	会社、商店、官公庁 などに勤務	561	5.9	20.5	53.3	10.7	3.2	6.4
	主婦・主夫	302	7.6	18.9	47.4	4.3	3.0	18.9
	無職	351	6.6	19.7	41.9	7.7	3.1	21.1
圏域別	高松圏域	763	8.0	17.7	49.9	7.7	4.1	12.6
	東讃圏域	145	7.6	20.7	48.3	7.6	4.8	11.0
	小豆圏域	44	4.5	22.7	56.8	4.5	2.3	9.1
	中讃圏域	432	5.1	22.0	41.9	8.8	4.2	18.1
	西讃圏域	192	5.7	19.3	47.4	9.4	2.6	15.6
居住年数別	3年未満	104	9.6	13.5	49.0	10.6	3.8	13.5
	3年以上~10年未満	164	4.9	8.5	59.1	11.6	5.5	10.4
	10年以上~20年未満	223	6.3	23.8	45.7	8.1	5.8	10.3
	20年以上	1,034	7.2	20.9	46.8	7.4	3.1	14.6

(2) 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問25 幼児期の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	51.8%
2	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6%
3	きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9%
4	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2%
5	道徳心や社会性を育てること	42.2%
6	情操・感性を育てること	16.1%
7	創造力を育てること	14.5%
8	体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7%
9	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4%
10	その他（具体的に：)	0.8%
	(無回答)	5.5%

幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(51.8%)が最も多く、次いで「きちんとした「しつけ」を行うこと」(47.9%)、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」(43.2%)、「道徳心や社会性を育てること」(42.2%)などとなっている。

図表 5-A-(2)-1 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 遊びを中心とした様々な経験を積ませること	51.8	817 人
(2) 文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6	215 人
(3) きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9	755 人
(4) 「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2	681 人
(5) 道徳心や社会性を育てること	42.2	665 人
(6) 情操・感性を育てること	16.1	254 人
(7) 創造力を育てること	14.5	229 人
(8) 体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7	327 人
(9) 地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4	416 人
(10) その他	0.8	13 人
無回答	5.5	86 人

グラフ単位：(%)

幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、『男性』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」(55.7%)が、『女性』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(52.3%)が最も多く、これに『男性』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(51.6%)が、『女性』では「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」(48.3%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が半数を超え最も多く、『60～69歳』、『70歳以上』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。『50～59歳』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」、「きちんとした「しつけ」を行うこと」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。そのほかの圏域では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。そのほかでは「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が半数を超え最も多くなっている。

図表 5-A-(2)-2 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数 (人)	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	きちんとした「しつけ」を行うこと	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	道徳心や社会性を育てること	情操・感性を育てること	創造力を育てること	体力をつけ、たくましさを養うこと	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	その他	無回答
単位：比率(%)													
全体		1,576	51.8	13.6	47.9	43.2	42.2	16.1	14.5	20.7	26.4	0.8	5.5
性別	男性	765	51.6	14.9	55.7	38.4	45.1	15.2	15.3	20.0	24.6	0.9	3.5
	女性	770	52.3	12.6	40.6	48.3	39.6	17.7	13.6	22.3	28.4	0.8	6.2
年齢別	20～29歳	79	77.2	29.1	30.4	39.2	40.5	11.4	12.7	19.0	26.6	-	3.8
	30～39歳	139	66.2	16.5	30.9	44.6	40.3	15.8	22.3	17.3	37.4	0.7	0.7
	40～49歳	199	55.3	18.1	45.7	40.2	46.7	20.1	17.6	16.1	29.6	1.0	1.5
	50～59歳	263	51.0	12.9	51.0	45.2	43.3	19.8	16.0	20.2	27.0	1.1	2.3
	60～69歳	405	50.9	9.9	52.6	44.4	44.2	14.3	16.8	22.2	26.2	1.2	3.2
	70歳以上	449	43.4	12.5	51.9	43.2	39.4	15.4	8.0	24.7	21.8	0.4	10.7
職業別	農林漁業	118	52.5	16.1	48.3	48.3	39.8	13.6	7.6	21.2	28.0	2.5	4.2
	商工業、サービス業、自由業など	189	51.9	12.7	54.0	39.7	41.3	13.8	19.6	22.2	26.5	0.5	4.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	56.0	15.3	46.3	44.0	46.0	18.5	15.7	16.8	31.2	0.7	1.6
	主婦・主夫	302	48.7	10.9	46.4	48.7	44.7	15.9	11.3	23.5	23.8	1.0	6.3
	無職	351	48.1	13.4	49.3	39.6	36.2	16.0	15.1	25.1	21.4	0.6	8.8
圏域別	高松圏域	763	51.5	13.8	48.9	42.9	45.3	18.0	14.2	22.0	24.9	0.5	4.5
	東讃圏域	145	49.7	19.3	52.4	37.2	39.3	13.8	15.2	22.8	26.9	0.7	4.8
	小豆圏域	44	61.4	15.9	56.8	50.0	36.4	13.6	11.4	18.2	27.3	-	2.3
	中讃圏域	432	50.5	11.3	44.7	44.0	41.9	15.7	16.7	17.4	28.2	1.4	6.7
	西讃圏域	192	55.7	13.5	45.8	45.8	33.9	12.0	11.5	22.4	27.6	1.0	7.8
居住年数別	3年未満	104	55.8	18.3	47.1	39.4	46.2	23.1	14.4	17.3	20.2	-	3.8
	3年以上～10年未満	164	63.4	17.7	33.5	40.9	45.7	15.9	19.5	15.9	29.3	1.2	4.3
	10年以上～20年未満	223	56.5	13.5	43.9	47.1	43.0	18.8	18.8	18.8	27.4	0.9	1.8
	20年以上	1,034	49.0	12.6	51.6	43.7	41.4	15.3	12.7	22.9	26.8	0.9	5.4

(3) 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問26 小学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	60.1%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	43.1%
3	道徳教育の充実	38.3%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4%
5	健康な体づくりと体力の向上	38.1%
6	学力・学習意欲の向上	18.1%
7	体験活動の充実	15.4%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7%
10	障害のある児童への支援	9.6%
11	その他（具体的に：)	1.0%
	(無回答)	4.7%

小学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「基礎的・基本的な学力の習得」(60.1%)が最も多く、次いで「基本的な生活習慣・規律の確立」(43.1%)、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(41.4%)、「道徳教育の充実」(38.3%)などとなっている。

図表 5-A-(3)-1 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	60.1	947 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	43.1	679 人
(3) 道徳教育の充実	38.3	604 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4	653 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	38.1	600 人
(6) 学力・学習意欲の向上	18.1	286 人
(7) 体験活動の充実	15.4	243 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5	103 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7	122 人
(10) 障害のある児童への支援	9.6	152 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	4.7	74 人

グラフ単位：(%)

小学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「基礎的・基本的な学力の習得」が最も多く、その比率は『男性』（58.8%）、『女性』（61.6%）となっており、これに『男性』では「基本的な生活習慣・規律の確立」（44.3%）が、『女性』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」（44.0%）が続いている。

年齢別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『20～29歳』、『70歳以上』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかの年齢では「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

職業別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかの職業では「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『高松圏域』、『小豆圏域』では「基本的な生活習慣・規律の確立」が、『中讃圏域』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、『西讃圏域』では「健康な体づくりと体力の向上」が、『東讃圏域』では「道德教育の充実」、「健康な体づくりと体力の向上」が同率で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『3年以上～10年未満』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかでは「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

図表 5-A-(3)-2 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		回答者数(人)	基礎的・基本的な学力の習得	基本的な生活習慣・規律の確立	道徳教育の充実	止いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防	健康な体づくりと体力の向上	学力・学習意欲の向上	体験活動の充実	国際的な視野を獲得する機会の充実	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	障害のある児童への支援	その他	無回答
単位:比率(%)														
全体		1,576	60.1	43.1	38.3	41.4	38.1	18.1	15.4	6.5	7.7	9.6	1.0	4.7
性別	男性	765	58.8	44.3	42.1	39.6	39.2	20.4	14.8	5.9	8.9	8.0	1.3	3.3
	女性	770	61.6	42.2	34.7	44.0	37.3	16.4	16.5	7.3	6.9	10.9	0.6	5.3
年齢別	20～29歳	79	64.6	39.2	36.7	49.4	27.8	24.1	25.3	6.3	7.6	7.6	1.3	2.5
	30～39歳	139	71.9	39.6	36.0	38.1	36.7	18.7	28.8	7.2	7.2	7.2	0.7	0.7
	40～49歳	199	62.8	41.2	40.7	40.7	35.7	27.1	16.1	7.5	5.0	8.5	2.0	1.5
	50～59歳	263	60.8	49.0	41.8	35.7	41.8	17.1	16.3	7.2	9.1	7.2	0.8	2.3
	60～69歳	405	57.5	47.9	38.0	45.9	39.5	16.0	14.8	7.4	8.6	10.4	1.2	2.2
	70歳以上	449	56.8	38.5	36.5	41.6	38.8	16.3	10.2	5.1	8.0	11.4	0.7	9.8
職業別	農林漁業	118	59.3	37.3	33.1	42.4	40.7	23.7	15.3	4.2	11.9	7.6	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	63.0	47.1	38.6	43.9	34.4	20.1	16.4	11.1	7.4	6.9	-	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	62.9	47.1	41.7	38.0	39.9	19.6	18.9	5.9	7.3	8.0	1.4	1.2
	主婦・主夫	302	63.6	39.4	36.4	43.7	38.1	12.6	14.6	6.3	7.3	12.9	1.0	6.0
	無職	351	53.0	41.0	36.8	44.4	37.6	19.4	10.8	6.8	8.0	10.8	0.3	7.4
圏域別	高松圏域	763	59.9	44.3	40.6	41.5	36.7	17.6	15.9	6.8	8.0	10.4	0.8	4.1
	東讃圏域	145	60.7	37.2	38.6	37.9	38.6	21.4	15.9	6.2	8.3	9.7	1.4	4.1
	小豆圏域	44	77.3	47.7	40.9	27.3	27.3	31.8	18.2	4.5	4.5	4.5	-	4.5
	中讃圏域	432	58.6	42.6	35.6	43.5	39.1	16.0	14.1	7.4	7.6	10.2	1.4	5.6
	西讃圏域	192	59.9	42.7	34.4	42.2	43.2	19.8	15.6	4.2	7.3	6.8	1.0	5.7
居住年数別	3年未満	104	63.5	43.3	41.3	39.4	31.7	14.4	14.4	10.6	10.6	9.6	1.0	3.8
	3年以上～10年未満	164	62.2	39.6	36.6	42.1	34.8	23.8	20.7	7.3	5.5	9.1	1.2	4.3
	10年以上～20年未満	223	65.9	43.9	41.3	39.5	38.1	21.1	18.8	8.1	4.0	8.5	1.3	1.3
	20年以上	1,034	58.5	43.9	37.7	42.5	39.7	17.4	14.4	5.9	8.9	9.7	0.9	4.6

(4) 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問27 中学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	42.6%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	26.8%
3	道德教育の充実	33.9%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9%
5	健康な体づくりと体力の向上	21.8%
6	学力・学習意欲の向上	34.6%
7	体験活動の充実	14.8%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5%
10	障害のある生徒への支援	7.0%
11	部活動の充実	13.1%
12	その他（具体的に：)	1.3%
	(無回答)	4.8%

中学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(48.9%)が最も多く、次いで「基礎的・基本的な学力の習得」(42.6%)、「学力・学習意欲の向上」(34.6%)、「道德教育の充実」(33.9%)などとなっている。

図表 5-A-(4)-1 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	42.6	671 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	26.8	423 人
(3) 道徳教育の充実	33.9	535 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9	771 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	21.8	343 人
(6) 学力・学習意欲の向上	34.6	545 人
(7) 体験活動の充実	14.8	234 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2	255 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5	276 人
(10) 障害のある児童への支援	7.0	110 人
(11) 部活動の充実	13.1	206 人
(12) その他	1.3	20 人
無回答	4.8	76 人

グラフ単位：(%)

中学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、その比率は『男性』(45.1%)、『女性』(53.5%)となっており、これに「基礎的・基本的な学力の習得」『男性』(43.0%)、『女性』(42.3%)が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多くなっている。『40～49歳』では「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、『農林漁業』では「基礎的・基本的な学力の習得」も同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多くなっている。『小豆圏域』では「基礎的・基本的な学力の習得」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、これに「基礎的・基本的な学力の習得」が続いている。

図表 5-A-(4)-2 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数（人）	基礎的・基本的な学力の習得	基本的な生活習慣・規律の確立	道徳教育の充実	止 いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防	健康な体づくりと体力の向上	学力・学習意欲の向上	体験活動の充実	国際的な視野を獲得する機会の充実	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	障害のある生徒への支援	部活動の充実	その他	無回答
単位：比率(%)															
全体		1,576	42.6	26.8	33.9	48.9	21.8	34.6	14.8	16.2	17.5	7.0	13.1	1.3	4.8
性別	男性	765	43.0	28.1	37.1	45.1	23.1	37.0	14.9	15.8	17.9	6.8	12.2	1.6	3.4
	女性	770	42.3	25.3	30.6	53.5	20.8	32.6	15.3	16.9	16.9	7.1	14.2	0.9	5.6
年齢別	20～29歳	79	41.8	26.6	29.1	50.6	19.0	38.0	21.5	11.4	16.5	8.9	20.3	3.8	2.5
	30～39歳	139	46.0	20.9	26.6	54.0	12.9	36.7	24.5	23.0	23.0	2.9	19.4	0.7	0.7
	40～49歳	199	56.3	20.6	31.2	50.8	18.6	34.2	15.1	22.1	18.6	8.5	11.1	1.0	1.5
	50～59歳	263	43.0	28.9	33.5	47.1	22.8	37.3	14.8	16.3	17.9	5.3	17.9	1.1	2.7
	60～69歳	405	35.1	32.3	33.1	52.6	23.0	37.0	15.6	17.3	16.8	8.6	13.8	1.7	2.5
	70歳以上	449	43.2	24.9	39.4	45.0	25.4	30.5	10.7	12.0	15.1	6.7	7.6	0.9	10.0
職業別	農林漁業	118	40.7	37.3	33.1	40.7	22.9	32.2	15.3	16.1	17.8	6.8	8.5	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	46.6	23.8	36.0	52.4	22.8	35.4	11.1	20.1	18.0	7.4	11.6	1.1	2.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	43.1	26.7	34.0	48.8	21.2	37.4	18.4	16.9	19.8	6.2	15.9	1.1	1.4
	主婦・主夫	302	41.4	25.2	30.5	53.0	20.2	32.8	14.9	15.2	14.2	7.6	13.9	1.7	7.0
	無職	351	42.2	26.5	35.6	48.1	23.9	33.0	12.3	15.1	15.7	7.4	11.1	0.9	7.1
圏域別	高松圏域	763	43.1	26.6	35.6	48.0	22.9	34.7	14.7	18.2	18.6	6.8	10.9	1.3	4.1
	東讃圏域	145	44.1	25.5	27.6	49.7	24.1	36.6	13.1	13.8	16.6	9.0	12.4	1.4	5.5
	小豆圏域	44	50.0	25.0	36.4	47.7	25.0	34.1	15.9	20.5	13.6	2.3	15.9	-	2.3
	中讃圏域	432	41.9	27.5	33.6	50.9	17.6	33.8	16.2	15.0	15.5	7.6	14.6	1.4	5.8
	西讃圏域	192	39.1	27.6	32.3	47.9	24.0	34.4	13.5	11.5	19.3	5.7	18.2	1.0	5.7
居住年数別	3年未満	104	41.3	21.2	33.7	51.0	16.3	31.7	19.2	15.4	25.0	7.7	16.3	1.9	3.8
	3年以上～10年未満	164	40.9	23.8	27.4	53.0	18.3	37.8	15.9	20.1	21.3	6.7	14.0	0.6	4.3
	10年以上～20年未満	223	49.8	23.8	31.8	52.5	23.3	35.9	13.5	17.9	17.9	7.2	14.3	0.9	1.3
	20年以上	1,034	41.7	28.4	35.5	47.8	23.0	34.4	14.9	15.8	15.9	7.0	12.5	1.4	5.0

(5) 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問28 高等学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2%
2	生徒の進路実現のための学力の習得	43.1%
3	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4%
4	道德教育の充実	24.0%
5	学力・学習意欲の向上	23.1%
6	国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3%
7	健康な体づくりと体力の向上	16.8%
8	障害のある生徒への支援	6.0%
9	部活動の充実	9.6%
10	インターンシップ（就業体験）など就職支援の充実	23.7%
11	地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1%
12	その他（具体的に： （無回答）	1.1% 5.3%

高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」（48.4%）が最も多く、次いで「生徒の進路実現のための学力の習得」（43.1%）、「国際的な視野を獲得する機会の充実」（34.3%）、「いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止」（31.2%）などとなっている。

図表 5-A-(5)-1 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2	491 人
(2) 生徒の進路実現のための学力の習得	43.1	679 人
(3) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4	762 人
(4) 道德教育の充実	24.0	378 人
(5) 学力・学習意欲の向上	23.1	364 人
(6) 国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3	540 人
(7) 健康な体づくりと体力の向上	16.8	264 人
(8) 障害のある生徒への支援	6.0	95 人
(9) 部活動の充実	9.6	152 人
(10) インターンシップ(就業体験)など就職支援の充実	23.7	374 人
(11) 地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1	238 人
(12) その他	1.1	18 人
無回答	5.3	83 人

グラフ単位：(%)

高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、その比率は『男性』(48.2%)、『女性』(49.6%)となっており、これに「生徒の進路実現のための学力の習得」『男性』(44.2%)、『女性』(42.6%)が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「生徒の進路実現のための学力の習得」、「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が同率で最も多くなっている。『50～59歳』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が、そのほかの年齢では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、『農林漁業』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が最も多くなっている。これに『農林漁業』では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が、そのほかの職業では「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、『小豆圏域』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が半数を超え最も多くなっている。これに『小豆圏域』では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が、そのほかの圏域では「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、これに「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

図表 5-A-(5)-2 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	生徒の進路実現のための学力の習得	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	道徳教育の充実	学力・学習意欲の向上	国際的な視野を獲得する機会の充実	健康な体づくりと体力の向上	障害のある生徒への支援	部活動の充実	インターンシップなど就職支援の充実	地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	その他	無回答
単位: 比率(%)															
全体		1,576	31.2	43.1	48.4	24.0	23.1	34.3	16.8	6.0	9.6	23.7	15.1	1.1	5.3
性別	男性	765	29.2	44.2	48.2	25.5	26.1	34.1	17.1	5.6	10.5	21.8	16.2	1.6	3.9
	女性	770	33.4	42.6	49.6	22.6	20.4	34.5	16.4	6.4	8.6	26.1	13.8	0.6	6.0
年齢別	20～29歳	79	29.1	48.1	50.6	19.0	21.5	24.1	11.4	5.1	16.5	39.2	16.5	3.8	2.5
	30～39歳	139	30.2	51.1	51.1	12.9	25.9	33.8	9.4	2.2	10.8	40.3	19.4	0.7	0.7
	40～49歳	199	25.6	51.3	54.8	18.6	28.6	36.7	11.6	5.5	9.5	30.7	12.6	1.5	1.5
	50～59歳	263	26.2	52.1	50.6	21.7	20.9	34.2	14.4	4.9	12.5	29.7	15.6	1.5	2.7
	60～69歳	405	31.9	36.8	50.6	26.4	21.2	41.2	18.8	8.4	7.7	22.7	16.0	1.2	3.2
	70歳以上	449	36.5	37.6	43.0	29.8	23.8	29.4	22.0	6.0	8.0	11.1	13.1	0.4	10.9
職業別	農林漁業	118	28.8	44.1	43.2	30.5	27.1	28.0	20.3	6.8	5.9	18.6	15.3	0.8	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	32.3	47.1	48.7	25.4	25.9	36.0	14.3	5.3	10.6	25.4	14.8	0.5	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	27.5	46.5	54.2	20.5	22.6	36.2	14.4	5.0	10.5	32.3	16.2	1.8	1.4
	主婦・主夫	302	32.1	41.4	47.7	25.5	20.9	35.1	19.9	6.0	9.3	18.9	13.6	0.7	7.3
	無職	351	36.2	39.0	43.9	25.1	23.9	33.0	18.8	7.4	9.1	16.5	14.8	0.9	7.7
圏域別	高松圏域	763	31.2	42.9	48.1	23.3	23.9	36.7	16.4	5.2	8.1	26.5	15.9	1.2	4.5
	東讃圏域	145	31.7	40.7	42.1	28.3	22.1	33.8	15.9	7.6	15.2	22.8	14.5	0.7	4.8
	小豆圏域	44	27.3	54.5	50.0	34.1	25.0	36.4	18.2	4.5	9.1	15.9	4.5	2.3	2.3
	中讃圏域	432	32.4	41.0	48.4	22.9	22.7	31.5	17.1	6.7	10.0	22.5	15.5	1.4	6.7
	西讃圏域	192	28.6	47.9	53.6	23.4	21.4	30.7	17.7	6.8	10.9	18.2	14.1	0.5	6.3
居住年数別	3年未満	104	26.9	44.2	47.1	16.3	26.0	26.9	11.5	4.8	15.4	34.6	19.2	2.9	4.8
	3年以上～10年未満	164	31.1	40.9	52.4	25.0	28.7	32.9	10.4	4.9	11.0	33.5	12.2	0.6	4.3
	10年以上～20年未満	223	26.5	48.9	51.1	19.3	25.1	37.2	16.1	6.3	10.3	26.0	17.0	0.9	1.8
	20年以上	1,034	32.6	42.7	48.2	25.5	21.9	35.0	18.6	6.1	8.7	21.2	14.6	1.1	5.5

5-B. 子どもの教育(家庭・地域)について

(1)しつけや学習など家庭での教育の状況

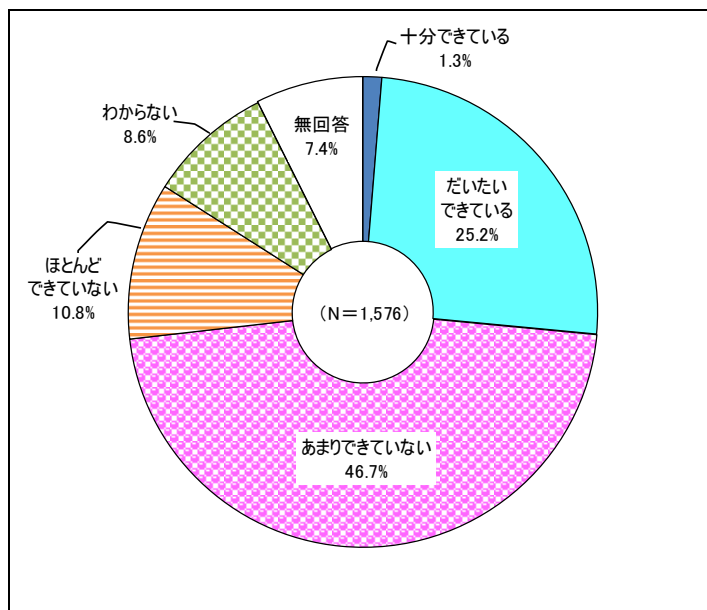
問29 周囲を考えたとき、最近、しつけや学習など家庭での教育が十分にできていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 十分できている	1.3%
2 だいたいできている	25.2%
3 あまりできていない	46.7%
4 ほとんどできていない	10.8%
5 わからない	8.6%
(無回答)	7.4%

しつけや学習など家庭での教育の状況について、「あまりできていない」(46.7%)が最も多く、次いで「だいたいできている」(25.2%)、「ほとんどできていない」(10.8%)、「わからない」(8.6%)などとなっている。

図表 5-B-(1)-1 しつけや学習など家庭での教育の状況



しつけや学習など家庭での教育の状況について、

性別にみると、男女ともに「あまりできていない」が最も多く、その比率は『男性』(45.8%)、『女性』(48.2%)となっており、これに「だいたいできている」『男性』(25.8%)、『女性』(25.2%)が続いている。「あまりできていない」と「ほとんどできていない」を合わせた【できていない】が「十分できている」と「だいたいできている」を合わせた【できている】を上回っている。

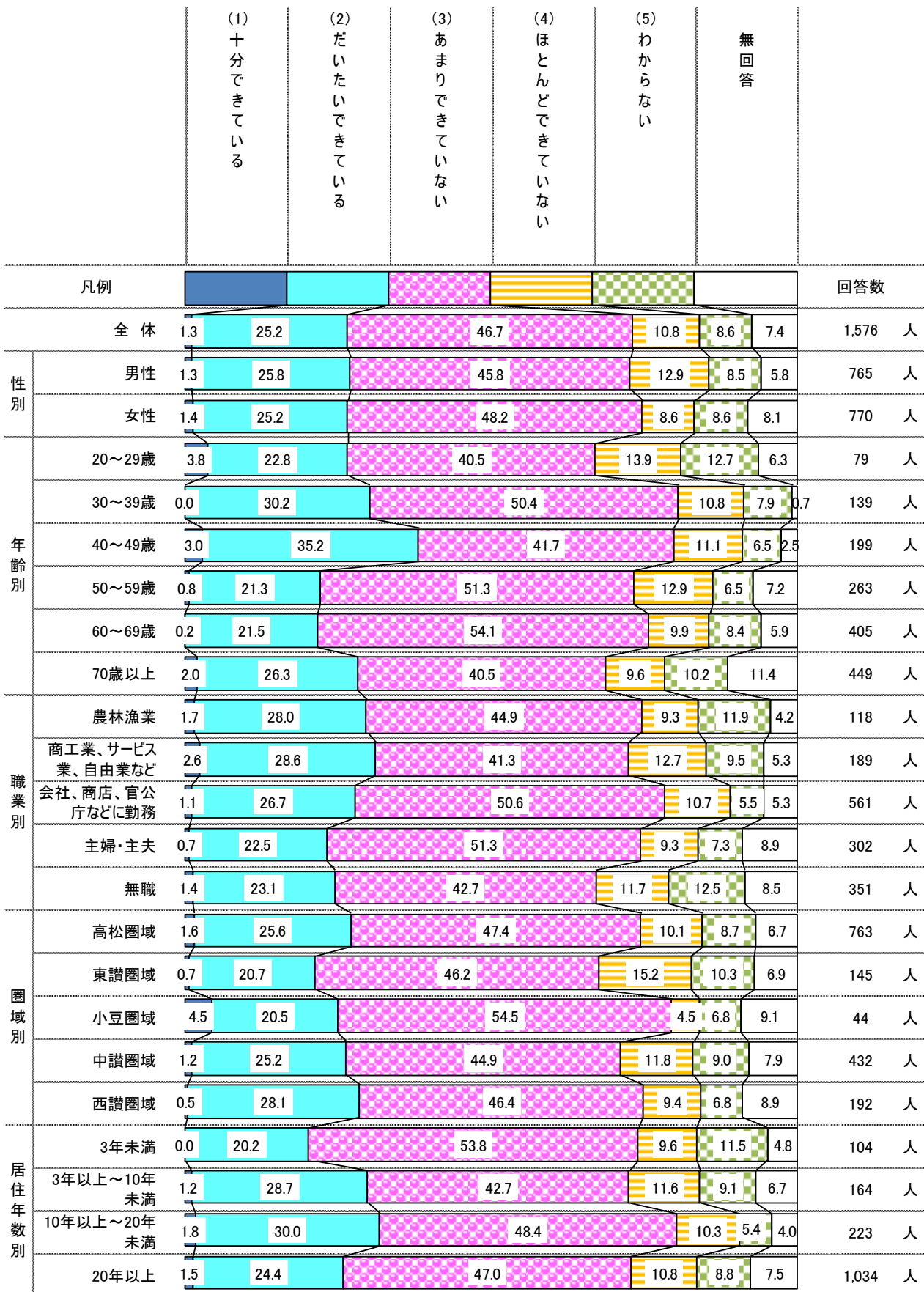
年齢別にみると、【できている】は『40～49 歳』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

職業別にみると、【できている】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

圏域別にみると、【できている】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

居住年数別にみると、【できている】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

図表 5-B-(1)-2 しつけや学習など家庭での教育の状況



グラフ単位：(%)

(2) 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

問30 家庭での教育を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	親の子どもへの積極的な関わり	59.8%
2	子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1%
3	親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5%
4	家庭教育の重要性についての啓発	33.9%
5	子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5%
6	家庭教育に関する相談体制の充実	23.4%
7	その他（具体的に：)	3.6%
	(無回答)	6.9%

家庭での教育を充実させるために必要だと思うことについて、「親の子どもへの積極的な関わり」(59.8%)が最も多く、次いで「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」(59.5%)、「家庭教育の重要性についての啓発」(33.9%)、「子どもが体験活動を行う機会の提供」(33.1%)などとなっている。

図表 5-B-(2)-1 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 親の子どもへの積極的な関わり	59.8	943 人
(2) 子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1	521 人
(3) 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5	937 人
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	33.9	534 人
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5	512 人
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	23.4	369 人
(7) その他	3.6	57 人
無回答	6.9	109 人

グラフ単位：(%)

家庭での教育を充実させるために必要だと思うことについて、

性別にみると、『男性』では「親の子どもへの積極的な関わり」（59.1%）が、『女性』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」（62.9%）が最も多くなっている。これに『男性』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」（57.0%）が、『女性』では「親の子どもへの積極的な関わり」（61.0%）が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。『30～39歳』では「親の子どもへの積極的な関わり」、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多く、そのほかの職業では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多くなっている。これに『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「親の子どもへの積極的な関わり」が、そのほかの職業では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が続いている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『西讃圏域』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。『高松圏域』では「親の子どもへの積極的な関わり」、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『20年以上』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。これに『20年以上』では「親の子どもへの積極的な関わり」が、そのほかでは「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が続いている。

図表 5-B-(2)-2 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		回答者数 (人)	親の子どもへの積極的な関わり	子どもが体験活動を行う機会の提供	改善 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の	家庭教育の重要性についての啓発	子どもや親同士が交流できる機会の提供	家庭教育に関する相談体制の充実	その他	無回答
単位：比率(%)										
全体		1,576	59.8	33.1	59.5	33.9	32.5	23.4	3.6	6.9
性別	男性	765	59.1	36.6	57.0	35.2	33.5	23.0	4.4	5.9
	女性	770	61.0	30.3	62.9	32.7	31.4	24.2	3.0	7.0
年齢別	20～29歳	79	68.4	30.4	65.8	26.6	35.4	25.3	3.8	5.1
	30～39歳	139	66.2	33.8	66.2	22.3	40.3	17.3	3.6	0.7
	40～49歳	199	65.8	30.2	67.3	29.1	21.6	24.6	6.5	2.5
	50～59歳	263	57.4	33.5	57.8	33.1	28.1	24.0	6.1	6.5
	60～69歳	405	58.5	36.8	55.6	41.0	33.6	24.7	2.0	5.4
	70歳以上	449	57.2	32.3	59.7	35.2	36.3	23.6	2.4	10.7
職業別	農林漁業	118	55.9	33.1	62.7	35.6	39.0	20.3	3.4	4.2
	商工業、サービス業、自由業など	189	63.5	39.2	61.4	36.0	33.9	24.3	3.2	4.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	62.7	33.5	60.4	31.9	30.5	23.7	5.2	4.1
	主婦・主夫	302	62.3	30.1	63.2	33.4	30.1	25.2	1.7	7.6
	無職	351	53.8	33.6	55.3	35.6	35.0	23.4	3.4	9.7
圏域別	高松圏域	763	59.5	35.0	59.5	37.0	31.8	24.6	3.8	5.8
	東讃圏域	145	62.1	31.0	60.0	31.7	32.4	23.4	2.8	6.9
	小豆圏域	44	65.9	38.6	56.8	34.1	20.5	15.9	6.8	6.8
	中讃圏域	432	61.8	28.9	60.6	31.5	32.4	23.8	3.9	7.6
	西讃圏域	192	53.6	34.9	56.8	28.6	38.0	19.3	2.1	9.9
居住年数別	3年未満	104	62.5	39.4	61.5	27.9	26.0	23.1	7.7	5.8
	3年以上～10年未満	164	64.0	26.8	62.2	28.0	37.8	23.2	3.7	5.5
	10年以上～20年未満	223	68.2	30.5	57.0	32.3	33.6	22.4	3.6	4.0
	20年以上	1,034	57.6	34.4	60.4	35.8	32.3	24.1	3.3	6.9

(3) 地域における大人と子どもとの関わり

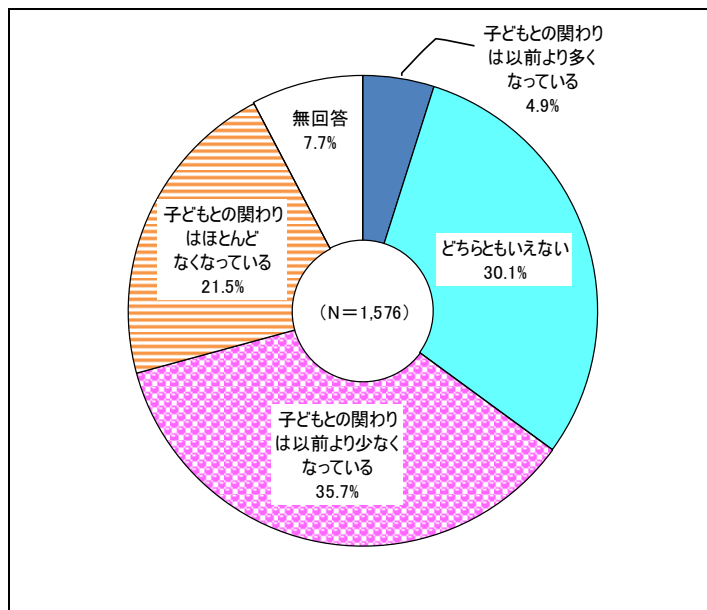
問31 地域における大人と子どもとの関わりについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1	子どもとの関わりは以前より多くなっている	4.9%
2	どちらともいえない	30.1%
3	子どもとの関わりは以前より少なくなっている	35.7%
4	子どもとの関わりはほとんどなくなっている	21.5%
	(無回答)	7.7%

地域における大人と子どもとの関わりについて、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」(35.7%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(30.1%)、「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」(21.5%)、「子どもとの関わりは以前より多くなっている」(4.9%)などとなっている。

図表 5-B-(3)-1 地域における大人と子どもとの関わり



地域における大人と子どもとの関わりについて、

性別にみると、男女ともに「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多く、その比率は『男性』(37.4%)、『女性』(35.2%)となっており、これに「どちらともいえない」『男性』(28.6%)、『女性』(31.6%)が続いている。

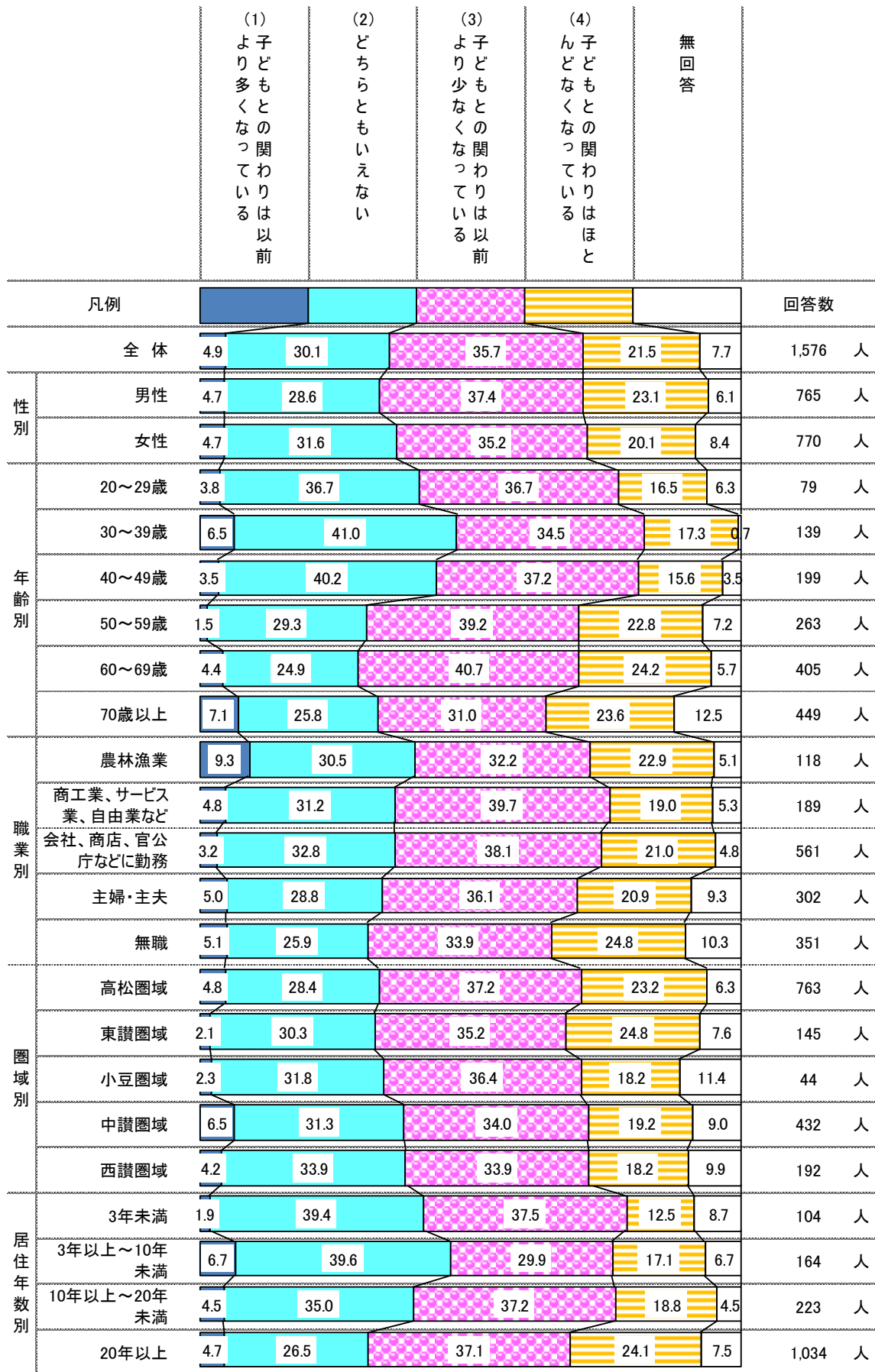
年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』では「どちらともいえない」が最も多く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。『20～29歳』では「どちらともいえない」、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多く、これに「どちらともいえない」が続いている。

圏域別にみると、『西讃圏域』では「どちらともいえない」、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が同率で最も多くなっている。そのほかの圏域では「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「どちらともいえない」が最も多く、そのほかでは「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。

図表 5-B-(3)-2 地域における大人と子どもとの関わり



グラフ単位：(%)

(4) 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

問32 地域社会で教育的活動を実践するとしたら、どのようなものに携わっていききたいと思えますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の授業や行事等の参観	27.1%
2	登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9%
3	学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1%
4	放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5%
5	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3%
6	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8%
7	授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6%
8	部活動指導や大会引率などへの支援	10.2%
9	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4%
10	子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1%
11	その他（具体的に：)	2.9%
	(無回答)	11.0%

地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動について、「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」(54.9%)が最も多く、次いで「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」(35.1%)、「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」(31.5%)、「学校の授業や行事等の参観」(27.1%)などとなっている。

図表 5-B-(4)-1 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の授業や行事等の参観	27.1	427 人
(2) 登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9	865 人
(3) 学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1	553 人
(4) 放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5	496 人
(5) 文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3	398 人
(6) 花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8	280 人
(7) 授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6	183 人
(8) 部活動指導や大会引率などへの支援	10.2	161 人
(9) 学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4	117 人
(10) 子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1	301 人
(11) その他	2.9	45 人
無回答	11.0	174 人

グラフ単位：(%)

地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動について、

性別にみると、男女ともに「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、その比率は『男性』(53.1%)、『女性』(57.0%)となっており、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」『男性』(36.1%)、『女性』(34.9%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに『20～29歳』では「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」が、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校の授業や行事等の参観」が、そのほかの年齢では「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

職業別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が半数を超え最も多く、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに『3年未満』では「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」が、『3年以上～10年未満』では「学校の授業や行事等の参観」が、そのほかでは「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

図表 5-B-(4)-2 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		回答者数(人)	学校の授業や行事等の参観	登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	部活動指導や大会引率などへの支援	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	その他	無回答
単位:比率(%)														
全体		1,576	27.1	54.9	35.1	31.5	25.3	17.8	11.6	10.2	7.4	19.1	2.9	11.0
性別	男性	765	25.6	53.1	36.1	32.4	23.7	14.9	11.5	11.0	9.4	16.7	3.1	10.3
	女性	770	29.0	57.0	34.9	31.0	26.9	20.8	11.7	9.0	5.5	21.8	2.5	10.8
年齢別	20~29歳	79	29.1	51.9	22.8	39.2	27.8	16.5	16.5	19.0	8.9	16.5	1.3	6.3
	30~39歳	139	46.8	49.6	36.7	36.7	25.9	16.5	12.9	10.8	8.6	12.2	0.7	4.3
	40~49歳	199	40.2	43.7	31.2	35.2	20.6	15.1	12.1	9.5	4.5	18.1	3.0	5.5
	50~59歳	263	21.7	55.1	38.4	28.9	20.9	16.7	12.9	9.1	8.4	14.8	4.6	9.5
	60~69歳	405	19.3	59.8	39.3	33.3	24.7	20.7	8.6	6.9	8.4	20.7	2.7	8.6
	70歳以上	449	25.4	58.4	33.9	27.2	29.8	17.8	12.2	11.6	6.7	24.3	3.1	17.6
職業別	農林漁業	118	33.9	64.4	39.8	25.4	31.4	22.9	8.5	6.8	10.2	19.5	3.4	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	22.8	56.6	39.7	32.8	21.7	16.4	11.6	10.6	8.5	21.7	3.2	9.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	29.8	51.9	36.9	35.8	24.2	15.9	12.5	9.8	6.6	15.5	2.0	6.1
	主婦・主夫	302	30.1	57.3	30.8	26.8	26.2	21.9	11.6	9.6	7.0	22.8	2.6	13.9
	無職	351	21.1	54.4	33.3	30.8	25.6	16.5	11.1	11.1	7.4	21.1	4.3	16.0
圏域別	高松圏域	763	24.9	54.3	35.0	31.5	23.6	19.3	12.6	8.9	7.7	19.5	3.3	10.1
	東讃圏域	145	26.2	55.9	37.2	28.3	24.8	11.7	8.3	8.3	2.1	15.9	0.7	11.0
	小豆圏域	44	18.2	45.5	43.2	34.1	18.2	20.5	6.8	6.8	11.4	11.4	2.3	15.9
	中讃圏域	432	30.6	56.0	33.8	32.6	27.5	17.6	12.7	12.0	8.3	20.8	3.2	11.1
	西讃圏域	192	30.7	56.3	34.9	30.7	28.6	16.1	8.9	13.5	7.3	17.7	2.1	13.5
居住年数別	3年未満	104	29.8	50.0	23.1	31.7	26.0	14.4	15.4	9.6	12.5	11.5	2.9	10.6
	3年以上~10年未満	164	43.3	43.9	34.8	40.2	20.7	20.7	12.8	12.2	7.3	18.9	1.2	8.5
	10年以上~20年未満	223	30.9	53.8	35.9	30.5	19.3	17.0	10.3	9.4	8.1	16.1	3.1	6.3
	20年以上	1,034	23.8	58.0	36.8	30.7	27.4	18.0	11.4	9.9	6.8	21.2	3.1	11.4

5-C. 子どもの教育全般について

(1) これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

問33 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4%
2	自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7%
3	コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1%
4	語学力や国際感覚	21.2%
5	自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5%
6	自ら考え判断する力	34.5%
7	他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3%
8	健康と体力	14.6%
9	困難に耐える力	18.9%
10	他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5%
11	その他（具体的に：)	1.0%
	（無回答）	5.8%

これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力について、「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」(46.3%)が最も多く、次いで「自分の考えを的確に相手に伝える力」(40.7%)、「自ら考え判断する力」「他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力」(ともに34.5%)などとなっている。

図表 5-C-(1)-1 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4	447 人
(2) 自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7	641 人
(3) コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1	191 人
(4) 語学力や国際感覚	21.2	334 人
(5) 自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5	402 人
(6) 自ら考え判断する力	34.5	543 人
(7) 他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3	729 人
(8) 健康と体力	14.6	230 人
(9) 困難に耐える力	18.9	298 人
(10) 他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5	544 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	5.8	92 人

グラフ単位：(%)

これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力について、

性別にみると、男女ともに「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、その比率は『男性』(43.5%)、『女性』(49.7%)となっており、これに「自分の考えを的確に相手に伝える力」『男性』(38.4%)、『女性』(43.4%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が半数を超え最も多く、『40～49歳』では「自ら考え判断する力」が、そのほかの年齢では「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、これに『無職』では「読み・書き・計算などの基礎的な学力」が、そのほかの職業では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、『小豆圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が、『東讃圏域』では「他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力」が、『小豆圏域』では「読み・書き・計算などの基礎的な学力」が続いている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「自分の考えを的確に相手に伝える力」が最も多くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「自ら考え判断する力」が、『20年以上』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が、そのほかでは「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が続いている。

図表 5-C-(1)-2 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		回答者数(人)	読み・書き・計算などの基礎的な学力	自分の考えを的確に相手に伝える力	コンピュータやインターネットを使いこなす力	語学力や国際感覚	自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	自ら考え判断する力	他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	健康と体力	困難に耐える力	他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	その他	無回答
単位:比率(%)														
全体		1,576	28.4	40.7	12.1	21.2	25.5	34.5	46.3	14.6	18.9	34.5	1.0	5.8
性別	男性	765	31.6	38.4	15.0	22.7	24.7	34.2	43.5	14.6	18.8	34.4	1.0	4.8
	女性	770	25.6	43.4	9.1	19.9	26.5	35.3	49.7	14.2	19.5	34.8	0.8	6.0
年齢別	20～29歳	79	19.0	57.0	10.1	12.7	29.1	40.5	44.3	15.2	17.7	36.7	1.3	5.1
	30～39歳	139	27.3	53.2	10.8	17.3	32.4	47.5	37.4	7.2	26.6	35.3	-	0.7
	40～49歳	199	22.1	45.7	12.1	23.1	29.6	48.2	44.7	10.6	16.1	34.2	1.0	2.5
	50～59歳	263	24.7	38.8	11.8	19.0	25.1	35.7	51.3	14.8	17.9	37.6	1.5	5.3
	60～69歳	405	24.7	40.0	10.6	25.4	27.2	33.1	47.4	17.5	18.8	36.0	0.7	4.2
	70歳以上	449	39.6	34.3	14.3	21.2	20.0	24.7	47.0	15.4	19.8	30.7	1.1	9.1
職業別	農林漁業	118	31.4	40.7	16.9	20.3	22.0	31.4	42.4	17.8	25.4	33.1	0.8	3.4
	商工業、サービス業、自由業など	189	30.2	39.7	9.5	21.2	28.0	32.3	48.1	18.0	24.3	33.9	0.5	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	23.4	45.6	11.6	20.5	28.3	39.2	48.5	12.7	17.5	38.3	1.2	3.2
	主婦・主夫	302	28.5	41.4	8.6	21.9	24.8	31.5	47.4	15.2	19.5	32.1	1.0	7.6
	無職	351	35.0	34.2	14.8	23.6	21.7	33.6	43.6	14.0	16.2	31.9	0.6	8.3
圏域別	高松圏域	763	26.6	42.1	10.4	23.3	24.9	35.8	45.5	15.2	19.0	36.4	0.8	5.4
	東讃圏域	145	33.8	32.4	17.9	24.1	24.8	29.7	40.0	15.9	17.2	37.9	0.7	5.5
	小豆圏域	44	40.9	45.5	15.9	13.6	34.1	34.1	38.6	11.4	9.1	25.0	2.3	6.8
	中讃圏域	432	30.1	39.8	12.5	18.3	24.8	34.7	48.6	13.9	19.0	32.2	1.6	6.5
	西讃圏域	192	24.5	42.2	13.0	18.8	28.1	32.3	50.5	13.5	21.9	31.8	0.5	6.3
居住年数別	3年未満	104	20.2	51.0	12.5	17.3	25.0	39.4	47.1	6.7	26.0	34.6	-	6.7
	3年以上～10年未満	164	28.7	48.2	7.9	18.3	29.3	46.3	40.2	14.0	17.1	31.7	1.2	4.9
	10年以上～20年未満	223	22.0	51.1	8.1	24.7	28.7	41.3	49.8	9.0	20.2	32.3	0.9	2.2
	20年以上	1,034	30.9	36.6	13.3	21.6	24.5	31.2	47.1	16.5	18.7	35.4	1.0	5.9

(2)子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

問34 子どもたちの教育環境で、これからはどのようなことが特に大切だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の施設や設備を整備すること	8.8%
2	教員の資質や指導力を向上させること	47.3%
3	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2%
4	社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6%
5	学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8%
6	学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7%
7	障害のある子どもがきちんと学べること	9.9%
8	親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6%
9	家庭教育がしっかりとできるようにすること	19.0%
10	安全・安心な地域づくりをすること	26.3%
11	だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7%
12	保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1%
13	その他（具体的に：)	1.8%
	(無回答)	6.6%

子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うことについて、「教員の資質や指導力を向上させること」(47.3%)が最も多く、次いで「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」(33.2%)、「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」(29.6%)、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」(28.8%)などとなっている。

図表 5-C-(2)-1 子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の施設や設備を整備すること	8.8	138 人
(2) 教員の資質や指導力を向上させること	47.3	746 人
(3) 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2	524 人
(4) 社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6	356 人
(5) 学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8	454 人
(6) 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7	169 人
(7) 障害のある子どもがきちんと学べること	9.9	156 人
(8) 親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6	466 人
(9) 家庭教育がしっかりできるようにすること	19.0	299 人
(10) 安全・安心な地域づくりをすること	26.3	415 人
(11) だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7	185 人
(12) 保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1	270 人
(13) その他	1.8	28 人
無回答	6.6	104 人

グラフ単位：(%)

子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、その比率は『男性』(49.9%)、『女性』(45.1%)となっており、これに「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」『男性』(32.5%)、『女性』(34.5%)が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、『20～29歳』では「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が最も多くなっている。これに『20～29歳』では「教員の資質や指導力を向上させること」が、『30～39歳』、『50～59歳』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が、『40～49歳』では「安全・安心な地域づくりをすること」が、そのほかの年齢では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が続いている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業別で「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、『農林漁業』では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が最も多くなっている。これに『農林漁業』では「教員の資質や指導力を向上させること」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」が、そのほかの職業では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、これに『高松圏域』、『西讃圏域』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が、『小豆圏域』では「社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと」が、『中讃圏域』では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が、『東讃圏域』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、これに『3年未満』では「社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと」、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が同率で続いている。そのほかでは「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が続いている。

図表 5-C-(2)-2 子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答	
		回答者数(人)	学校の施設や設備を整備すること	教員の資質や指導力を向上させること	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	学校と家庭や地域のつながりを深めること	と 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	障害のある子どもがきちんと学べること	親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようになること	家庭教育がしっかりできるようにすること	安全・安心な地域づくりをすること	だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	保護者の教育費の負担を少なくすること	その他	
単位: 比率(%)																
全体		1,576	8.8	47.3	33.2	22.6	28.8	10.7	9.9	29.6	19.0	26.3	11.7	17.1	1.8	6.6
性別	男性	765	10.6	49.9	32.5	24.4	29.5	11.5	8.5	29.4	18.3	24.1	10.8	17.3	1.8	5.8
	女性	770	6.8	45.1	34.5	21.4	28.7	10.0	11.3	30.1	20.1	28.4	13.0	17.0	1.6	6.6
年齢別	20～29歳	79	16.5	39.2	40.5	19.0	29.1	10.1	12.7	31.6	15.2	21.5	16.5	16.5	3.8	5.1
	30～39歳	139	12.2	45.3	40.3	24.5	24.5	12.2	12.9	30.2	14.4	29.5	12.9	20.9	0.7	0.7
	40～49歳	199	9.5	42.2	35.7	26.6	19.1	13.1	8.0	28.6	15.1	37.2	14.1	23.6	3.5	3.0
	50～59歳	263	6.8	49.4	33.8	26.6	21.7	10.3	9.9	27.8	24.7	27.0	9.1	16.0	1.9	5.7
	60～69歳	405	4.7	49.9	29.6	23.2	34.6	11.1	8.9	32.1	18.8	28.4	13.8	15.8	1.7	5.2
	70歳以上	449	10.7	49.0	32.7	18.9	34.1	9.4	10.2	29.2	20.3	18.9	9.8	15.4	0.9	10.5
職業別	農林漁業	118	5.1	39.8	37.3	20.3	43.2	10.2	6.8	21.2	22.9	28.0	11.0	15.3	0.8	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	9.5	51.9	29.1	25.9	25.4	16.4	9.5	30.7	20.6	29.1	12.7	18.5	1.1	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	9.6	44.0	37.3	25.8	25.3	9.4	9.6	29.1	18.4	28.9	12.7	20.9	2.5	3.7
	主婦・主夫	302	6.6	49.7	30.8	19.2	29.8	12.3	12.6	28.8	19.5	29.1	10.3	15.9	1.3	8.3
	無職	351	9.1	51.3	31.9	21.1	32.2	9.1	9.1	34.5	17.7	17.9	12.3	12.8	1.4	9.1
圏域別	高松圏域	763	9.7	47.7	35.6	23.2	24.8	11.0	8.4	29.2	20.7	26.0	13.8	17.2	2.0	5.8
	東讃圏域	145	10.3	42.1	31.0	19.3	31.0	16.6	10.3	30.3	19.3	26.9	8.3	17.9	-	6.9
	小豆圏域	44	4.5	59.1	25.0	36.4	29.5	9.1	2.3	20.5	20.5	25.0	13.6	15.9	4.5	6.8
	中讃圏域	432	7.4	47.9	29.9	22.0	34.3	9.7	10.4	32.2	16.4	26.4	10.9	16.0	2.1	7.6
	西讃圏域	192	7.8	45.8	34.9	20.8	30.7	7.8	16.1	26.6	17.2	27.6	7.8	19.3	1.0	7.3
居住年数別	3年未満	104	8.7	47.1	23.1	31.7	31.7	12.5	8.7	30.8	16.3	24.0	13.5	11.5	1.9	7.7
	3年以上～10年未満	164	11.6	45.1	43.3	25.6	22.0	9.8	11.6	26.8	13.4	29.9	7.3	24.4	2.4	5.5
	10年以上～20年未満	223	9.4	47.5	32.3	25.1	25.1	13.9	9.9	30.5	17.9	26.0	17.9	20.2	1.8	2.2
	20年以上	1,034	8.2	47.9	33.6	21.1	30.9	10.2	9.8	30.2	20.6	26.1	11.2	16.0	1.5	6.8

5-D. 生涯学習・スポーツについて

(1) 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

問35 生涯学習を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす	44.7%
2	学習についての情報提供を充実する	26.0%
3	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2%
4	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5%
5	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3%
6	生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4%
7	身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0%
8	小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8%
9	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8%
10	その他(具体的に:)	1.5%
	(無回答)	8.2%

生涯学習を充実させるために必要だと思うことについて、「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」(47.0%)が最も多く、次いで「住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす」(44.7%)、「学習についての情報提供を充実する」(26.0%)、「生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする」(25.4%)などとなっている。

図表 5-D-(1)-1 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす	44.7	705 人
(2) 学習についての情報提供を充実する	26.0	410 人
(3) 乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2	381 人
(4) 職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5	308 人
(5) 学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3	336 人
(6) 生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4	400 人
(7) 身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0	740 人
(8) 小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8	265 人
(9) 交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8	233 人
(10) その他	1.5	23 人
無回答	8.2	130 人

グラフ単位：(%)

生涯学習を充実させるために必要だと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多く、『男性』(46.7%)、『女性』(48.2%)となっており、これに「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」『男性』(44.7%)、『女性』(45.2%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多く、そのほかの年齢では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに『20～29歳』、『70歳以上』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が、そのほかの年齢では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多く、そのほかの職業では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに『農林漁業』、『無職』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が、そのほかの職業では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多く、そのほかの圏域では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が、そのほかの圏域では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

図表 5-D-(1)-2 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)			
		回答者数(人)	住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	学習についての情報提供を充実する	で乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	発表の場、ボランティア活動などを充実する	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	その他	無回答
単位: 比率(%)														
全体		1,576	44.7	26.0	24.2	19.5	21.3	25.4	47.0	16.8	14.8	1.5	8.2	
性別	男性	765	44.7	29.4	20.4	20.8	21.6	25.4	46.7	19.6	14.4	1.7	6.9	
	女性	770	45.2	23.0	28.8	18.3	22.1	25.6	48.2	14.2	14.9	1.3	8.2	
年齢別	20～29歳	79	43.0	26.6	27.8	32.9	22.8	25.3	39.2	19.0	10.1	-	2.5	
	30～39歳	139	40.3	28.1	30.9	28.8	18.0	24.5	48.9	25.2	12.9	-	2.9	
	40～49歳	199	42.7	25.1	21.6	21.1	15.6	31.2	49.7	23.1	11.6	2.0	4.0	
	50～59歳	263	47.5	25.9	22.1	21.3	23.6	33.5	47.9	15.6	12.5	1.5	4.6	
	60～69歳	405	46.2	25.9	26.7	12.6	26.2	26.4	51.1	16.5	15.8	1.0	6.4	
	70歳以上	449	44.8	26.3	22.9	19.4	20.7	18.3	43.9	11.8	17.8	2.4	14.0	
職業別	農林漁業	118	51.7	22.0	27.1	16.1	23.7	17.8	46.6	14.4	17.8	0.8	11.0	
	商工業、サービス業、自由業など	189	43.4	32.3	27.0	22.2	23.8	24.9	49.7	18.0	12.7	1.1	6.9	
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	43.5	26.6	23.2	21.6	20.7	33.3	49.4	20.0	11.9	1.4	3.6	
	主婦・主夫	302	44.4	21.2	29.8	18.9	23.2	21.9	49.0	13.2	16.9	1.3	8.6	
	無職	351	45.6	28.5	20.2	17.1	20.5	20.2	41.9	15.4	17.4	2.0	11.7	
圏域別	高松圏域	763	43.6	26.9	22.3	19.3	21.1	28.2	47.7	17.6	15.6	1.8	7.3	
	東讃圏域	145	39.3	31.7	22.8	27.6	22.1	22.1	45.5	16.6	13.1	-	8.3	
	小豆圏域	44	47.7	27.3	29.5	11.4	29.5	18.2	50.0	18.2	13.6	4.5	9.1	
	中讃圏域	432	48.4	21.5	25.0	19.9	20.4	23.6	47.9	16.2	14.8	1.2	9.3	
	西讃圏域	192	44.3	28.1	29.7	15.6	21.9	22.4	42.2	15.1	13.0	1.0	9.4	
居住年数別	3年未満	104	35.6	25.0	26.9	30.8	16.3	24.0	41.3	23.1	15.4	1.0	5.8	
	3年以上～10年未満	164	45.1	27.4	26.2	18.9	22.6	29.9	47.6	20.1	15.9	-	5.5	
	10年以上～20年未満	223	44.8	29.6	22.4	16.1	22.4	28.7	48.0	21.5	11.7	-	4.5	
	20年以上	1,034	45.9	25.4	24.5	19.4	22.2	24.6	48.1	14.6	15.2	2.0	8.5	

(2) 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数

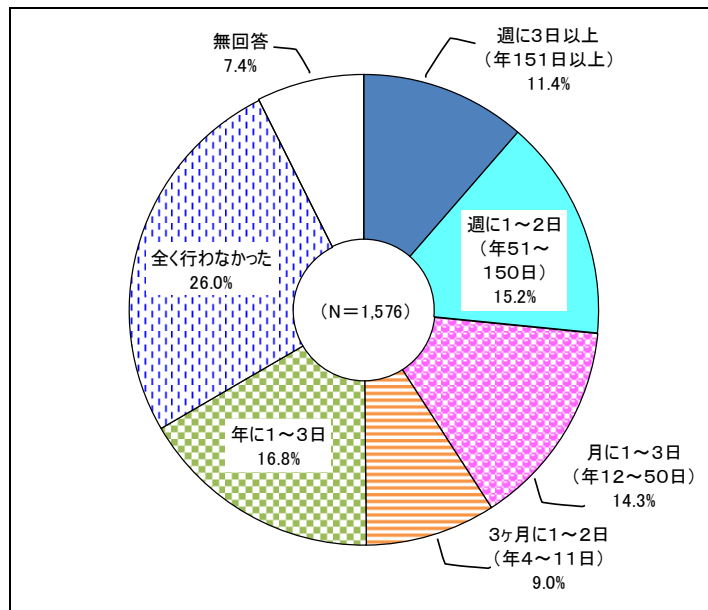
問36 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数を合わせると何日ぐらいになりますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 週に3日以上 (年151日以上)	11.4%
2 週に1～2日 (年51～150日)	15.2%
3 月に1～3日 (年12～50日)	14.3%
4 3ヶ月に1～2日 (年4～11日)	9.0%
5 年に1～3日	16.8%
6 全く行わなかった (無回答)	26.0% 7.4%

過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数について、「全く行わなかった」(26.0%)が最も多く、次いで「年に1～3日」(16.8%)、「週に1～2日 (年51～150日)」(15.2%)、「月に1～3日 (年12～50日)」(14.3%)などとなっている。

図表 5-D-(2)-1 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数



過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数について、性別にみると、男女ともに「全く行わなかった」が最も多く、その比率は『男性』(21.7%)、『女性』(30.6%)となっており、これに『男性』では「月に1～3日(年12～50日)」(18.2%)が、『女性』では「年に1～3日」(17.1%)が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「月に1～3日(年12～50日)」が最も多く、『40～49歳』では「年に1～3日」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「全く行わなかった」が最も多くなっている。『20～29歳』では「月に1～3日(年12～50日)」、「年に1～3日」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「全く行わなかった」が最も多くなっている。『会社員、商店、官公庁などに勤務』では「年に1～3日」、「全く行わなかった」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「全く行わなかった」が最も多く、『小豆圏域』では「週に1～2日(年51～150日)」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「年に1～3日」が、『西讃圏域』では「月に1～3日(年12～50日)」が、『小豆圏域』では「月に1～3日(年12～50日)」、「全く行わなかった」が同率が続いている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「全く行わなかった」が最も多くなっている。『3年未満』では「月に1～3日(年12～50日)」、「年に1～3日」が同率で最も多くなっている。

図表 5-D-(2)-2 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数



グラフ単位: (%)

(3) 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

問37 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをしますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8%
2	気に入った運動・スポーツがあれば	30.3%
3	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7%
4	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8%
5	スポーツ施設が身近にあれば	27.4%
6	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9%
7	スポーツ指導者がいれば	7.3%
8	休暇(自由時間)が増加すれば	27.3%
9	現状で満足している	15.9%
10	その他(具体的に:)	5.7%
	(無回答)	8.6%

今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件について、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」(32.7%)が最も多く、次いで「気に入った運動・スポーツがあれば」(30.3%)、「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」(29.8%)、「スポーツ施設が身近にあれば」(27.4%)などとなっている。

図表 5-D-(3)-1 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8	186 人
(2) 気に入った運動・スポーツがあれば	30.3	478 人
(3) 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7	516 人
(4) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8	469 人
(5) スポーツ施設が身近にあれば	27.4	432 人
(6) スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9	377 人
(7) スポーツ指導者がいれば	7.3	115 人
(8) 休暇(自由時間)が増加すれば	27.3	430 人
(9) 現状で満足している	15.9	251 人
(10) その他	5.7	90 人
無回答	8.6	136 人

グラフ単位：(%)

今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件について、

性別にみると、男女ともに「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多く、その比率は『男性』(32.8%)、『女性』(32.5%)となっており、これに『男性』では「気に入った運動・スポーツがあれば」(32.4%)が、『女性』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」(32.2%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多く、『60～69歳』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『70歳以上』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多く、『主婦・主夫』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『無職』では「気に入った運動・スポーツがあれば」が、そのほかの職業では「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『東讃圏域』では「スポーツ施設が身近にあれば」が、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が、『小豆圏域』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」、「スポーツ施設が身近にあれば」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多く、『20年以上』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多くなっている。これに『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が、『3年以上～10年未満』では「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」が、『20年以上』では「気に入った運動・スポーツがあれば」が続いている。

図表 5-D-(3)-2 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数 (人)	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	気に入った運動・スポーツがあれば	一緒に運動やスポーツを行う仲間があれば	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	スポーツ施設が身近にあれば	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	スポーツ指導者がいれば	休暇(自由時間)が増加すれば	現状で満足している	その他	無回答
単位:比率(%)													
全体		1,576	11.8	30.3	32.7	29.8	27.4	23.9	7.3	27.3	15.9	5.7	8.6
性別	男性	765	13.7	32.4	32.8	27.3	29.9	21.4	7.6	28.1	16.7	5.4	6.5
	女性	770	10.1	28.6	32.5	32.2	25.2	26.9	7.3	27.0	15.2	6.2	9.4
年齢別	20～29歳	79	15.2	30.4	39.2	29.1	30.4	31.6	3.8	50.6	8.9	5.1	1.3
	30～39歳	139	12.9	30.9	31.7	34.5	23.0	36.0	2.9	42.4	12.9	5.0	0.7
	40～49歳	199	10.1	27.1	30.7	25.6	24.1	36.7	3.0	48.2	14.1	5.5	3.0
	50～59歳	263	9.5	29.3	31.9	30.8	32.7	26.2	4.6	40.3	12.9	4.2	4.6
	60～69歳	405	12.6	34.1	33.8	36.5	28.4	26.4	9.6	23.0	16.0	3.7	5.7
	70歳以上	449	12.2	29.6	32.3	23.8	26.3	10.2	11.1	6.5	20.7	9.4	17.4
職業別	農林漁業	118	14.4	31.4	41.5	23.7	32.2	12.7	9.3	18.6	16.9	4.2	12.7
	商工業、サービス業、自由業など	189	11.1	30.2	31.2	31.7	31.7	25.9	9.0	40.2	10.6	5.8	6.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	11.6	28.3	32.8	29.4	28.7	30.7	3.9	46.9	13.9	3.7	2.1
	主婦・主夫	302	12.3	30.8	33.1	35.4	23.2	26.2	11.3	11.6	16.2	7.3	10.3
	無職	351	10.5	34.2	30.2	26.8	26.2	15.4	8.3	7.4	22.2	8.3	13.7
圏域別	高松圏域	763	9.6	30.3	30.5	31.1	27.0	26.1	6.6	29.9	15.9	6.4	8.0
	東讃圏域	145	12.4	33.1	33.1	26.2	36.6	19.3	9.0	29.0	11.7	4.8	9.0
	小豆圏域	44	15.9	31.8	38.6	36.4	38.6	13.6	6.8	29.5	18.2	4.5	6.8
	中讃圏域	432	13.9	29.4	34.0	28.9	25.0	23.4	7.2	23.8	16.2	6.0	9.7
	西讃圏域	192	14.6	30.2	37.0	27.6	25.0	22.4	9.4	22.9	18.2	3.1	8.9
居住年数別	3年未満	104	10.6	26.0	35.6	29.8	27.9	21.2	1.9	39.4	16.3	6.7	8.7
	3年以上～10年未満	164	14.0	26.8	29.3	32.3	22.6	39.6	3.7	41.5	13.4	7.3	4.3
	10年以上～20年未満	223	9.9	26.9	32.3	30.5	26.9	29.1	6.3	39.0	12.6	2.7	3.6
	20年以上	1,034	11.9	32.4	33.2	29.3	28.6	20.7	8.8	22.0	17.3	6.1	9.2

(4)お子さんの有無

問38 あなたにはお子さんがいますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(同居・別居は問いません。)

【回答者数=1,576】

1	小学校入学前の子どもがいる	6.7%
2	小学校に通う子どもがいる	7.9%
3	中学校に通う子どもがいる	6.7%
4	高等学校に通う子どもがいる	7.1%
5	大学や大学院に通う子どもがいる	6.5%
6	専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4%
7	特別支援学校に通う子どもがいる	0.4%
8	上記以外の子どもがいる	48.1%
9	子どもはいない	23.6%
	(無回答)	7.7%

お子さんの有無について、「上記以外の子どもがいる」(48.1%)が最も多く、次いで「子どもはいない」(23.6%)、「小学校に通う子どもがいる」(7.9%)、「高等学校に通う子どもがいる」(7.1%)などとなっている。

図表 5-D-(4)-1 お子さんの有無

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 小学校入学前の子どもがいる	6.7	106 人
(2) 小学校に通う子どもがいる	7.9	124 人
(3) 中学校に通う子どもがいる	6.7	105 人
(4) 高等学校に通う子どもがいる	7.1	112 人
(5) 大学や大学院に通う子どもがいる	6.5	102 人
(6) 専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4	22 人
(7) 特別支援学校に通う子どもがいる	0.4	6 人
(8) 上記以外の子どもがいる	48.1	758 人
(9) 子どもはいない	23.6	372 人
無回答	7.7	121 人

グラフ単位：(%)

お子さんの有無について、性別にみると、男女ともに「上記以外の子どもがいる」が最も多く、その比率は『男性』(46.0%)、『女性』(50.9%)となっており、これに「子どもはいない」『男性』(26.8%)、『女性』(20.9%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「子どもはいない」が最も多く、『30～39歳』では「小学校入学前の子どもがいる」が、そのほかの年齢では「上記以外の子どもがいる」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「上記以外の子どもがいる」が最も多く、これに「子どもはいない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「上記以外の子どもがいる」が最も多く、これに「子どもはいない」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「子どもはいない」が最も多く、『3年以上～10年未満』では「小学校入学前の子どもがいる」が、そのほかでは「上記以外の子どもがいる」が最も多くなっている。これに『3年未満』では「小学校入学前の子どもがいる」が、『3年以上～10年未満』では「小学校に通う子どもがいる」が、そのほかでは「子どもはいない」が続いている。

図表 5-D-(4)-2 お子さんの有無

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答	
		回答者数 (人)	小学校入学前の子 どもがいる	小学校に通う子 どもがいる	中学校に通う子 どもがいる	高等学校に通う子 どもがいる	大学や大学院に通う子 どもがいる	専修学校や各種学校に通う子 どもがいる	特別支援学校に通う子 どもがいる	上記以外の子どもが いる	子どもはいない	
単位：比率(%)												
全体		1,576	6.7	7.9	6.7	7.1	6.5	1.4	0.4	48.1	23.6	7.7
性別	男性	765	6.7	5.9	6.8	7.3	6.9	0.8	0.1	46.0	26.8	7.7
	女性	770	7.0	9.9	6.8	6.8	5.6	1.8	0.5	50.9	20.9	6.6
年齢別	20～29歳	79	11.4	1.3	-	-	-	-	-	2.5	83.5	2.5
	30～39歳	139	41.7	30.2	15.1	4.3	-	-	0.7	1.4	35.3	0.7
	40～49歳	199	9.5	26.1	21.6	23.1	14.6	6.0	-	14.1	27.6	3.0
	50～59歳	263	1.5	1.5	5.7	10.6	18.3	1.1	0.8	55.1	20.2	4.2
	60～69歳	405	2.2	2.7	1.5	1.5	1.2	1.0	0.2	77.8	12.3	4.7
	70歳以上	449	1.3	2.7	4.5	4.9	3.3	0.2	0.2	55.9	20.5	15.8
職業別	農林漁業	118	5.9	5.9	6.8	8.5	2.5	2.5	0.8	57.6	15.3	11.0
	商工業、サービス業、 自由業など	189	8.5	9.5	7.9	7.9	6.3	1.6	-	48.7	21.7	5.3
	会社、商店、官公庁 などに勤務	561	10.3	12.7	10.5	11.4	10.9	2.3	0.4	37.6	25.7	3.4
	主婦・主夫	302	6.3	6.0	3.3	3.0	4.3	0.3	0.7	61.9	15.6	7.6
	無職	351	0.9	1.4	2.8	2.8	2.3	0.3	-	53.0	31.1	11.1
圏域別	高松圏域	763	6.8	7.5	6.4	7.5	5.9	1.4	0.5	46.9	24.1	7.6
	東讃圏域	145	4.8	6.9	9.7	5.5	7.6	-	-	49.0	25.5	9.0
	小豆圏域	44	6.8	9.1	9.1	6.8	9.1	-	-	45.5	25.0	2.3
	中讃圏域	432	5.8	8.1	5.6	6.5	7.6	1.9	0.2	50.2	23.8	7.4
	西讃圏域	192	9.9	9.4	7.3	8.3	4.7	1.6	0.5	47.9	19.3	8.9
居住年数別	3年未満	104	21.2	7.7	1.9	3.8	3.8	1.0	-	19.2	43.3	7.7
	3年以上～10年未満	164	25.0	24.4	12.2	6.7	4.9	1.2	0.6	23.8	22.0	4.3
	10年以上～20年未満	223	5.8	16.1	14.3	15.2	10.8	3.1	0.4	37.2	23.3	2.7
	20年以上	1,034	2.8	3.5	4.7	5.6	5.8	1.0	0.3	58.0	22.1	8.3

6. 県政の重要度と満足度について

県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、「せとうち田園都市香川創造プラン」※（平成23～27年度）の各施策の達成状況の評価したいと思いますので、各施策に対する重要度と満足度について皆さまの考えをお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、あなたが今の生活やこれからの生活を送っていくうえで各施策がどのくらい重要かを、また、「満足度」については、あなたが各施策に対して現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ五段階で評価してください。

※「せとうち田園都市香川創造プラン」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針である「せとうち田園都市香川創造プラン（平成23～27年度）」を平成23年度に策定しました。

本プランの基本目標である「せとうち田園都市の創造」（活気あふれる街と美しい自然が隣接し、生涯を通じて安心して生活できる環境の中で、人々が生きがいを見だし、みずからの能力を存分に発揮できる、また、その魅力に引かれて集い合う、瀬戸内香川の生活圏域の創造）をめざして各施策に取り組んでいます。

「せとうち田園都市の創造」を実現するための基本方針として、活力ある産業づくりと働く場の確保を主な内容とする「元気の出る香川づくり」、生涯を通じた安心の確保をめざす「安心できる香川づくり」、たくましい人づくりと魅力ある地域づくりをめざす「夢と希望あふれる香川づくり」の3つの香川づくりを掲げています。

(1)元気の出る香川づくり（重要度）

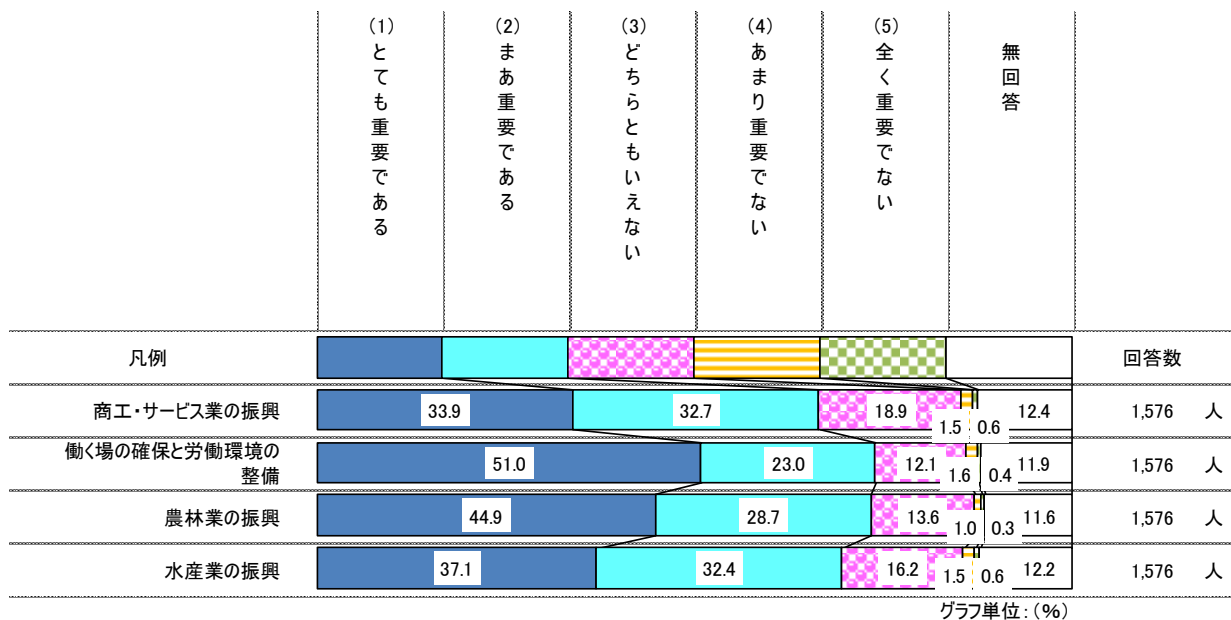
問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	33.9	32.7	18.9	1.5	0.6	12.4
2 働く場の確保と労働環境の整備	51.0	23.0	12.1	1.6	0.4	11.9
3 農林業の振興	44.9	28.7	13.6	1.0	0.3	11.6
4 水産業の振興	37.1	32.4	16.2	1.5	0.6	12.2

「元気の出る香川づくり」について【重要度】をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が6割を超えており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」(74.0%)、「農林業の振興」(73.6%)と、7割を超えている。

図表 6-(1) 元気の出る香川づくり（重要度）



(2)元気の出る香川づくり（満足度）

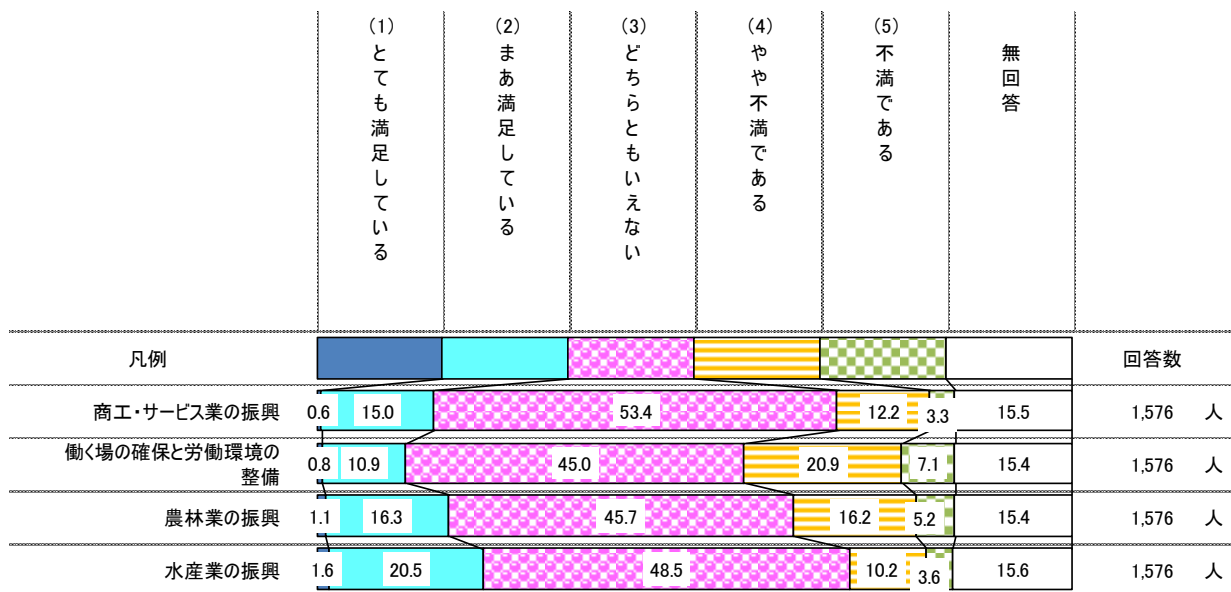
問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	重要度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.6	15.0	53.4	12.2	3.3	15.5
2 働く場の確保と労働環境の整備	0.8	10.9	45.0	20.9	7.1	15.4
3 農林業の振興	1.1	16.3	45.7	16.2	5.2	15.4
4 水産業の振興	1.6	20.5	48.5	10.2	3.6	15.6

「元気の出る香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。「商工・サービス業の振興」、「水産業の振興」については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。一方「働く場の確保と労働環境の整備」、「農林業の振興」では、【不満である】が【満足している】を上回っており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」ではその差が大きくなっている。

図表 6-(2) 元気の出る香川づくり（満足度）



グラフ単位：(%)

(3)安心できる香川づくり（重要度）

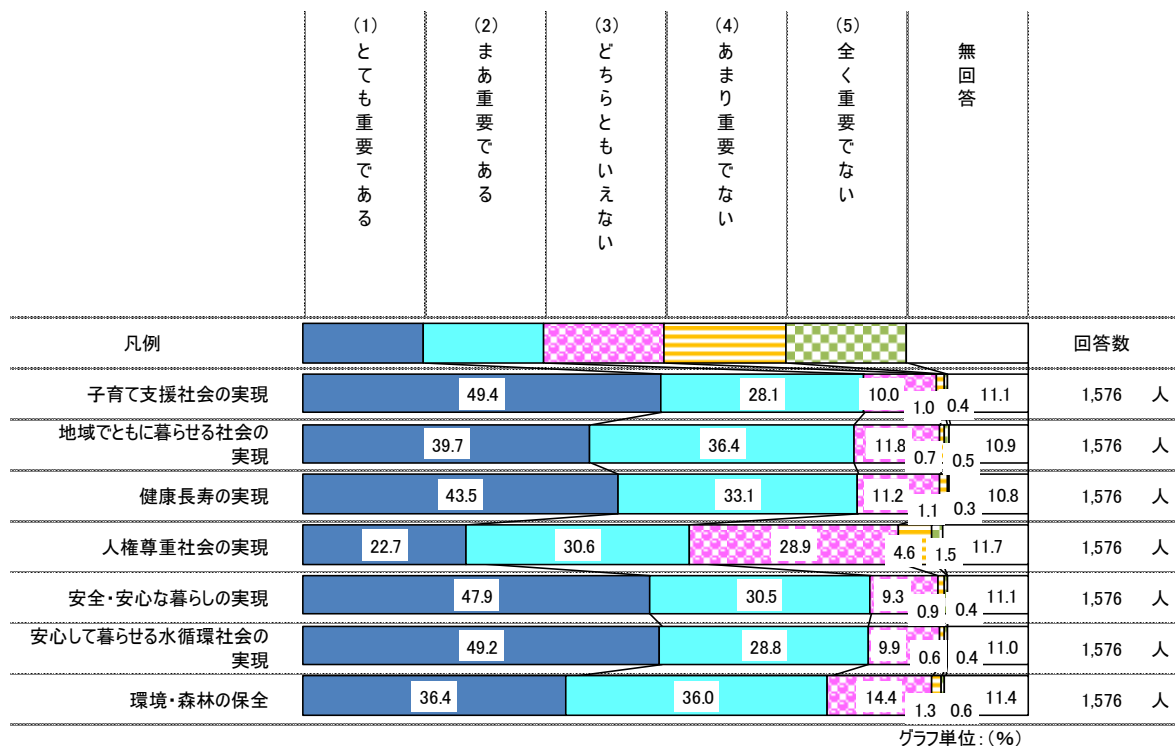
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
5 子育て支援社会の実現	49.4	28.1	10.0	1.0	0.4	11.1
6 地域でともに暮らせる社会の実現	39.7	36.4	11.8	0.7	0.5	10.9
7 健康長寿の実現	43.5	33.1	11.2	1.1	0.3	10.8
8 人権尊重社会の実現	22.7	30.6	28.9	4.6	1.5	11.7
9 安全・安心な暮らしの実現	47.9	30.5	9.3	0.9	0.4	11.1
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	49.2	28.8	9.9	0.6	0.4	11.0
11 環境・森林の保全	36.4	36.0	14.4	1.3	0.6	11.4

「安心できる香川づくり」について【重要度】をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】が7割を超えており、特に「安全・安心な暮らしの実現」、「安心して暮らせる水循環型社会の実現」、「子育て支援社会の実現」で高い割合となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（重要度）



(4)安心できる香川づくり（満足度）

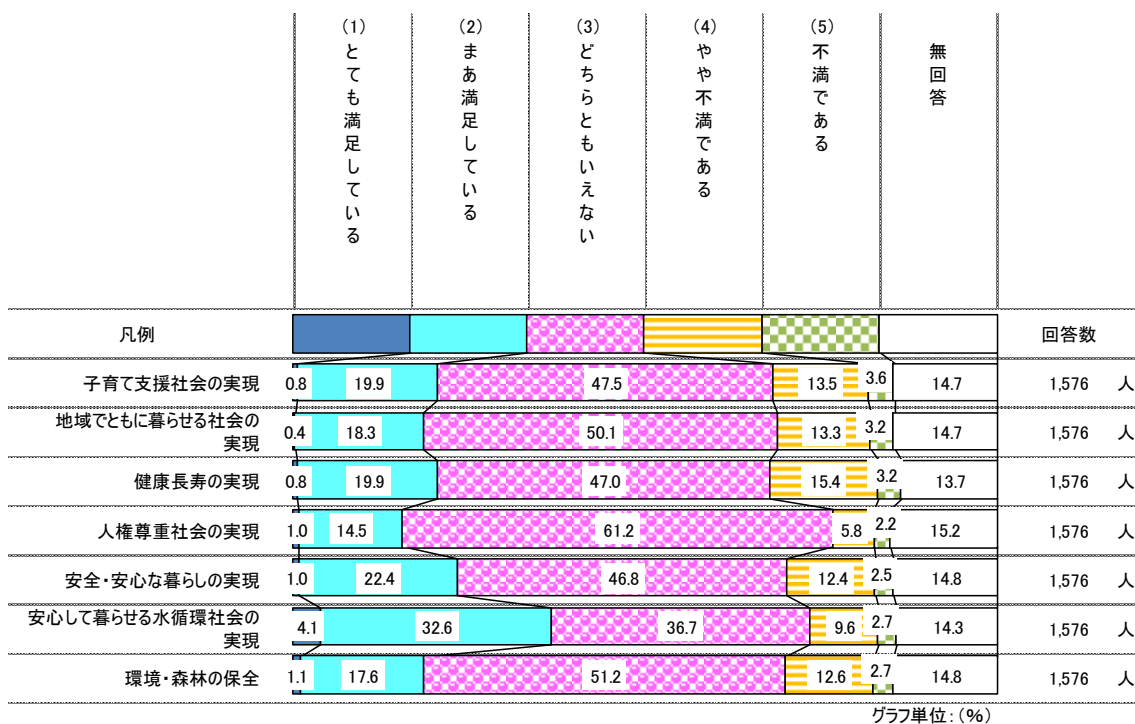
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
5 子育て支援社会の実現	0.8	19.9	47.5	13.5	3.6	14.7
6 地域でともに暮らせる社会の実現	0.4	18.3	50.1	13.3	3.2	14.7
7 健康長寿の実現	0.8	19.9	47.0	15.4	3.2	13.7
8 人権尊重社会の実現	1.0	14.5	61.2	5.8	2.2	15.2
9 安全・安心な暮らしの実現	1.0	22.4	46.8	12.4	2.5	14.8
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	4.1	32.6	36.7	9.6	2.7	14.3
11 環境・森林の保全	1.1	17.6	51.2	12.6	2.7	14.8

「安心できる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、3割を超えている。どの施策項目でも【満足している】が【不満である】を上回っている。特に「安心して暮らせる水循環型社会の実現」(36.7%)が最も多くなっており、比較的他の項目より満足度は高い結果となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（満足度）



(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)

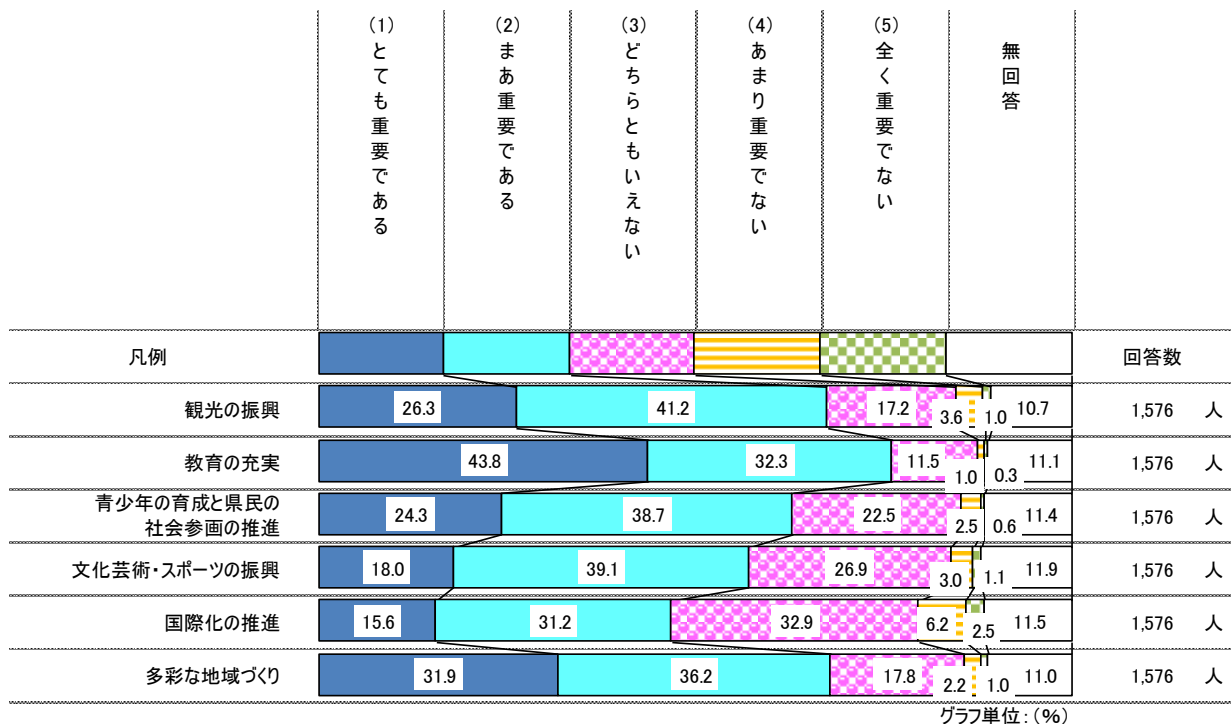
問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
12 観光の振興	26.3	41.2	17.2	3.6	1.0	10.7
13 教育の充実	43.8	32.3	11.5	1.0	0.3	11.1
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	24.3	38.7	22.5	2.5	0.6	11.4
15 文化芸術・スポーツの振興	18.0	39.1	26.9	3.0	1.1	11.9
16 国際化の推進	15.6	31.2	32.9	6.2	2.5	11.5
17 多彩な地域づくり	31.9	36.2	17.8	2.2	1.0	11.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【重要度】をみると、多くの施策項目で【重要である】が6割を超えており、特に「教育の充実」(76.1%)が7割を超えている。

図表 6-(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)



(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)

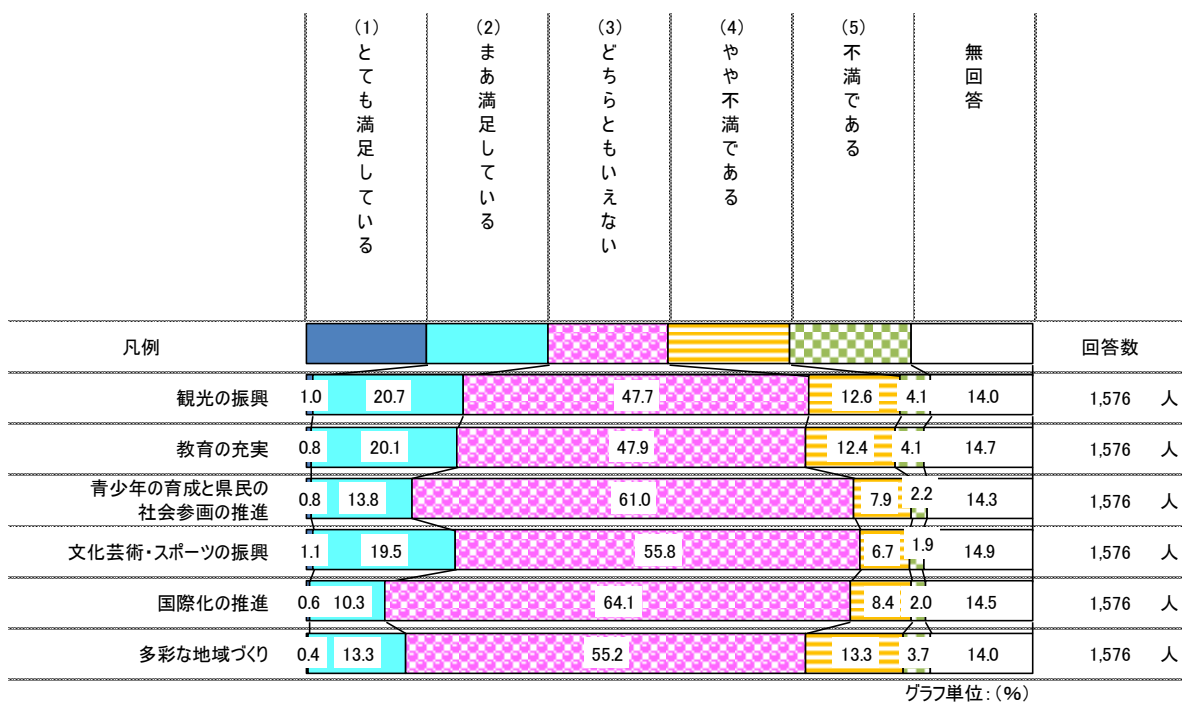
問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
12 観光の振興	1.0	20.7	47.7	12.6	4.1	14.0
13 教育の充実	0.8	20.1	47.9	12.4	4.1	14.7
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	0.8	13.8	61.0	7.9	2.2	14.3
15 文化芸術・スポーツの振興	1.1	19.5	55.8	6.7	1.9	14.9
16 国際化の推進	0.6	10.3	64.1	8.4	2.0	14.5
17 多彩な地域づくり	0.4	13.3	55.2	13.3	3.7	14.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。またほとんどの施策項目で【満足している】が【不満である】を上回っているが、「多彩な地域づくり」では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 6-(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)



商工・サービスの振興【重要度】について、性別にみると、『男性』では「とても重要である」(37.5%)が、『女性』では「まあ重要である」(32.9%)が最も多くなっている。「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が「あまり重要でない」と「全く重要でない」を合わせた【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

商工・サービスの振興【満足度】について、性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(52.0%)、『女性』(56.4%)となっている。『女性』では「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】を上回っているが、『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

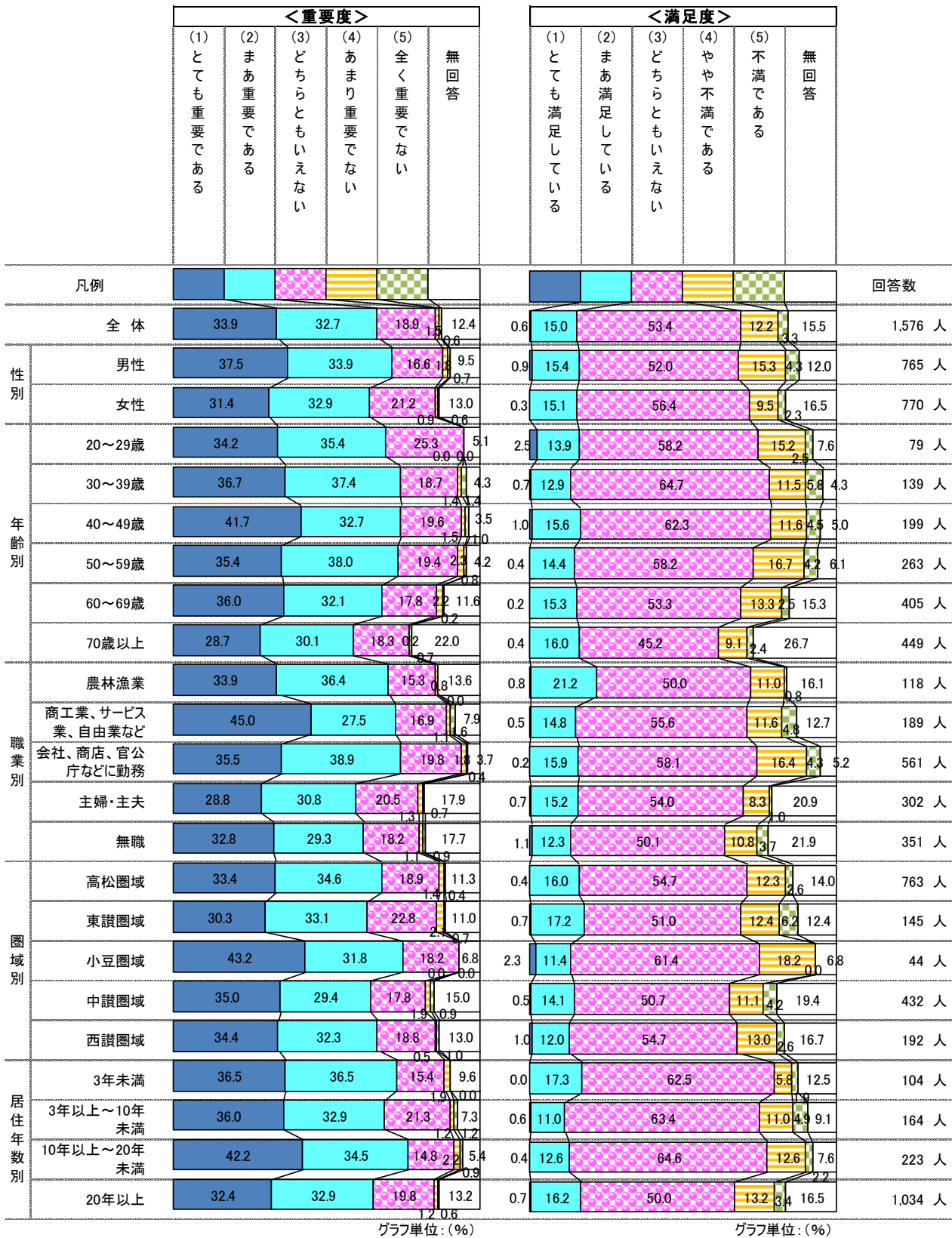
年齢別にみると、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(1) 商工・サービスの振興



働く場の確保と労働環境の整備【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(51.2%)、『女性』(52.6%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

働く場の確保と労働環境の整備【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(46.0%)、『女性』(45.2%)となっている。男女ともに【不満である】が【満足している】を上回る結果となっている。

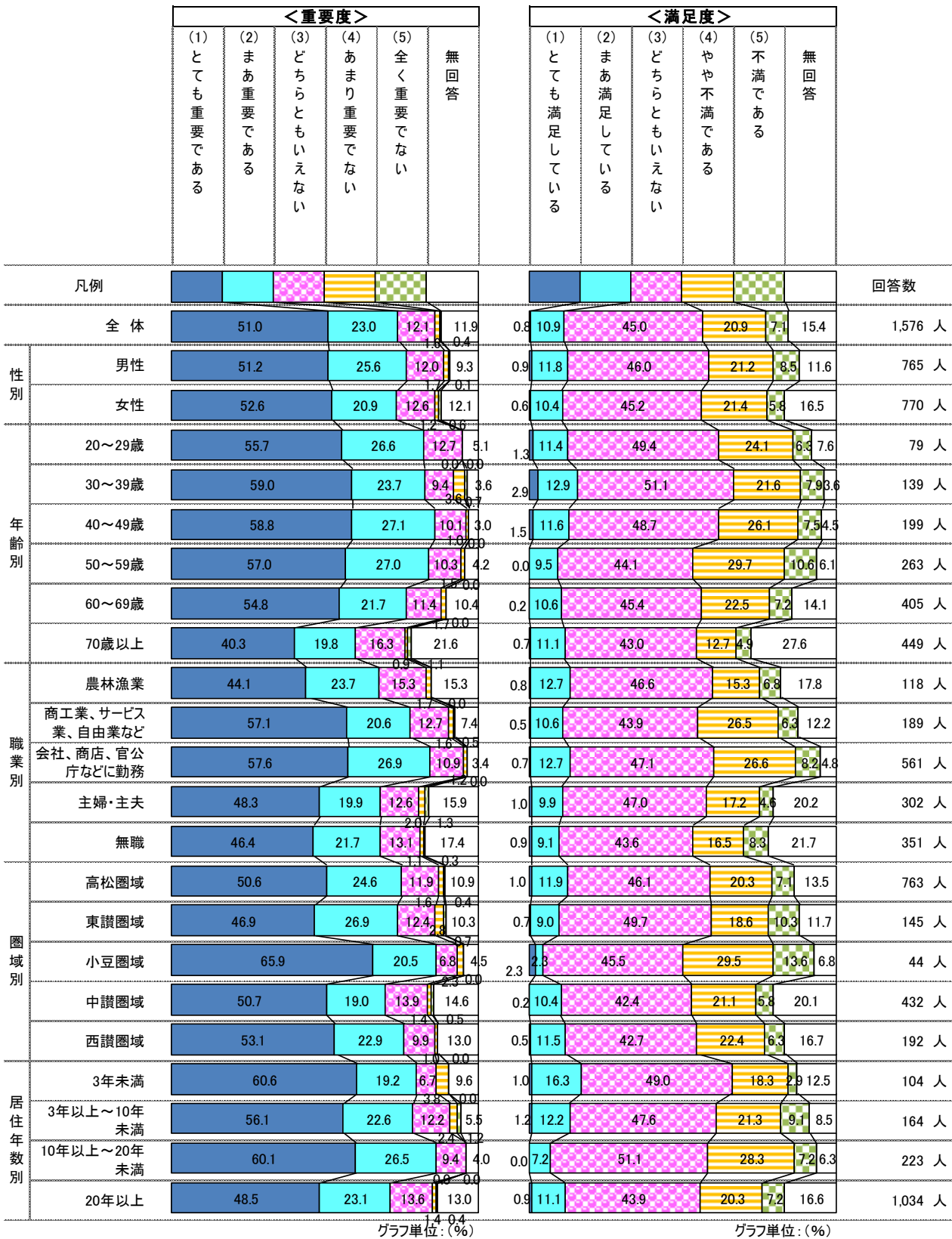
年齢別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。特に『50～59歳』では【不満である】が最も多く、【満足している】は1割にも満たない結果となっている。

職業別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】が【満足している】を最も多く上回り、満足度は低い結果となっている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。【不満である】は『小豆圏域』が最も多く、【満足している】は1割にも満たない結果となっている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。『10年以上～20年未満』では【不満である】が【満足している】を最も多く上回り、満足度は低い結果となっている。

図表 7-(2) 働く場の確保と労働環境の整備



農林業の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』（45.1%）、『女性』（46.2%）となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「とても重要である」が最も多く、『20～29歳』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【重要である】が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「とても重要である」が最も多く、【重要である】は8割を超える結果となっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「とても重要である」（47.1%）が最も多くなっている。『10年以上～20年未満』では【重要である】（83.8%）が8割を超える結果となっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

農林業の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（45.4%）、『女性』（47.5%）となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っているが、『女性』では【満足している】が【不満である】を上回っている。

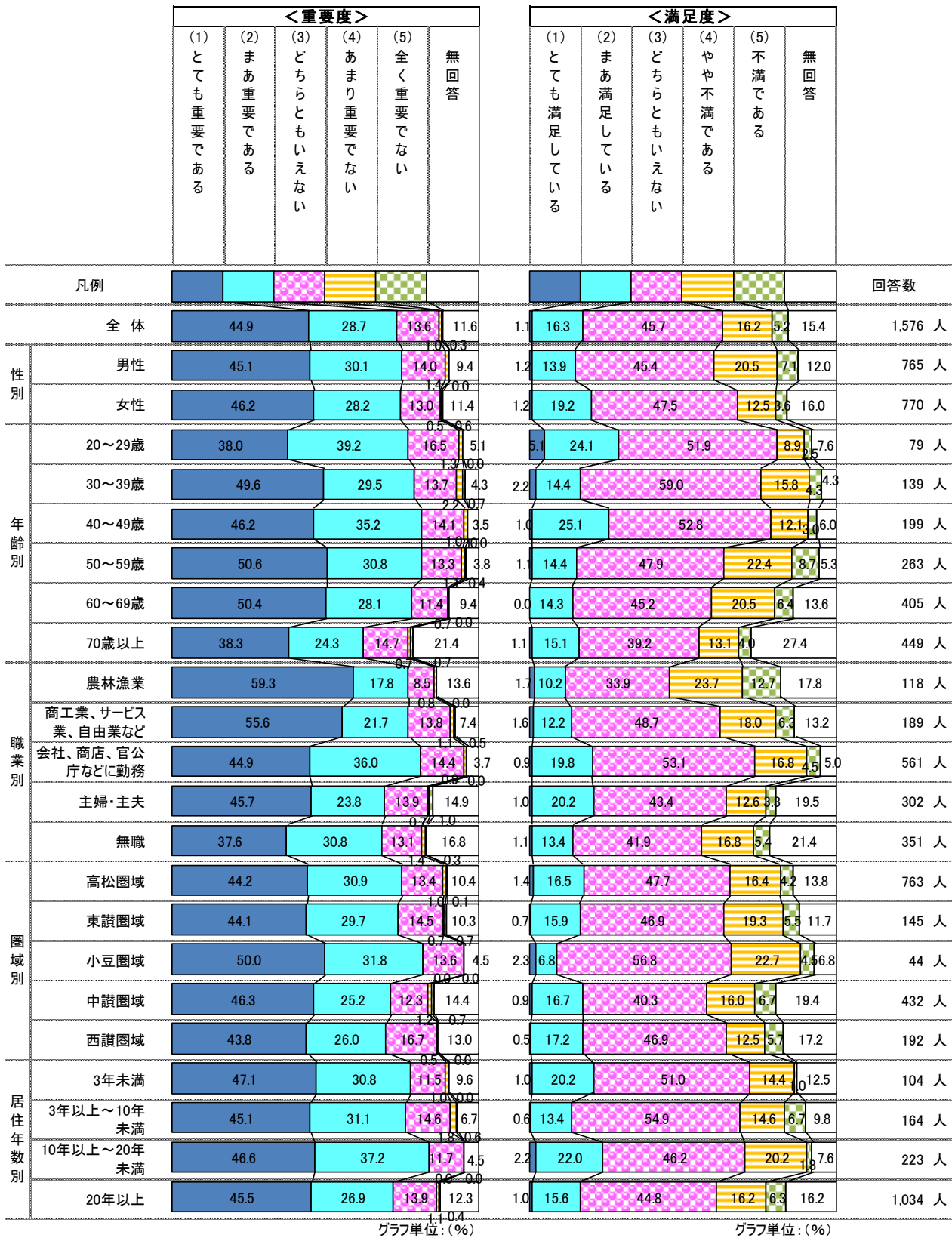
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(3) 農林業の振興



水産業の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(35.4%)、『女性』(40.0%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「とても重要である」が最も多く、『20～29歳』では「まあ重要である」が、『40～49歳』では「とても重要である」、「まあ重要である」が同率で最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「とても重要である」が最も多く、『無職』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「とても重要である」が最も多く、『東讃圏域』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「とても重要である」が最も多く、『3年未満』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

水産業の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(49.8%)、『女性』(48.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

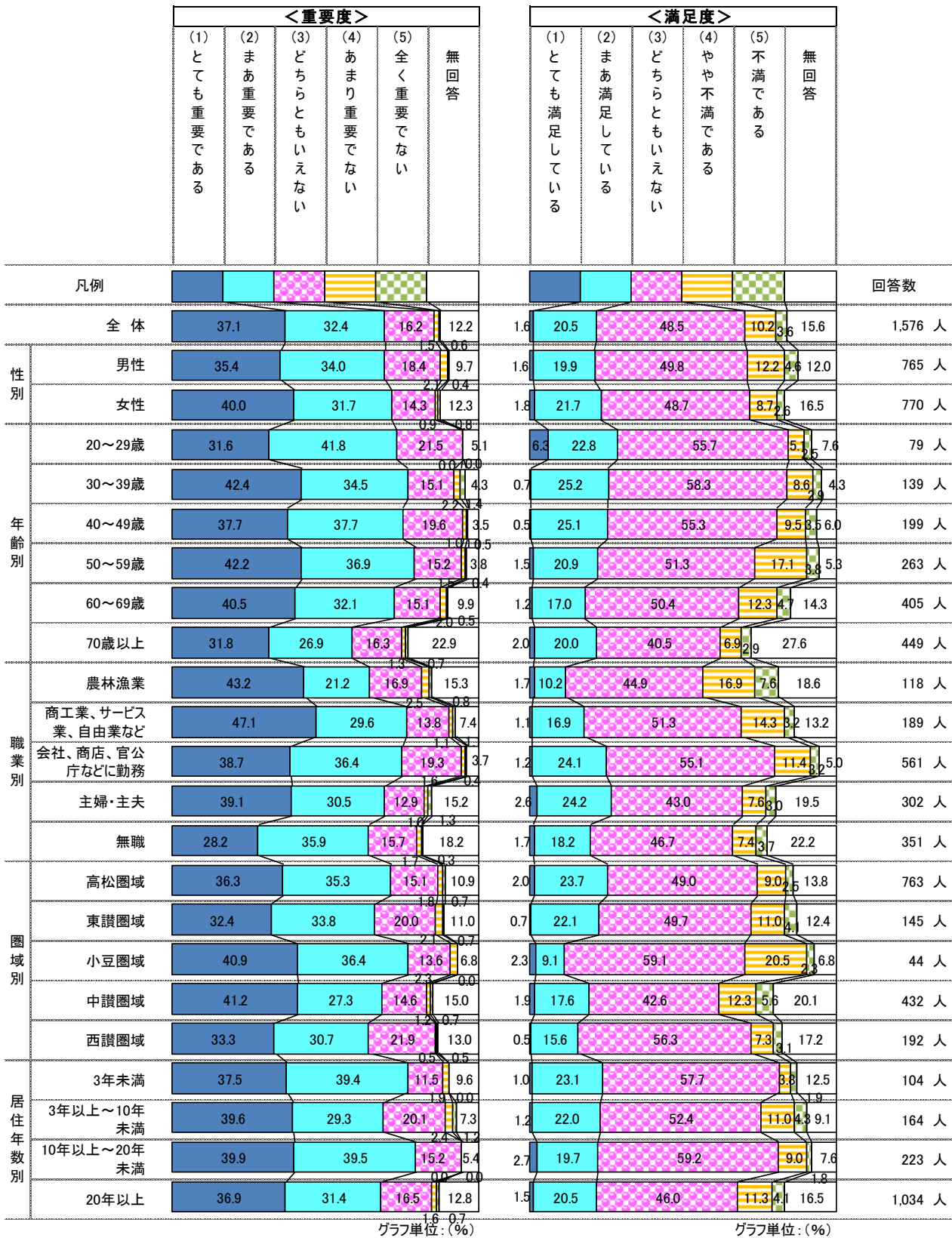
年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(4) 水産業の振興



子育て支援社会の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』（46.7%）、『女性』（53.4%）となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『3年以上～10年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

子育て支援社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（50.5%）、『女性』（45.8%）となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

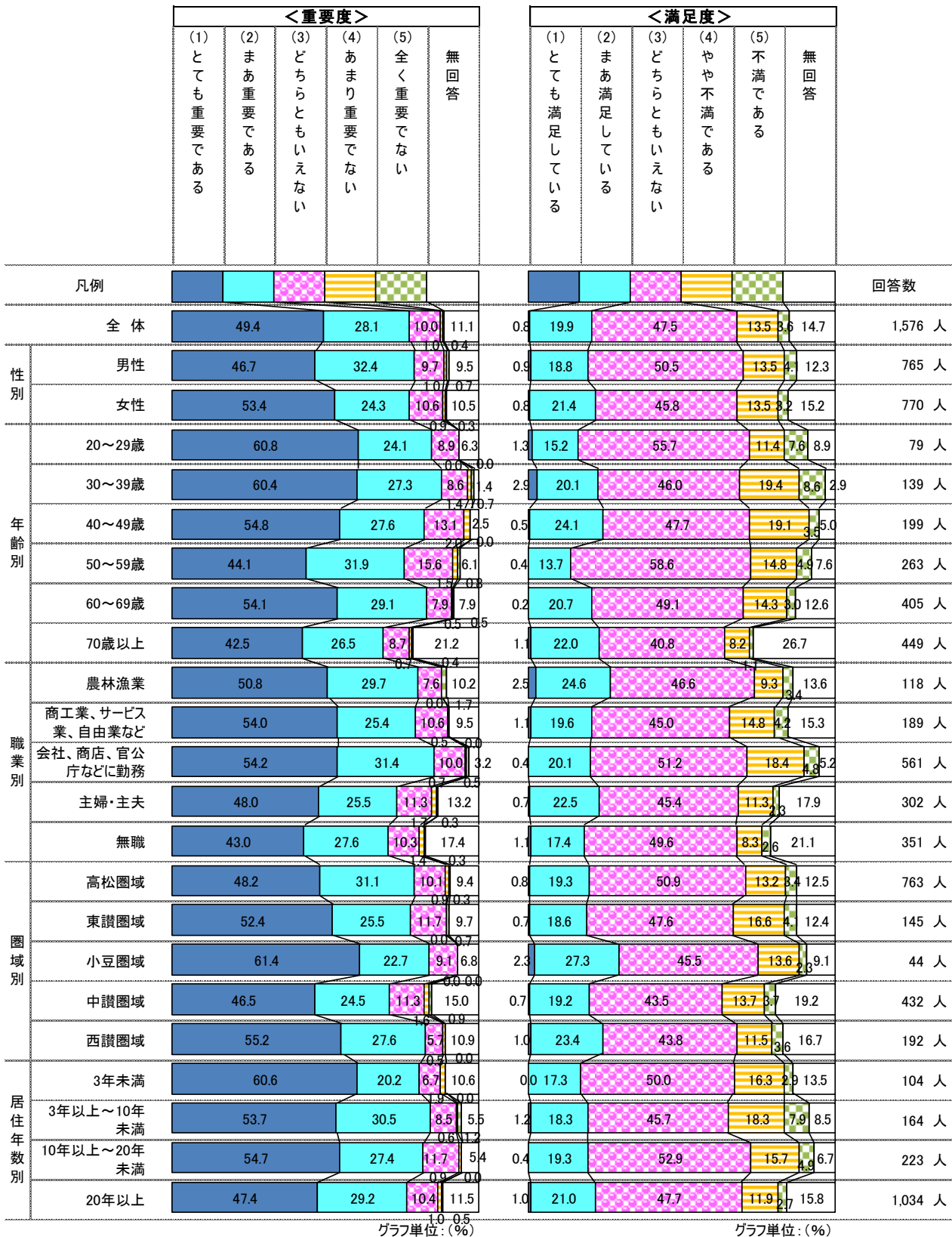
年齢別にみると、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(5) 子育て支援社会の実現



地域でともに暮らせる社会の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(38.2%)、『女性』(42.2%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

地域でともに暮らせる社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(52.7%)、『女性』(49.0%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

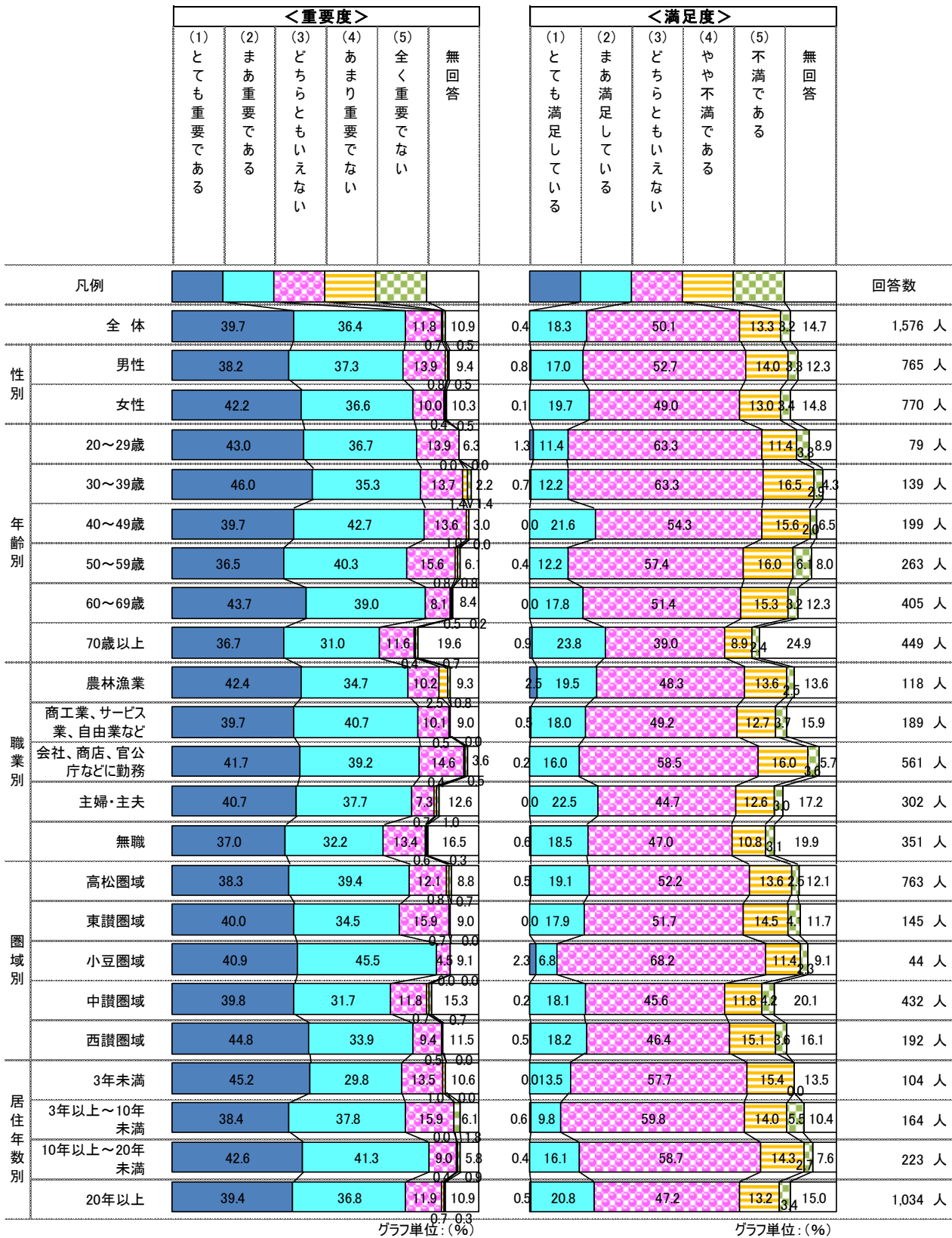
年齢別にみると、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『西讃圏域』では【満足している】、【不満である】が同率となっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(6) 地域でともに暮らせる社会の実現



健康長寿の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』（39.9%）、『女性』（48.6%）となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

健康長寿の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（48.1%）、『女性』（46.9%）となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

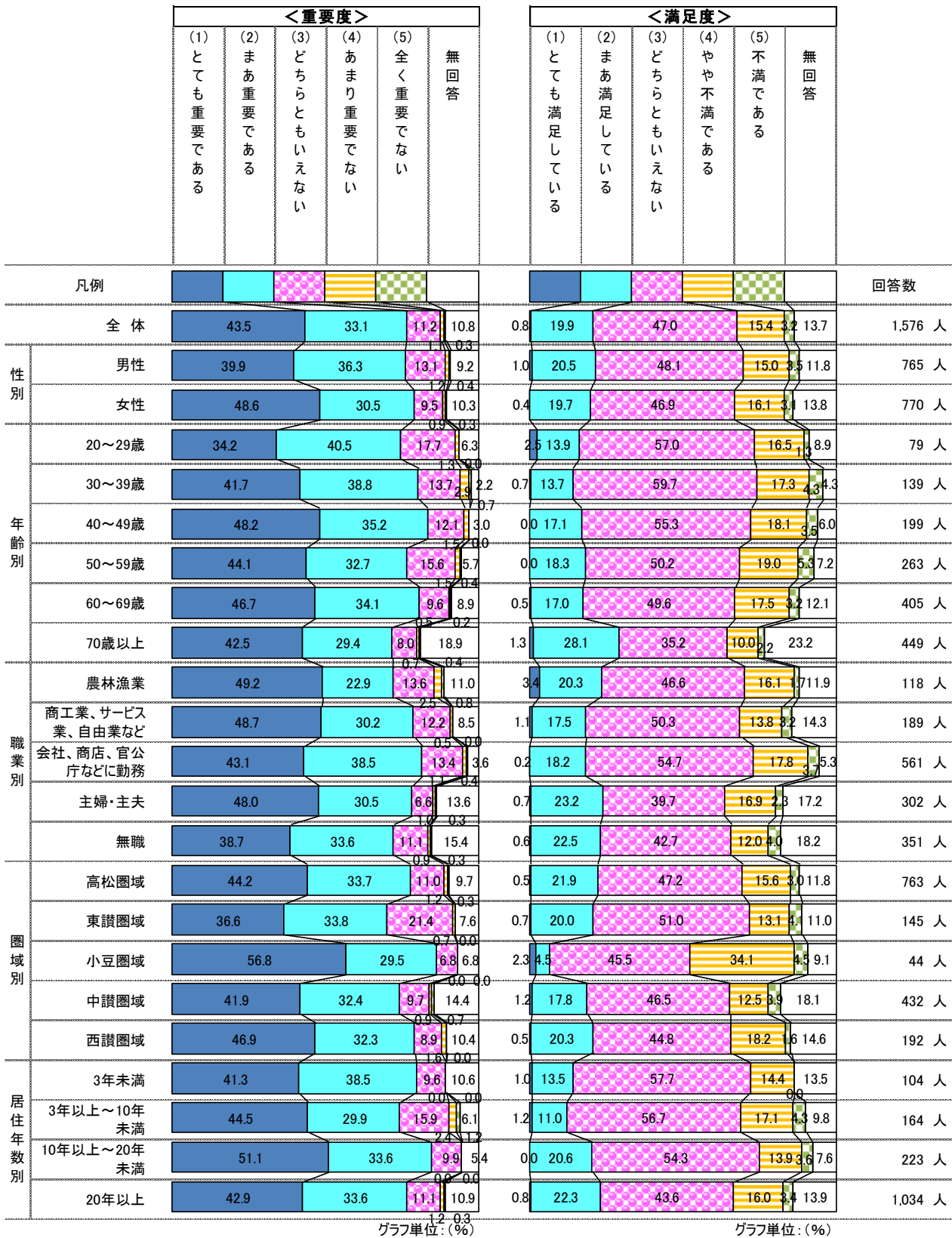
年齢別にみると、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を大きく上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(7) 健康長寿の実現



人権尊重社会の実現【重要度】について、

性別にみると、『男性』では「どちらともいえない」(30.6%)が、『女性』では「まあ重要である」(31.9%)が最も多くなっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29 歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『3年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

人権尊重社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(62.5%)、『女性』(61.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

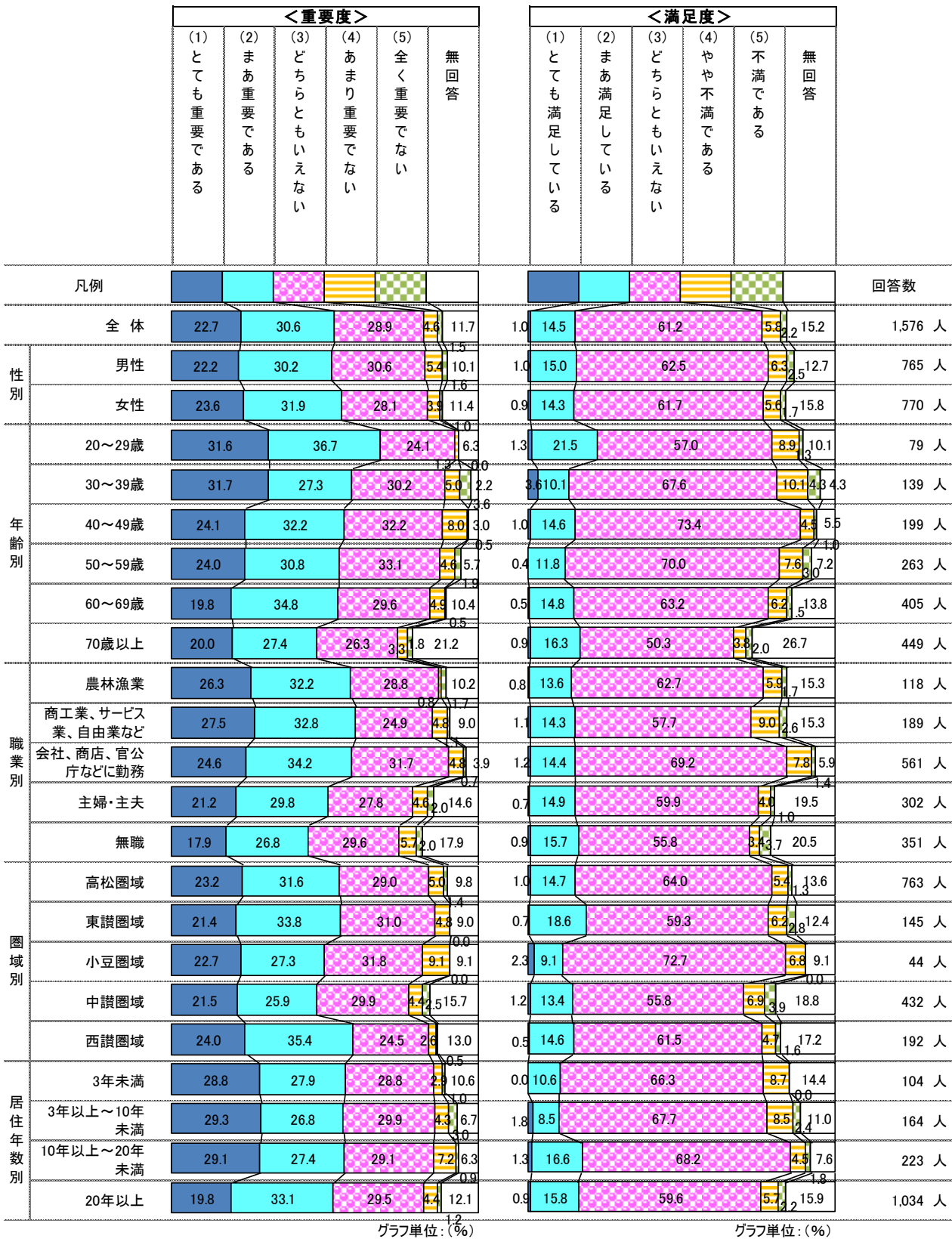
年齢別にみると、『30～39 歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(8) 人権尊重社会の実現



安全・安心な暮らしの実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(46.5%)、『女性』(50.4%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49 歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

安全・安心な暮らしの実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.2%)、『女性』(47.5%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

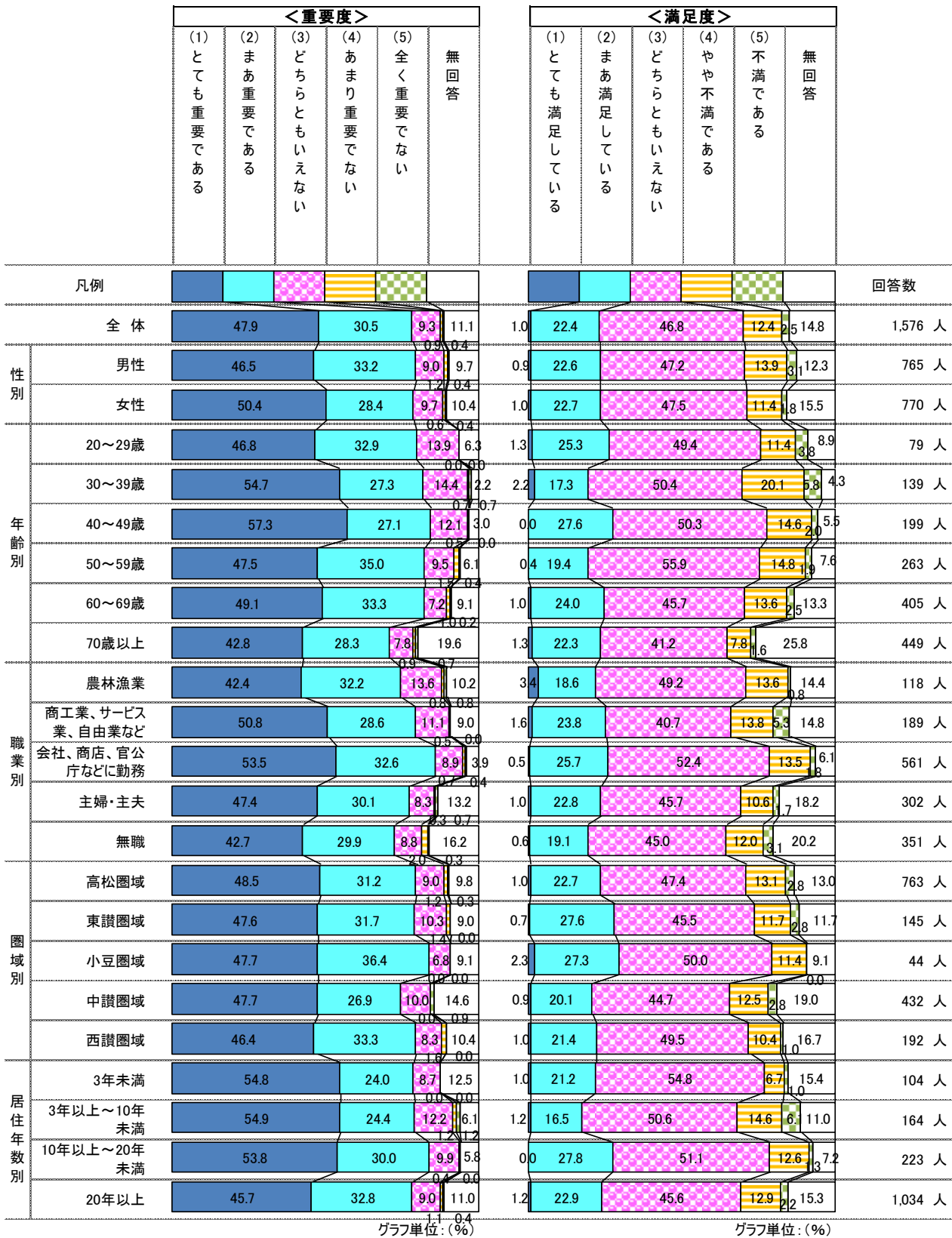
年齢別にみると、『30～39 歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(9) 安全・安心な暮らしの実現



安心して暮らせる水循環社会の実現【重要度】について、性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(47.6%)、『女性』(52.3%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

安心して暮らせる水循環社会の実現【満足度】について、性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(36.9%)、『女性』(37.4%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。

図表 7-(10) 安心して暮らせる水循環社会の実現



環境・森林の保全【重要度】について、

性別にみると、『男性』では「まあ重要である」(40.4%)が、『女性』では「とても重要である」(39.9%)が最も多くなっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

環境・森林の保全【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、『男性』(51.8%)、『女性』(51.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

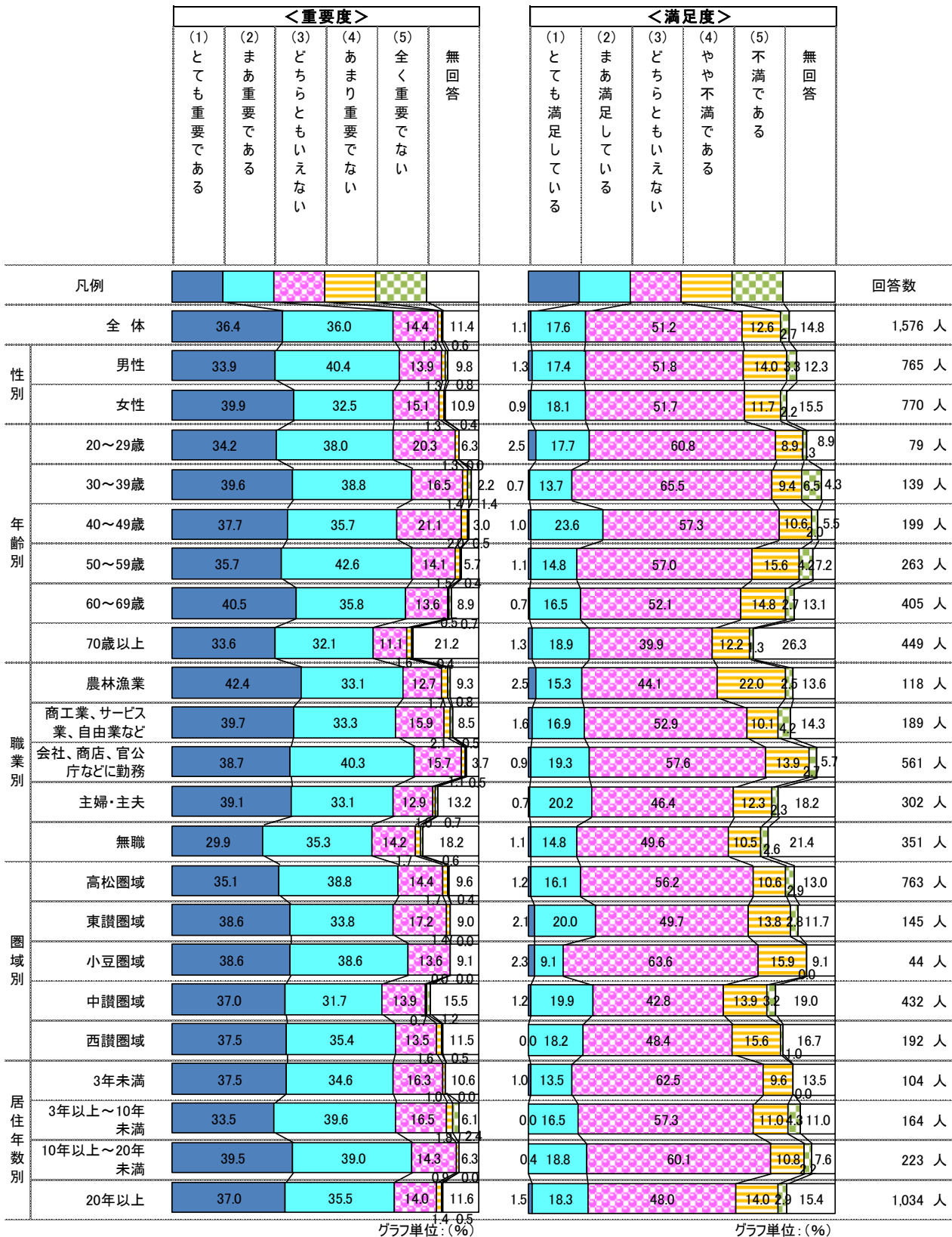
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(11) 環境・森林の保全



観光の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(42.5%)、『女性』(40.6%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

観光の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.3%)、『女性』(49.1%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

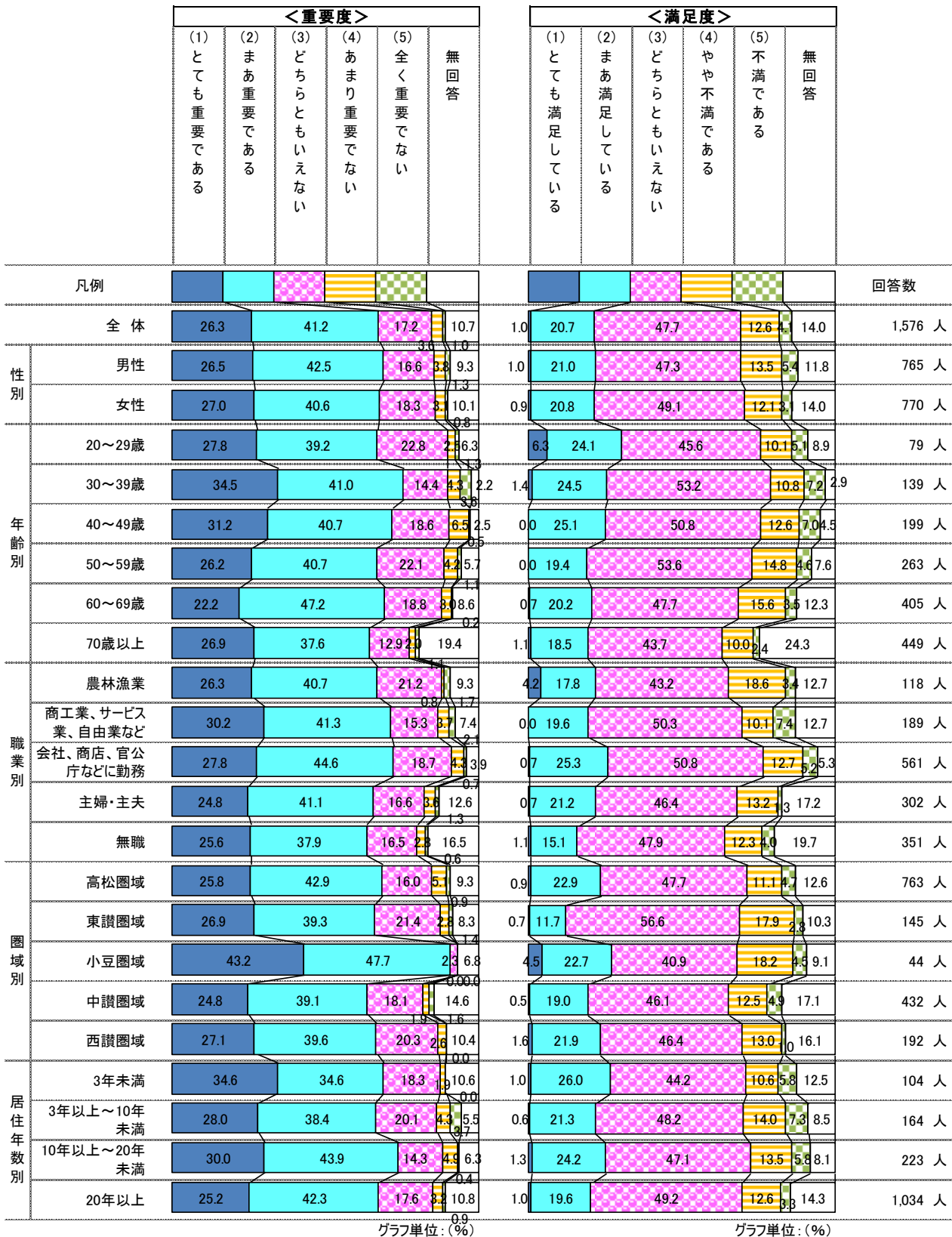
年齢別にみると、『50～59歳』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『無職』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(12) 観光の振興



教育の充実【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(43.5%)、『女性』(45.2%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

教育の充実【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.7%)、『女性』(49.4%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

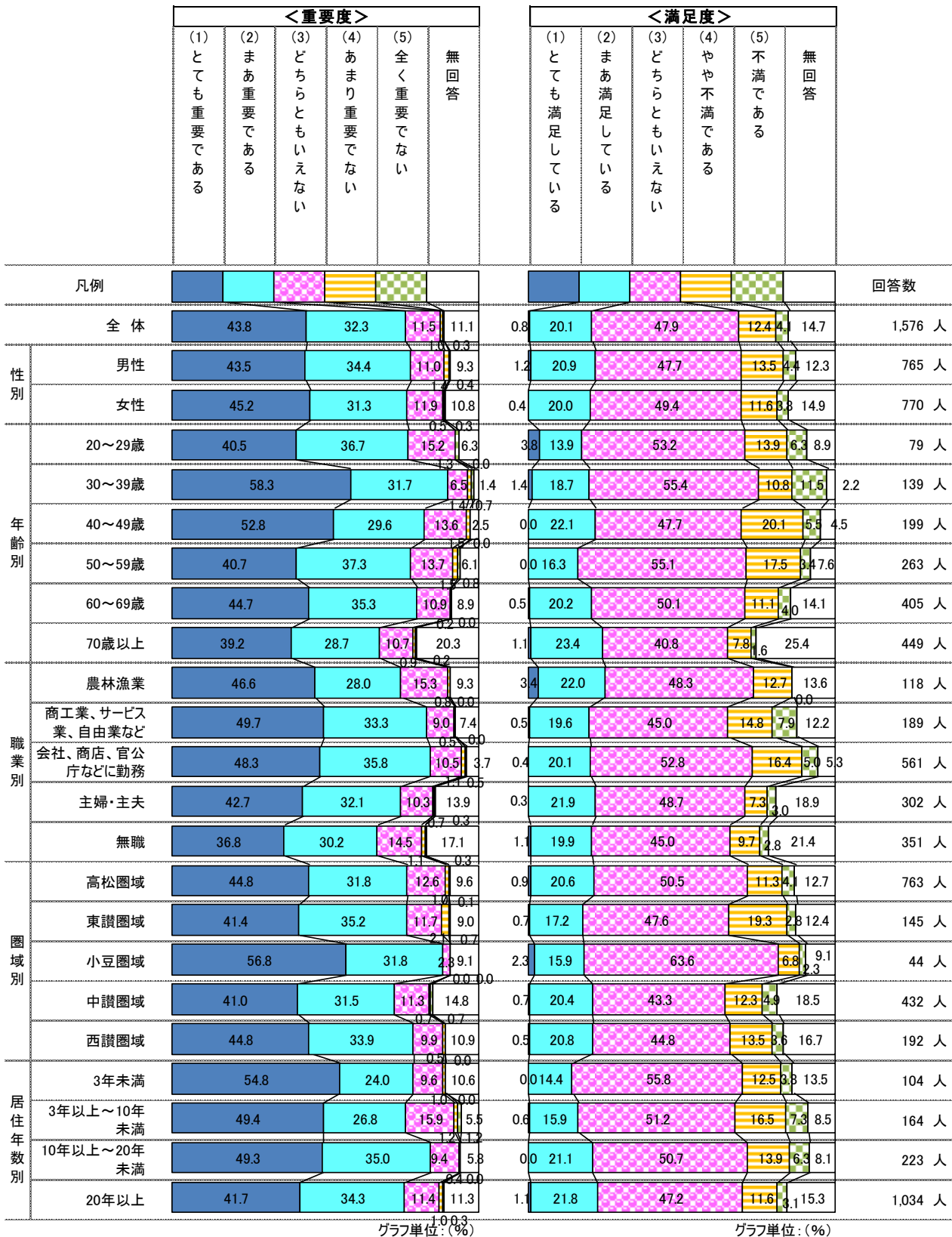
年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(13) 教育の充実



青少年の育成と県民の社会参画の推進【重要度】について、性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(41.7%)、『女性』(36.8%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進【満足度】について、性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(63.4%)、『女性』(60.0%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

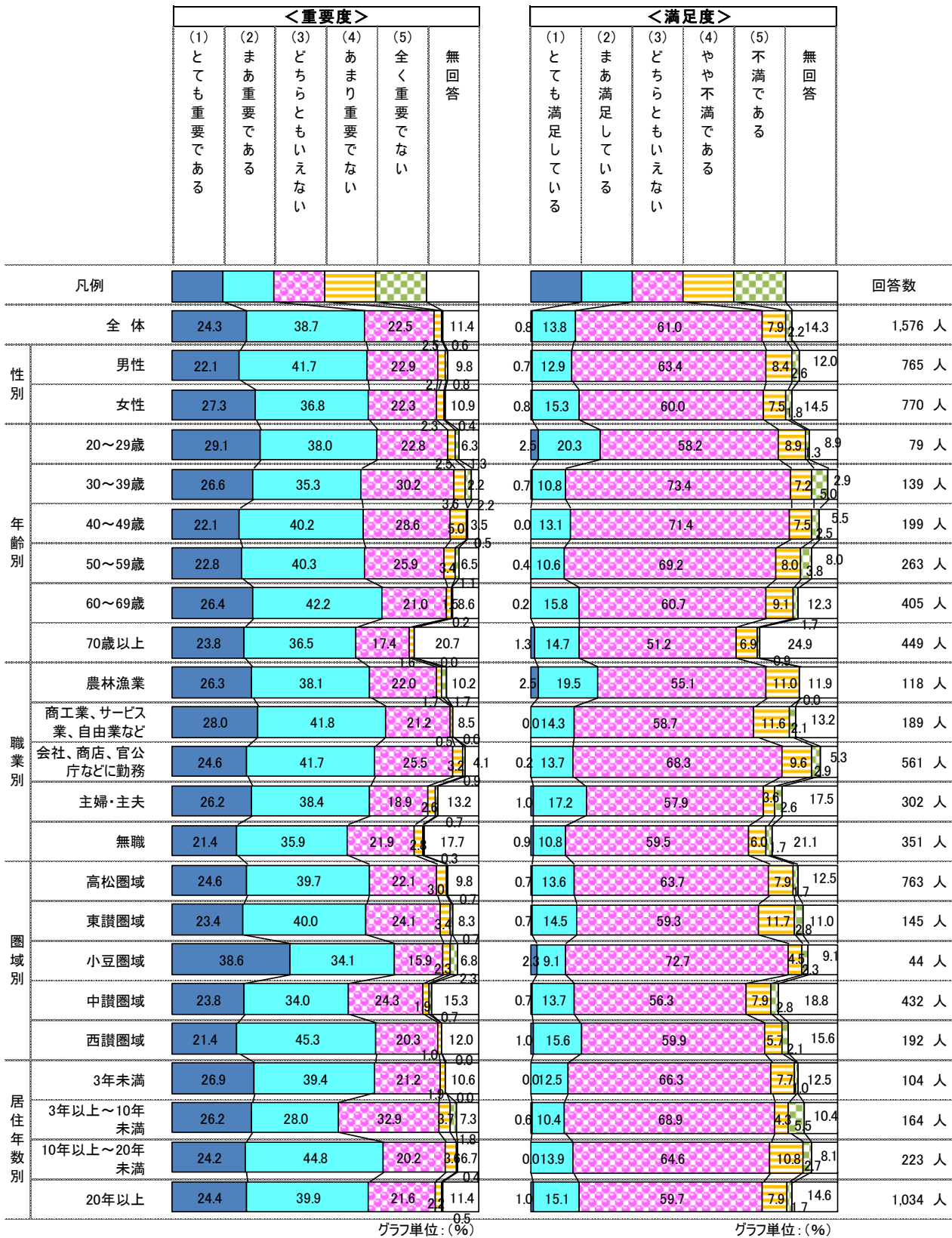
年齢別にみると、『30～39歳』、『50～59歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(14) 青少年の育成と県民の社会参画の推進



文化芸術・スポーツの振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(42.1%)、『女性』(37.0%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

文化芸術・スポーツの振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(57.0%)、『女性』(55.6%)となっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

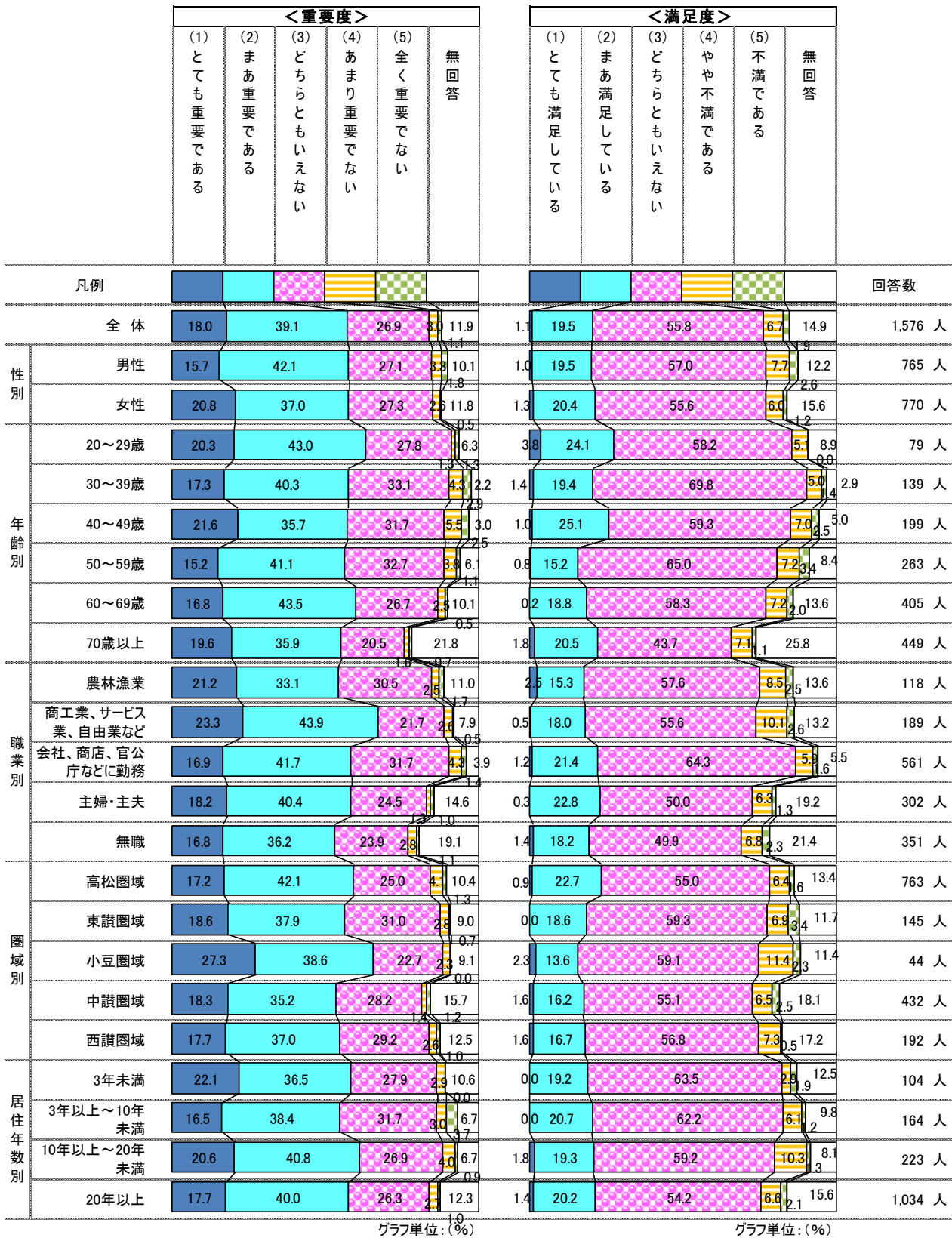
年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(15) 文化芸術・スポーツの振興



国際化の推進【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(33.5%)、『女性』(32.9%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

国際化の推進【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(64.1%)、『女性』(65.7%)となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『女性』では【満足している】が【不満である】を上回っている。

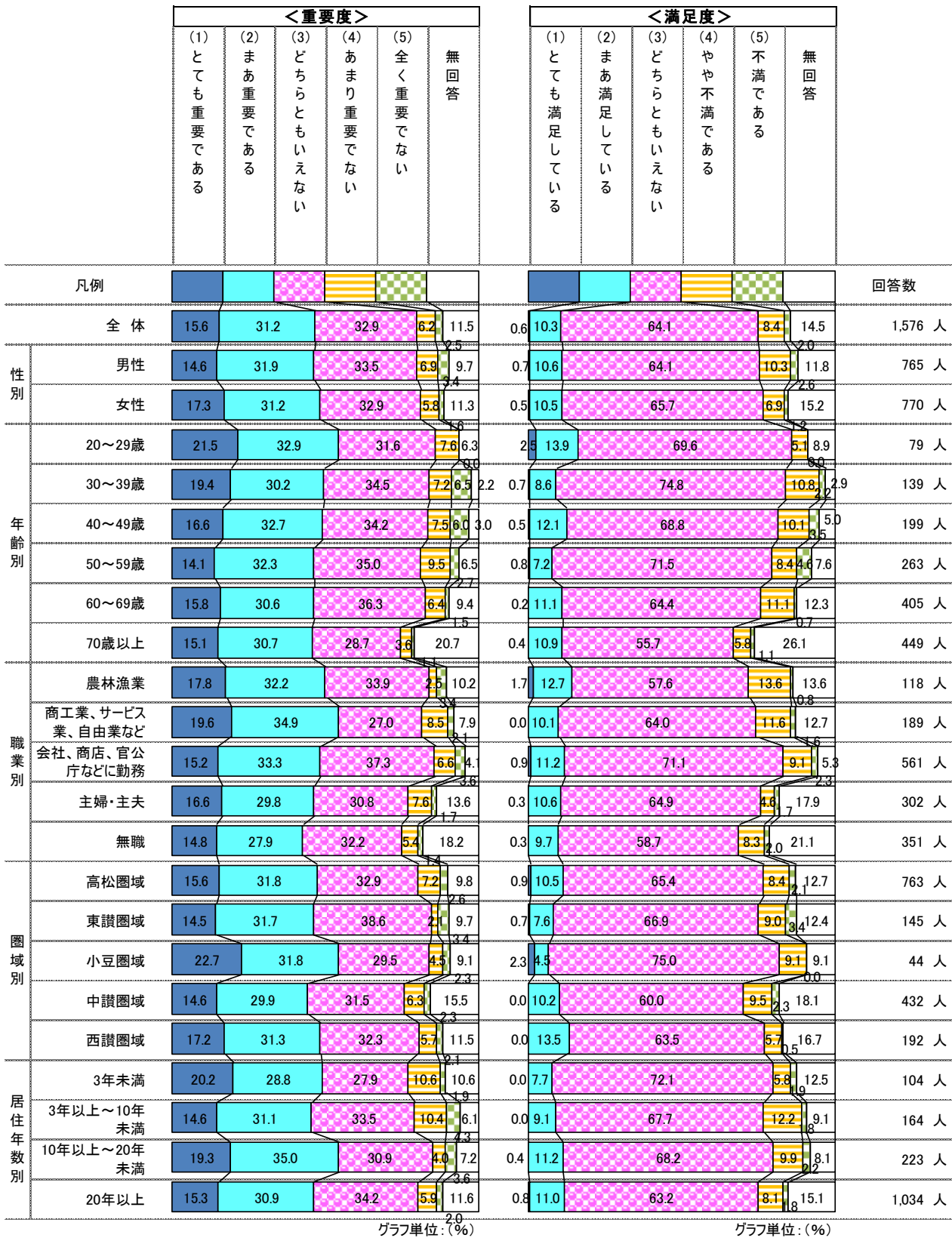
年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(16) 国際化の推進



多彩な地域づくり【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(36.3%)、『女性』(36.9%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

多彩な地域づくり【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(54.9%)、『女性』(56.9%)となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『女性』では【満足している】が【不満である】をわずかながら上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(17) 多彩な地域づくり

